

群馬県石造文化財総合調査報告書

# 道祖神と道しるべ

上州の近世石造物(一)

群馬県教育委員会

群馬県石造文化財総合調査報告書

# 道祖神と道しるべ

上州の近世石造物(一)

群馬県教育委員会

## 序 文

道端の石垣の上に肩を寄せ合う男女二神、憤怒の形相で邪鬼を踏まえる青面金剛、今は人通りも絶えた旧道の辻に斜めに立つ道しるべ、山裾に林立する百庚申の文字塔などなど。一時代前には、県内各所で普通に見かけた風景です。

最近の社会環境の急激な変化により、これらの石造文化財は危機に瀕しております。他処へ移動され、あるいは瓦礫の如く山積みにされ、首をもがれ、更には不心得者により持ち去られる石仏も少なからずあると聞きます。まさに石造文化財ご難の時代と言ってよいでしょう。

このような現状に鑑み、昭和五十八年度から三か年計画で「石造文化財総合調査」を実施して参りましたが、昭和六十年年度で一応終了し、近世石造文化財保護の基礎資料が集積されたと考えます。

夏の調査では、背丈をこえて生い茂る草を切り払い、日影ではヤブ蚊に悩まされ、冬には雪の下から掘り出した石仏の寸法を凍える手で測り、銘文を記録する。また写真撮影では、良い光線を求めて同じ崖を何回もよじ登るといった、難行苦行の連続であったと聞いております。調査に当たった県下七〇市町村二〇〇余名の調査員各位の、このようなご労苦と、各市町村教育委員会の担当職員各位をはじめ本調査に陰にご協力を賜った皆様方に、改めて深甚なる謝意を表する次第であります。

ここに発刊の運びとなった調査報告書が、県民各位に活用され、石造文化財ひいては民俗文化財に対するご理解と文化財保護思想の涵養の一助になれば幸甚であります。

昭和六十一年三月三十一日

群馬県教育委員会

教育長 千吉良 覚

# 目次

序文	1
凡例	1
口絵	1
上州の石造文化財(概論)	33
道祖神概説	49
上州の道しるべ	62
上州の道祖神(市町村別)	71
上州の道しるべ(市町村別)	259
道標一覧表	317
道祖神塔年代別造立状況グラフ	318
上州の道祖神分布図	319
石造文化財総合調査調査員名簿	321

## 凡例

一、本書は、昭和五八〜六〇年度に実施された「石造文化財総合調査」に於て、各市町村から提出された調査票をもとに、道祖神及び道標についてまとめたものである。

二、本書の編集は、石造文化財総合調査報告書編集委員会が行った。

三、口絵の写真は、調査票添付の写真のうちから適宜掲載した。

四、道祖神及び道標の一覧表は、市町村毎にまとめ、番号は市町村毎の通し番号とした。

五、表中の「形」については以下の通りである。

- (1) 道祖神 「双」はいわゆる一石双体の道祖神像塔。「別」は、別石の双体道祖神像。「単」は単体道祖神像。「文」は、文字道祖神塔(碑)。「殿」は、石殿(祠)形の道祖神。「自」は、自然石の道祖神。「丸」は、丸石神と呼ばれる道祖神。「棒」は、石棒のうち道祖神として祀られているもの。「他」は、その他の形態で道祖神として祀られているもの。
- (2) 道標 「独」は専ら道標として造立されたもの。「銘」は他の目的で造立された石造物に副次的に道標銘を付したもの。「磁」はいわゆる

る磁石形のもの。「丁」は丁(町)石を示す。

六、「所在地」は、大字以下の地名で示す。

七、「方量」は高さ、巾、総高で示し、高さは主体部(身部)を、巾は主体部の最大巾(但し、石殿、層塔等は屋蓋の最大巾)、総高は地上の最大高を示す。

八、「年代」は元号を用い算用数字で示す。なお、安政七年は「安政7」、寛政庚申年等は「寛政12」のように記し、年号が確定できないものは「不明」とした。

九、「銘文」、原則として調査票の記載のとおりとしたが、以下のように変更した箇所もある。

- (1) 異字・旧字は当用漢字に、変体がなは平がな、又は元の漢字に改めた。
- (2) 文字不明の箇所は「□□」、「□」のように示した。
- (3) 人数多数の場合は「嘉兵衛(外六名略)」「女性名五〇名略」のように記した。
- (4) 銘文の配列は、適宜変更してある。



六合村入山長平 (弘化3)



倉渕村権田山田 (宝永元)



前橋市関根町赤城神社



前橋市上石倉神明宮 (享保16)



高崎市柴崎町進雄神社 (正徳元)



前橋市西箱田 (元文5)



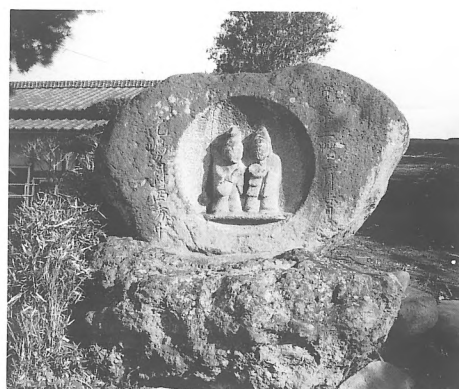
高崎市貝沢町 (文化15)



高崎市新保田中町 (文化14)



伊勢崎市倭文神社 (室暦12)



高崎市元島名町 (寛政12)



沼田市上久屋町 (元文4)



伊勢崎市波志江町 (安政10)





館林市堀工 (宝暦10)



沼田市下川田町 (安永 8)



藤岡市緑野  
百道祖神の1 (享和元)



沼田市屋形原町 (天保 6)



藤岡市下田野 (元禄 8)



館林市羽附



富岡市下黒岩砂田



富岡市吉田（明和4）



安中市板鼻（寛政9）



安中市安中（寛政5）



安中市板鼻（安政5）



北橘村箱田（天明2）



北橘村下南室（宝暦8）



赤城村長井小川田（文化4）



赤城村北上野（寛政4）



大胡町茂木 (寛政7)



富士見村米野 (天明4)



宮城村苗ヶ島 (寛政5)



富士見村市之木場 (宝暦14)



宮城村柏倉 (天明5)



大胡町河原浜 (文化9)

道祖神八



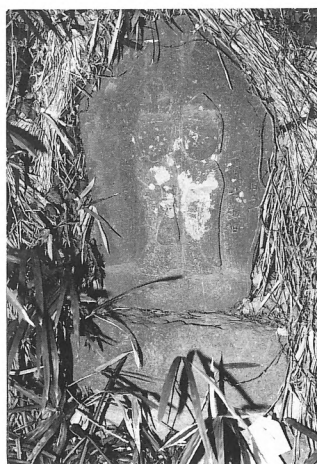
新里村高泉 (寛保3)



粕川村中 (天明5)



黒保根村古屋 (安永8)



粕川村月田 (天明9)



黒保根村湧丸 (寛政3)



新里村関 (弘化3)



榛名町中里田 (宝暦7)



(勢)東村神戸 (明和3)



倉淵村権田 (寛永2)



(勢)東村草木



倉淵村水沼 (安永7—中央)



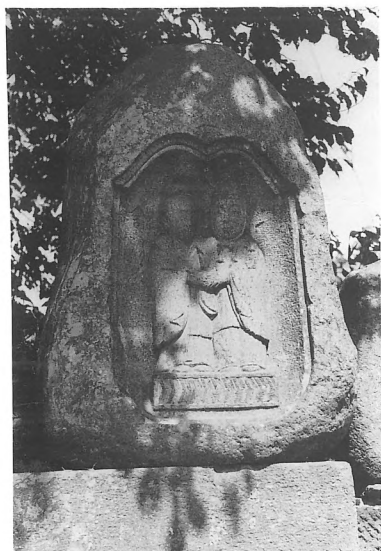
榛名町上里見 (天保11)



群馬町三ツ寺 (享和2)



箕郷町矢原 (文化15)



子持村上白井 (文化6)



箕郷町富岡



伊香保町伊香保



小野上村村上



榛東村山子田（寛政2）



小野上村村上（寛政12）



榛東村長岡帝（天明6）





新町 5 区 (文政10)



吉岡村北下 (文化12)



万場町八幡 (安政 4)



吉岡村北下 (明和 3)



万場町舟子 (文政 4)



新町 7 区 (寛政13)



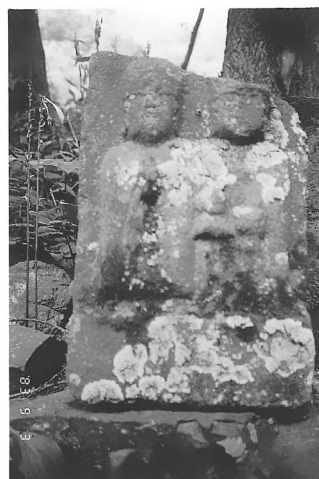
下仁田町青倉



中里村神ヶ原 (享保4)



南牧村羽沢 (安永元)



上野村乙母



南牧村門札



下仁田町西野牧



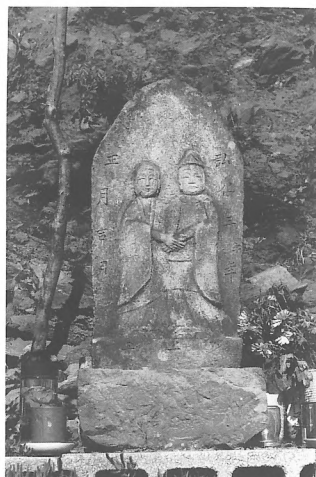
松井田町坂本 (弘化3)



甘楽町秋畑 (文化15)



中之条町上沢渡 (寛保3)



甘楽町秋畑 (弘化3)



中之条町五反田 (元禄9)



松井田町上恩賀 (天保15)



長野原町川原湯 (宝暦6)



(吾)東村御園観音 (文政12)



長野原町林 (宝永3~延享3)



(吾)東村屋敷入口 (文政4)



吾妻町金井 (文化4)



吾妻町川戸 (寛延3)



高山村中山新田 (嘉永 3)



草津町囀山 (安永 3)



草津町前口 (宝暦 9)



高山村中山原 (元文 5)



六合村世立 (天保 2)



利根村輪組 (延享 2)



白沢村下古語父



利根村多那



白沢村生枝 (宝曆 9)



片品村御座入 (文化元)



川場村門前 (安永2)



片品村築地 (安政2)



川場村湯原



水上町一畝田 (嘉永2)

道祖神十九



月夜野町上牧 (享和2)



水上町湯原 (宝曆2)



新治村布施



月夜野町後閑坂上



新治村下羽場 (延享元)





玉村町五料 (天明6)



赤堀村五目牛



玉村町角湊 (明和5)



境町東新井 (安永4)



新田町村田 (文政3)



境町北米岡 (文久元)



大間々町塩原



藪塚本町大原



大間々町浅原 (寛政11)



藪塚本町大原 (安永 8)



笠懸村鹿 (寛政 7)



千代田町舞木 (延享4)



明和村千津井 (享和元)



大泉町吉田 (安政2)

道標一



前橋市西大室町



前橋市上増田 (現市図書館)



太田市東本町



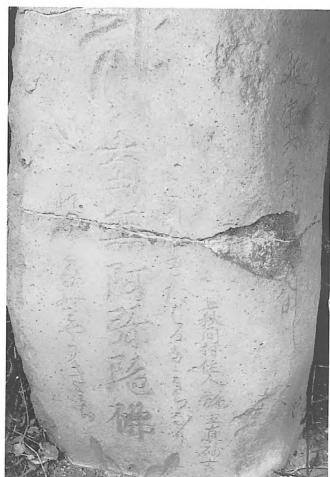
伊勢崎市倭文神社



館林市松原1丁目



沼田市町田町



安中市恵宝沢 (延宝6)



藤岡市藤岡1丁目



赤城村持柏木庚申塚



北橘村真壁



富士見村原之郷



新里村関前不動



大胡町河原浜



榛名町中室田江戸村



宮城村苗ヶ島



倉渕村三ノ倉



粕川村

道標四



小野上村村上



箕郷町東明屋



伊香保町水沢



群馬町井出



榛東村広馬場



子持村白井

道  
標五



南牧村小沢



吉岡村大久保



甘楽町秋畑



新町7区諏訪神社



松井田町松井田



万場町東塩沢





(吾)東村五丁田



中之条町大塚塩原



孺恋村大笹



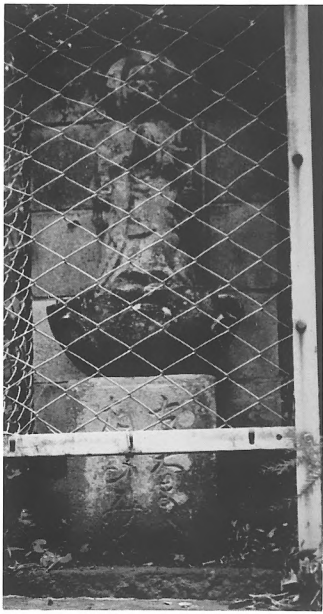
吾妻町大戸塩平



草津町泉水



長野原羽根尾



利根村穴原



高山村



川場村谷地 (天保11)



白沢村高平 (延享5)

道  
標  
八



赤堀村今井 (安永3)



片品村菅沼

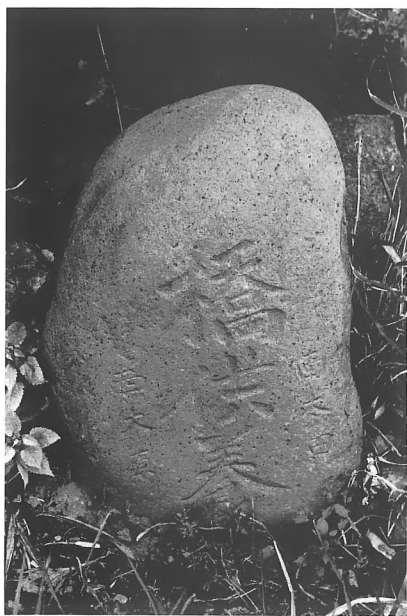


境町東町



新治村須川中原

道標九



藪塚本町



新田町中江田



笠懸村阿左美 (延享4)



尾島町大館 (嘉永4)



千代田町新福寺 (安永2)



板倉町実相寺 (正徳5)



大泉町古海 (寛延2)



明和村斗合田 (文政7)

# 上州の近世石造文化財（概論）

近藤 義雄

## 一、はじめに

近世石造文化財は、古代・中世に比べて非常にその種類が多い。石材はほとんど地元の安山岩を用い、中世のように凝灰岩や緑泥片岩を遠方から運んできて造立する例は稀である。近世は交通も発展し、物資の交流も盛んであるのに、中世石造文化財とその石材使用が地元中心であったのは何故であろうか。

中世石造物には、緑泥片岩の板碑が利根郡や吾妻郡などでもかなり大きなものも見受けられ、それらの石は遠く荒川上流や多野郡方面から運ばれたものである。また、凝灰岩の石仏や五輪塔など、その産地から離れた遠い地にもある。勢多郡赤城村宮田の石造不動明王像などはその好例である。その原因は特殊な信仰に基づくもので、加工技術が軟かい石材でなければ細工ができなかったわけではない。当時の密教信仰などによるという。

密教では石仏に着色して、より一層神秘性を高める必要がある、板碑は武士階層や僧侶などにより造立されたもので、当時の一般農民の手になるものではない。そこには、近世石造物と古代・中世石造物の信仰上の相違が深く係わっていたからである。

近世石造物は、古代が貴族や大きな権力者の造立、中世の武士中心の特

殊信仰に基づくのに対し、一般庶民層により造立されたのが大部分であるのが特色である。そこには、古代貴族の富も権力もなければ、中世のような切実な信仰に根ざすものでないのが大部分である。近世石造物も大部分が信仰遺物であるが、そこには中世のように戦乱のなかで苦悩し、信仰が生きていた時代ではなくなってきたことが窺える。

例えば、道祖神にしても泰平の世に庶民のユーモアを感じさせられる抱擁型のものが近世中期から多くなるが、そこには中世のような深刻な姿は全く感じられない。六地藏にしても、中世末の時代の人々は、輪廻車を廻してひたすら来世への悲願をこめて祈ったのであろうが、輪廻車孔をもつ六地藏石幢（輪廻塔）は、近世にはその姿を消し、僅かに洪川市の真光寺と子持村双林寺の寛永期のものが二基あるだけである。月待供養塔も非常に多く造立されてくるが、その信仰集団の講中の集りは、一部には切実な願いをこめて信仰する人もあつたろうが、大部分はレクリエーション的である。総じて、近世石造物には前代のような暗さがなくなっているといえよう。三猿の上に青面金剛が勇ましい姿で刻まれていても、封建社会への庶民の生き方は教えられても深刻さはない。遠国の神々や仏を刻んだ石祠や碑にしても、講中の人々は旅の安全・感謝であろうが、そこには信仰とともに多分にレクリエーション的なのがあつた。伊勢参宮日記などには京・大阪から四国の琴平までの社寺詣にかこつけた見物旅行であつたことが窺える。

このような大きな変化は、近世社会が泰平であつたことと庶民の生活文化が豊かになってきて、真の庶民文化が開花してきたことを示すものであろう。近世石造文化財は、庶民がその造立者であり、前代のような切実な

強い信仰の所産でないから、遠方から特殊な石材を運ぶことなく、身近な石材を用いて造立したのである。しかも、庶民にとっては記念物的意図もあるのか硬質の石を選び、いつでも容易に礼拝し、より多くの人の目に触れることのできる路傍や社寺の境内・墓地・塚などに造立されたのである。したがって、造顕された石造物は種類も非常に多く、多種多様であり、近世庶民の精神生活をより具体的に示してくれる文化遺産といえるのではなからうか。

なお、近年県下市町村で次々と近世石造文化財報告書が刊行され、また、市町村誌などでも近世の金石文として多く記録されてきている。以下これらを参考に本県の近世石造文化財を概観してみたい。

## 二、造立者

近世の各種石造物の造立者は、個人の惣村中の講中に大別できる。但し、個人名を刻んだものでも、多くは講中の一人として造立したものがかなりある。百庚申や千庚申には個人名を刻んだものが多いが、それは百庚申の一基を個人個人が分担したものであり、安中市下秋間の百馬頭なども馬頭講中の一員としてあげたものがかなり多いと思われる。

純然とした個人造立は、村の有力者が記念に奉納したとか、特別の信仰をもった家で造立するのであり、不慮の災害で子供を失った親が供養に地藏を造立する。或は行者が個人で不動尊を造立するなどである。一般に石神・石祠よりも仏像の場合に個人の造立が多いのも、それぞれの信仰に基づくからである。

惣村中の造立は、仏より神の場合が多い。鎮守の境内に造立者名のない石祠が多いが、それらの大部分は惣村中の造立であろう。道祖神、天王社（八坂祠）、水神などは路傍や池の中にあるがほとんど惣村中の造立である。

講中の造立例は、大きく二つに区分される。一つは村内の講で、その代表的な例は庚申講・月待講・馬頭講などであろう。庚申講は村落内に十数軒単位につくられることが多く、小さな村落では村中となることもあり、青面金剛像などはいくつかの講中がともに同一の像をまつる。月待講には女人講が多く、邑楽郡の渡良瀬川よりの地方には十九夜塔、太田市から西毛地方にかけては二十二夜塔が多く、利根郡地方には二十一夜塔が多い。時には十六夜塔・十七夜塔（太田市）などが見受けられる。これらのなかには、世話人は男性であるが講員は女性で、洪川市金井の二十二夜塔のように広範囲にわたる百人ほどの女性の信仰により造立されたものもある。念仏供養塔なども念仏講中の造立で、寒念仏塔や地藏像を造立しているものもある。建築関係の職人は、聖徳太子の碑や像を造立してまつる。珍らしいのは洪川市真光寺境内にある安政三年（一八五六）の一千職の碑である。一千職碑は床屋職人の講中四十数名により造立されたものである。天神社や道祖神は、惣村中の造立であろうが、その祭礼は子供が主役であった。

このような地縁集団・職業集団・信仰集団・女性集団、年齢集団などの地域の集団により、近世の多くの石造文化財は造立されたのである。

代参講中により造立されたものには、遠方の神々や碑がある。琴平（金毘羅）社・秋葉社・富士宮・諏訪社・八幡社をはじめ、出羽三山や阿夫利

山の石尊権現、御獄などの碑も各所にある。代参社は無事代参をすませた記念に鎮守に灯籠や狛犬・鳥居・玉垣などを献納した例も多い。伊勢参宮などは、代参者が村を立つときはお飯屋をつくり、留守中家族は道中の無事を祈ってお参りした。代参が一巡したのでその記念に石祠を造立したのであつたらう。

このように近世中期以後遠方の神仏への代参講が発展した背景には、有名社寺の御師とよばれる神人団の活動、或は行者・修験者等が先達となり民衆への布教活動が大きく係わつてきていたからである。なかでも御師の活動は盛んであつたようである。

御師の活動 近世も中頃になると、庶民の社寺詣にかこつけた旅行も多くなる。この旅行はたいてい講中をつくり、代表者を何名か送つて代参するのが一般的であり、その指導勧誘にあつたのが御師たちである。御師は秋の収穫後受持の村々を廻り、御初穂料を集めて代参者の参詣などの打合わせをする。その代参講が近世末にはかなり多くなり、講中では鎮守の境内に石宮をつくり有名社寺を勧請して拠り所とした。その結果どの村々にも遠方の神々の石祠があり、いまではどの神社の分社だか不明になつてしまつたのも多く見受けられる。

このような御師の活動は、神社や御師の財源にもなり、定例の外に社寺修覆や大祭などの資金勸化が次第に増加し、なかには偽御師の勸化まであり村人の負担となつてきた。その結果、村々では一定の御師以外は断る村議定までしている。一村だけでは断りきれないこともあり、連合村協定して排除することもできている。つぎに示す資料は、前橋藩向領三十三ヵ村議定書であるが、向領とは利根川右岸の旧群馬郡の前橋領で、文化十三

年（一八一六）に三十三ヵ村の名主・組頭・長百姓が連署し、村々に入つてくる様々なねだりを排除しようとしたものである。全体が八ヶ条になつていて、その一条目に「近年浪人躰之者、旅僧、修験、瞽女、座頭並御師勸化僧、難船之者等多数徘徊致合力勸化、初穂等過分にねだり取候故」とあり、その六条目につきのような一文がある。

一、御師之儀は

伊勢 津島 榛名 碓氷 鹿嶋 愛宕 戸隠 石尊右之御師先規之通取斗可申候臂先前参来之御師<sup>二</sup>而茂右之外百石<sup>三</sup>付三文差出可申候、何様申候共其余<sup>者</sup>差出申間敷候、且又新規之御師決而請不申候

（『総社町誌』福島博家文書）

右によると、この八社以外は百石に付三文以上は支出しない協定である。一般的にはこの八ヶ条は対象外として認められたのであり、これらの石祠が多くある村々にあるのも古くからの御師の活動と結びついていたからである。右のうち、伊勢・榛名・鹿嶋・戸隠はよく知られているが、津島は尾張の津島牛頭天王社で、一般には八坂様として村々に勧請されており、伊勢参宮にはほとんどが津島参りもしている。伊勢参りだけでは「片参り」といわれ、両者をお参りしないとよくないといわれてきている。碓氷は碓氷峠の熊野神社であり、石尊は相模の阿夫利神社である。石尊の場合には石祠よりも石碑や石灯籠などを造立した例が多い。

右の協定は榛名東麓の例であるが、県内各地で御師のくる神社が異なる。伊勢・津島は県内共通であるが、赤城・妙義・秩父三ヶ峰などの多くの講社が結成されている地域もあり、各地の石祠の相違はそれを証明してくれよう。代参講は御師の活動と関係深く、その講中により造立された石造物



はかなり多いものである。

### 三、種 類

近世の石造文化財の大部分は信仰遺物であり、民衆の個人または集団により造立されたものであり、いわば近世庶民信仰の重要資料である。

道しるべ、石橋などは、一見信仰に係わりなさそうであるが、道しるべのなかには有名社寺への道しるべが相当ある。近世庶民の三十三番札所巡りがさかんになると、郡単位にまで三十三番札所ができ、人々は道しるべを必要としてきた。なかには渋川市八木原の道しるべのように伊勢や四国の金毘羅まで示した天保四年（一八三三）の道しるべがある。古いものには有名霊場を教えたものの多いのもそのためであろう。また、石橋架橋に伴った橋供養碑もある。中山道の豊岡と板鼻宿との境の享和二年（一八〇二）の橋供養碑は古くからよく知られている。

信仰遺物が中心であることから、近世石造物を大別すると、神道関係・仏教関係・記念物になろう。記念物も大部分は神・仏いづれかに大部分が入れられるので、二大区分により記すこととする。

#### 神道関係

この種の石造物は石祠・石碑とその奉納品であり、なかには神仏習合時代のため神仏の両分野にまたがるものもある。庚申などは、青面金剛は仏教に属するが、庚申信仰は古く日本の山の神信仰の発展で、近世初期には石宮の庚申が多く、修験などが深い係わりをもっているので明確に区分し得ない。その結果、神道関係石造物は、近くの神・遠方の神・民俗信仰の

神・奉納品に大別する。

近くの神 一応上野国内に本社をもつ神々で、赤城神社・榛名神社・妙義神社・貫前神社・甲波宿弥神社などの石祠が多く、加茂神社や美和神社のような神々も上野十二社として古代から地方の本社のような役割を果してきているので土地の神とみてよいのではなからうか、鎮守の社殿裏に上野十二社の石祠の並んでいる例は各地にある。この種の石祠には、近くの山や川を祭神にして祀る地方的な例も多く、利根郡地方の武尊神社、吾妻地方の白根神社など、近くの山を祖霊の山として信仰し、村里に石宮を造立していたのである。

遠方の神 この種の神には、八幡・天神・八坂（牛頭天王）・鹿嶋・富士浅間などが多い。八幡神社は上野神明帳には登載されていないが、中世以来武神として源氏の守護神となり、やがて農業神としても広く信仰されて伝播した。八幡神の多くは宇佐の本社からでなく鎌倉鶴ヶ岡八幡からの勧請のようである。屋敷神として八幡石祠をもつ家も相当多い。天神は元来は怒霊信仰であり、菅原道真の霊を鎮めるため北野の神人団が祭つたのにはじまるが、近世は道真を学問の神とし、子供組に天神待などが普及し、近世中期以後の寺子屋の普及とともに各地に祀られるようになった。八坂神社は夏越しの疫病除けの神として全県に普及し、一部宿場には市神として祀られている。これは尾張の津島神社からの勧請が大部分である。富士浅間神社は、富士講などの発展により全県的ではあるが邑楽郡地方には特に多い。館林の浅間神社の初山詣の信仰もあるが、高く塚を築いて祀るので水害に苦しむ地方の人々の生活が一層富士信仰を盛にしたのかも知れない。鹿島や香取の石祠はそう多くはないが、代参講が普及していたから

であろう。この他熊野・春日・諏訪・出羽三山・相模の石尊様・秩父三峰・遠川秋葉などの神々が各地に見受けられる。

**民俗的な神** この種の神々は、特定の本社をもたないが全国的に分布している神が多いものである。十二様・水神・地神・疱瘡神・道祖神・稲荷などがこの種の神としては多い。稲荷の場合は、伏見稲荷や笠間稲荷を本社としてそこから勧請したものもあるが、屋敷稲荷が代表するように地の神であり穀物神である。水神は本地は弁才天であるが、多くは石祠であり、宇加神像や弁才天像は少ない。地神は東毛では大泉町小泉の社日様が広く知られ、渋川地方では堅牢地神として祀られている。道祖神は、中毛から西毛に多く、二神并列像か文字塔であるが、一神型も渋川市等にある。特に榛名山周辺と赤城山南面に多く、板倉町などには二神并列型は一基しかなく、太田市でも文字塔二基、二神并列型一基の計四基しかない。

**献納品** 神社境内には鳥居・水盤・狛犬・唐獅子・灯籠・玉垣などの各種献納の石造物がある。これらについては赤城の百足鳥居以外は大きな特色のあるものはないが、高遠石工の作になる鳥居などが赤城村などに多い。また、水盤では、渋川市の甲被宿弥神社の大蛇の形のものなどは特色がある。狛犬では碓氷熊野神社や粕川村月田の近戸神社などには中世にまで遡り得る古いものがあるが、他はすべて近世でそう古い銘のあるものも見受けられない。灯籠には赤城村宮田神社や妙義町の妙義神社に中世のものもあるが、他はほとんど近世であり、高遠石工の作が目立つ。また、世良田東照宮などには大名寄進のものもある。玉垣は有名社寺は講中寄進が多いが、榛名神社の塩原太助奉納のものは広く知られている。

#### 仏教関係

神道関係は祈願を主とするものが大部分であったが、仏教関係は供養のために造立された石造物がかなり多くなる。地藏信仰はその代表的なものであるが、宝篋印塔、回国塔などいずれも追善供養が大部分である。しかし、石像の多くは仏像であることから、仏教的立場で分類すると如来・菩薩・明王・天部・羅漢及び祖師像・供養に関する碑などに大別して概観することとする。

**如来** 釈迦如来・薬師如来・大日如来などが主で、なかでも薬師が古くから現世利益の仏として、厄除け・治病の信仰から造立されてきた。願果しに奉納された小さな薬師像がまわりに沢山あるのもよく見受けられる。釈迦如来は禅宗寺院では本尊に安置しているがそう多くはない。大日如来は修験や真言宗に多く尊崇された仏で、地方によってはかなり多い。渋川市内だけでも四〇体近い大日如来の石像があり、赤城村では一八体もある。それに比べ新田町では四体、板倉町では四〇体、伊勢崎では二体と文字塔四基である。この大きな地域差は、渋川市や赤城村では修験の影響が大きく、特に角田無幻などの影響が考えられる。また、板倉町の場合はほとんどの寺が真言宗であることにもよるのであるか。一方、伊勢崎に少ないのは、天台宗や禅宗が多く、真言宗の教線が弱いことが考えられる。

**菩薩** 観音・勢至・地藏が菩薩の代表的仏である。観音には多くの種類があり、なかでも一番多いのは馬頭観音である。馬頭観音は元来三面六臂の忿怒像で、除魔の仏とされていたが、近世の信仰は馬を加護する仏として信仰され、愛馬の死後供養のために造立されたものも多い。伊勢崎市の場合、馬頭は一五六基で文字塔が大部分である。同市の三光町の嘉永五年(一

八五二)の馬頭観音碑には「大館村付方中」など二〇か村余の村名が刻まれてあり、問屋を中心とした交通業者や馬喰などの寄進であろう。馬が交通業者や農民にとっていかに重要な役割を果たしていたかを偲ばせる珍しい碑といえよう。しかし、地域的にはかなりの相違がある。赤城村の二八六基に対し、板倉町二五基と少ない。平野部より山寄りが一層馬と人間の係わりの大きかったことを物語る。安中市下秋馬の百馬頭も珍しい例であろう。

地藏菩薩像は、全体的に平均して多い。中世以来地藏信仰が盛んになり、近世になると墓地の入口に六地藏を並べた例も多い。不慮の死者の霊を供養するための地藏を造立した例も各地にある。子持村双林寺と洪川真光寺境内にある寛永年代の六地藏石幢は、輪廻車孔をもつものとして、戦国時代以後ほとんどなくなったなかに珍しい例であろう。元禄・享保の頃の六地藏石幢は各地で見受けられるが、輪廻車孔をもつものは見当らない。一石三体・一石六対を並べたものもある。

なお、榛名山周辺には、榛名神社の本地仏である勝軍地藏が何体か見受けられる。その勝軍地藏が板倉町に一体あるのは珍しい。榛名神社とは特に係わりはなさそうである。また、この他菩薩界の像には虚空蔵・文殊・馬鳴などの菩薩も数は少ないが各地に見受けられる。虚空蔵は赤城信仰・馬鳴菩薩は養蚕との関係がある仏像である。

明王 不動明王・愛染明王・閻魔王・十王などが明王部の代表的な仏像であり、不動は修験と深い係わりあり、大日の変身として災難除去・治病の仏として古くから信仰され、修験の行場となる滝のあるところや山村に多く見受けられるが、元禄以前の作は少ない。珍しいのは尾島町安養寺



尾島町安養寺明王院の千体不動

の千体不動であろう。江戸浅草の石工による延享四年の作である。

十王・閻魔王は、地藏・奪衣婆とともにセットで造立されている例が多く、地藏十王経に基づくものである。中毛から北毛地方に多く、利根郡地方では曹洞宗寺院の境内や墓地に見受けられることが多い。群馬町引間の十王堂(公開堂)には、近世初期の石像が一セット揃っている。

愛染明王は、紺屋の職人が愛染講をつくり祭る。高崎市下小鳥町の蓮華院が宝永五年(一七〇八)であるから県下では早い例のようである。

天部 毘沙門天などの四天王・大黒天・摩利支天などがある。なかでも広く見受けられるのは大黒天であり、大黒講中により造立されるのが多い。甲子構も大黒天の神使が鼠であることから大黒講と同様である。五穀豊穡と福徳をもたらすとして信仰され、丸彫像が多い。県内では近世中期以後で、そう古いものはない。摩利支天像は修験者や剣を学ぶ人などに祭られる。吉井町馬庭念流道場の樋口家の庭に祭られているのはよく知られているが、ほとんどが近世中期以後のものである。また、毘沙門天は忿怒相の武神像で、上杉謙信の深く信仰していた関係から長尾氏とも関係がある。

伊勢崎村豊城町の連神社には室町時代の石像がある。同市には他に三か所も室町時代の石造毘沙門天像がある(『伊勢崎の近世石造物』)のは珍しい。長尾氏との係わりがあつたのであろうか。しかし、近世の石像は非常に少ない。

羅漢及び祖師像等 五百羅漢は川越市の喜多院が有名である。県内にも何か所あり、藤岡市の七興山古墳の中段の五百羅漢は心ない者の仕業により頭部が欠けているのが惜しまれる。祖師像では弘法大師像が多い。榛名町の室田地方から西には小字毎にあつたようである。二十一大師ともいわれ、二十一カ所に造立され、それを札所巡りのように巡拝したのである。特に真言宗との係わりはなさそうである。

供養塔・日待・月待塔 供養塔には經典供養・回国供養の塔が多い。墓地には三界万霊供養塔や宝篋印供養塔が多く見受けられる。いずれも近世中期以後で、寛永期まで上るものはほとんど見受けられない。念仏塔も供養塔であるが、百万遍念仏・寒念仏などあり、一字一石供養塔も数は少ないが各地に分布している。日待・月待塔では、十六夜塔から十七夜・十九夜・二十一夜・二十三夜・二十六夜塔などが県内にある。いずれもそう古いものはない。近世中期以後であり、その分布は既に記したように特色あり、十六夜・十七夜・二十六夜は稀であり、十九夜は邑楽郡でも渡良瀬川よりに、二十二夜は中毛に、二十一夜は北毛に多い。それでも十九夜塔が渋川市や六合村、嬭恋村・下仁田町・南牧村などにも一―二基見受けられるのは、古くは十九夜が西毛地方にまで広く信仰されていたのであろうと都丸九一氏はいう。月待は女人講が主で、月の上るのを念仏を唱えながら拝んだのである。

庚申塔も供養塔の一種である。庚申講は日待講で、六十日目、或は六十年目にめぐってくる庚申の日や庚申の年を祭る講である。県下では桐生市川内町の千手寺庚申七面塔が古く、七地蔵を龕部に刻み、二段の竿石に「奉大乘之部 石燈供養 六道能化地藏 薩埵尊容 現世安穩 後生善処也 天文十七年 戊申八月日 庚申七面塔 西小倉村旦那椅会座」(『桐生市の文化財』)とあり、地藏信仰と庚申信仰が合わさっている。庚申単独のものも寛永期からのものが何基もあり、群馬町引間諏訪神社境内の「寛永十年<sup>癸酉</sup>十月朔日 奉造立石塔一基 庚申供養」とあるのは早い例であろう。一般に早い時期の庚申石造物は石祠型や塔型・舟型・光背石塔で、五重塔型は北毛地方に多く見受けられる。青面金剛像は寛文から享保期頃までのものが多く、東毛にすぐれたものが目立つ。千庚申は少例であるが百庚申は各地にあり、群馬町足門には嘉永三年(一八五〇)に一石百通りの書体で庚申と刻んだ塔もある。

庚申塔の造立は個人名のもも多いが、講中の一員として造立する場合が多く、庚申の年には特に多く造立されている。太田市の場合庚申塔二二五基中、寛政十二年(一八〇〇)六六基、万延元年(一八六〇)八八基で、この二回の庚申の年に一五四基も造立された。

#### 四、地方差・時代差

地域差 近世石造物は、その種類も多く地方的に相違の目立つものもある。概していえば、数量的には神流川の谷は特に少なく、榛名山周辺が最も多く、赤城西面から南面および桐生周辺にかけて山寄りがこれにつく。

また、石造物の種類をみると、道祖神は東毛に少なく、中毛・西毛・北毛に多い。特に榛名山周辺は多い。また、十王石仏なども東毛に少なく、利根郡から赤城西面および北群馬郡・群馬郡などに多い。しかし、十九夜塔は館林市から板倉町にかけて多く、中毛・西毛・北毛にはほとんどない。一方二十二夜が中毛に、二十一夜が北毛に多い。

このような地方的に種類を異にするのに対し、全県的に多いのは庚申塔と馬頭観音と地藏・回國供養塔などで、若干の濃淡はあるが全県下いたるところに見受けられる。また、数的には多くないが、どの地方にも何基かあるものには八坂・天神などの石祠がある。限られた特定地域にあるものでは勝軍地藏がある。堅牢地神の碑は渋川市を中心とする地方には少例ではあるが目につき、他地域には極めて稀である。勝軍地藏は榛名神社の本拠地であるから榛名山周辺、特に吾妻郡地方にあるのは理解できるが、堅牢地神の場合はどのように解したらよいのであろうか。関東天台の名僧尊海が弘安八年（一二八五）二月に記した起請文には

#### 立申圓頓房尊海起請文事

右件元意者、被接の断位の法門相伝しまいらせしを、尊海の一期に補掇弟子一人よりほかに、二人までにおしへず候。弘めをもし候ものならば、上は梵天帝釈をはじめたてまつりて、四禪八定天衆、下にはけんらう地神等、悉一切の諸神、惣者日本六十余州大小神祇、とをくは十方三世一切の三尊の御はちを、尊海が身のうへにあたりて、現世にみやうがなく、後世には三悪道におち申べく候、仍起請文帖如件。

弘安八年二月十八日敬白 尊海判

（河田谷十九通）

とある。鎌倉時代の起請文にまで記された堅牢地神は、恐らく当時は地の神として広く一般に信仰されたものであろう。それが次第に忘れられ、僅かではあるが、渋川地方以外にも何基かその石碑があるのは、かつては広く一般的であったことによる。渋川市、子持村、赤城村などに多く見られるのは、この地方の修験か特定の仏教徒などの指導があったかと思われるが、古い時代は各地で祭られていたのが次第に忘れ去られ、一部近世末に復活したように考えられる。このような観点からみると、十九夜塔が板倉町に多く、遠く隔てた六合村や南牧村にあるのも、古くは全県的に十九夜の信仰があり、それが二十二夜、二十三夜の信仰に次第にうすめられていったのが中毛・西毛地方の月待信仰の変化ではなからうか。

つぎに、同一信仰のもので、地方によりその石造形式の相違が見られるものもある。その好例は既に記した五重塔型の庚申塔が利根郡から北群馬郡地方に多いのがよく知られている。なお、庚申や道祖神は別項で詳述しているので参照していただきたい。

時代差 近世の石造物の造立年代をみると、その種類によって時期に相違がある。近世初期から見えるものは、石殿・石祠、燈籠、道祖神、庚申塔などに早い例が見られる。石殿・石祠は群馬では南北朝時代からあり、近世初期のものも西毛地方ではかなりある。一般に草屋根風の寄棟造りや入母屋造りに中世末のものがあり、流れ造りでは中世のものほとんどない。しかし、入母屋造りや流れ造りの場合、棟の両端に魅面を刻んだものが近世初期に見られる。主に寛永期を中心とした前後のころのものに多く、元禄期以後は鬼面をつけた石殿・石祠はほとんどなくなる。木造の寺院建築を模したものであろう。

石灯笼も中世銘のものが県内にはある。近世初期に大名が東照宮などに奉納したのにならい有力庶民が社寺に奉納しはじめる。太田市別所の円福寺には大猷院殿前に高村撰津守忠房の寄進した慶安四年（一六五五）の石灯笼があり、同市大光院には延宝二年（一六七四）の阿部播磨守正能寄進元禄十一年（一六九八）酒井下野守忠寛寄進などがある。庶民奉納では、新田町小金井の東雲寺に山崎兵左衛門寄進の寛文八年（一六六八）があり、同町上田中の長慶寺にも寛文十一年の灯笼がある。これらは庶民奉納では早い例であろう。元禄期になると各地に庶民奉納例を見かけるようになる。

道祖神・庚申については別項で詳述されるので省略するが、寛永期の道祖神は僧形であり、元禄期には坐り雛の形のものがある。烏川上流地方に古い道祖神が多く、抱擁型は十八世紀後半から見られるようになる。また、青面金剛像は十八世紀前半のものが多い。

つぎに総合的にみて、庶民の石造物を造立するのが一般的にいつ頃から多くなってくるのだろうか。十七世紀末（元禄期）から多くなるのが一般的であるが、本来道祖神や青面金剛像など信仰対象の石神・石仏は、一度造立すれば滅失しない限り新たに造立しなくても足りるはずであるが、時代とともに増加してくる。旧群馬郡四カ村の『府中資料集成二輯』では二十年おきに集計した表があるのでまずそれを示すと一表のとおりであり、資料の関係から約半世紀毎に『太田市石美術調査報告書』と『赤城村の石造物』をまとめると二表のとおりとなる。十七世紀後半から増加し、更に十八世紀後半は急増している。それは庶民の力が次第に大きくなるのを数的に表現されたとみてよいのではなからうか。この近世石造物の増加と反比例になるのが農村人口の減少であり、それは農民の消極的反抗を示すも

のであり、幕藩体制の封建社会が次第に崩れかけたことである。石造物造立の増加は庶民勢力の伸張を示すものといえよう。まして道祖神などのようにユーモア的表現が増加してくるのは一層それを感じさせよう。

（表1） 旧群馬郡四町村の近世石神・石仏年代別集計表

年代	種別	庚申塔	道祖神	夜十二塔	馬頭尊	廻供国養	八神坂社	念養納経 念仏供	その他	計
寛永以前		1	0	0	0	0	1	12	15	
寛永以後	一貞享 4	7	0	0	0	0	0	2	11	20
元禄	元一宝永 4	3	0	0	0	0	4	2	9	
宝永	5一享保 12	7	2	1	1	10	0	14	5	40
享保	13一延享 4	9	3	0	1	5	0	19	6	43
寛永	元一明和 4	3	8	2	2	6	0	15	6	42
明和	5一天明 7	3	5	2	6	7	0	17	13	53
天明	8一文化 4	16	3	5	2	3	3	5	9	46
文化	5一文政 10	8	1	4	4	3	0	3	10	33
文政	11一弘化 4	10	2	8	3	1	1	1	9	35
嘉永	元一慶応 3	20	2	4	8	3	2	1	18	58
明治	元一明治 20	2	0	1	5	0	0	1	17	26
明治	21一明治 40	12	0	0	0	0	1	1	11	25
明治	41一大正 15	9	0	1	7	1	2	2	4	26
昭和元年以降		21	1	0	0	0	2	2	5	31
年号不明		500	17	3	14	3	5	12	98	652
合計		631	44	31	53	42	17	100	236	1154

※ 旧群馬郡4町村は清里村、金古町、国府村、総社町で、区分は明治元年を基準とし、20年間隔で集計した。

(表2) 村別、年代別近世石造物比較表

年 代	町 村 名	
	赤 城 村	太 田 市
元 和 元—明 暦 3 1615 — 1657	11	2
万 治 元—元 禄 14 1658 — 1703	48	74
宝 永 元—寛 延 3 1704 — 1750	151	271
宝 暦 元—寛 政 12 1751 — 1800	362	409
享 和 元—嘉 永 6 1801 — 1807	308	255
安 政 元—慶 応 3 1854 — 1867	133	164

※本表は『赤城村の石造物』・『太田市石造美術調査報告書』の年号別集計表から約50年間隔にまとめた。年号別集計では長期のものとの差が大きく、傾向をつかむのには適当でないため、集約した。

## 五、石 工

石工と刻んだ石造物は中世にはほとんど見受けられず、石大工・大工と刻まれている。当時は梵鐘や懸仏を鑄造した職人も大工であり、大工とはそれぞれの職人の頭の称である。榛名山墓地の暦応四年（一三三九）の石造宝塔には「大工吉宗」とあり、赤城村宮田神社境内の嘉吉三年（一四四三）の石燈籠には「大工道心」とある。

中世の上州の石大工は、当然近世へその技を伝えたであろうが、伊派の技術が伝えられたことが考えられる。伊派は、鎌倉時代初期に東大寺大仏殿再興に従事し、その子伊行吉とともに活躍して伊派は各地に伝播した。

その伊派の石大工たちは「行」「吉」などの一字を名に加えることが多く、榛名山墓地の宝塔などはこの伊派かとも考えられる。すぐれた中世石造物にはこの伊派の系統かと思われる関西風のものも見受けられる。

近世になると、庶民の造立による石造物が急増する。しかし、中世以来の石大工の系統をうけた上州の石工たちも相当いたのであるが、上州で生まれた石工集団といえるものは見当らない。江戸や信州の石工集団の影響が強かったようである。

江戸石工 江戸の石工集団は、江戸城の築城と大いに関係がある。徳川氏は太田道灌以来の江戸城を文禄元年（一五九二）、慶長九年（一六〇四）から寛永十三年（一六三六）にかけて大規模の拡張工事を行っている。このとき、全国各地から石工を江戸に集め、石材などは諸大名に命じて江戸に輸送させている。伊豆方面からも大量に海上輸送されたようであるが、上

州からも利根川の水運により石材輸送がなされた。前橋市下大屋町の産泰神社境内には江戸城の石を截出したと伝える場所があり、社殿東北の境内地に人口の崖がつくられている。

このように江戸城修築に集められた石工たちは、城の完成後も日光造営をはじめ各地の徳川氏をはじめ大名の社寺修覆があり、そこに献納する石燈籠や鳥居の製作にあたった。その為江戸には石工集団が形成され、関西から来た石工は和泉屋、伊勢屋などという石工集団をつくり、江戸に本拠を構えた。その江戸石工の集団は、当然上州へも大きく影響し、近世石造物に江戸石工の名が比較的早い時代に見える。

県内の江戸石工の作例をみると、東毛から中毛にかけて見られる。館林市の茂林寺境内元禄三年（一六九〇）の銅製聖観音像の台石には

従江戸運石其外指図 川俣村金右衛門重春  
江戸松尾町泉屋助右衛門

（『六郷・三野谷の石仏』）

とあり、この聖観音は有名な高瀬善兵衛の關係者によるものである。

また、甘楽郡妙義町の妙義神社本社前の石垣中央の銘文には

延享甲子六月

石階造修工匠武州江府靈岸島近藤利兵衛

とあり、同社の宝暦六年十二月一日の棟札は

信州高遠石切 二六人

江戸石切 一人

とある。県内で最も見事な石垣といわれる妙義神社の石垣は、古くは江戸石工により、後に高遠と江戸とあるから、江戸石工の得意とする城郭風

の立派な石垣が完成したのであろう。『太田市石造美術報告書』には、小舞木の円養寺の正徳元年（一七一）の地藏菩薩像が「江戸浅草 石工五郎兵衛」とあり、『伊勢崎の近世石造物』には、宝暦十二年（一七六二）の昭和町天増寺地藏丸彫像台石に

宝暦十二年<sup>壬午</sup>六月廿四日 天増寺現住万機代

尊像世話人 武州提村 戸矢三良左衛門

石工 江戸北八町堀 和泉屋 治良右衛門

とある。この外尾島町の安養寺の千体不動（延享四年）、前橋市下大屋町産泰神社の水盤などが知られている。

以上からみて、江戸石工は近世中期以前の作が多く、有名社寺などに奉納する石造物や工事などが主のようであり、城郭の石垣技術を生かしたものが多かったのではなからうか。安養寺の千体不動などは、ピラミッド状に組み上げられたものであり、妙義神社の石垣はよくそれを物語る。また、江戸石工の作品分布は、主に中毛から東毛のようであり、江戸中期以後は信州高遠石工や上州在地の石工たちが発展し、特殊な社寺に限られたようである。なお、小花波平六氏研究による近世末の江戸石工十三組の表を参考までにつぎにあげておこう。

#### 江戸石工十三組

- |      |     |                   |
|------|-----|-------------------|
| 1本所組 | 二四人 | 本所新坂町山口屋平四郎ほか     |
| 2浅草組 | 二八人 | 浅草観蔵院門前真間田屋忠左衛門ほか |
| 3柳原組 | 三一人 | 浅草万蔵寺門前和泉屋九兵衛ほか   |
| 4筋違組 | 二六人 | 神田旅籠町和泉屋与四郎ほか     |
| 5谷中組 | 一四人 | 自性院門前和泉屋安兵衛ほか     |



6 駒込組	一三人	小石川和泉屋五郎兵衛ほか
7 市ヶ谷組	一七人	牛込原町平田屋四郎右衛門ほか
8 四ッ谷組	二三人	四ッ谷伝馬町遠州屋清兵衛ほか
9 麻布組	二二人	麻布六本木高井屋五郎兵衛ほか
10 伊皿子組	九人	伊皿子町伊勢屋与兵衛ほか
11 芝組	八人	三田四丁目遠州屋八左衛門ほか
12 八丁堀組	四二人	京橋東石田屋左右衛門ほか
13 深田組	一一人	深川平野町岩槻屋源兵衛ほか
合 計	二六八人	

〔伊勢崎の近世石造物〕 八三八頁

**高速石工** 江戸石工が近世領主と結ばれて比較的早くに上州へ進出したのに対し、高速石工が上州で活躍するのは一時代遅れてからのようである。それは、近世庶民勢力が台頭する江戸中期からで、上州にその作品が残っているものでは富岡市七日市の金剛寺入口の「高速町 石屋 上原甚兵衛」と刻まれている元禄四年（一六九二）のが最も古いといわれ、享保期になるとその作例が多くなる。

群馬県で高速石工に早く注目していたのは住谷修氏である。昭和二十五年に住谷修・榎田宏・阿久津宗二・近藤義雄が国府村・金古町・清里村・総社町の旧四町村の石神・石仏を調査し、府中資料集成第一集『郷土信仰資料篇』（近藤義雄編）として刊行した際、高速石工の上州進出について話しておられた。その解説にも注目すべしと記されている。その後同氏は各地の高速石工の作例を調査され、現在は相当多くの高速石工の作例を調査され、現在は相当多くの高速石工の作例を記録されている。なお、府中

資料集成のなかにも、金古町四ッ家常仙寺入口の文化十二年の二十二夜塔に「石工 信州高速 御堂垣宿 中屋太蔵」などが記録されている。その後県内の町村誌や県教委の民俗調査報告書、『勢多郡誌』編纂過程でも多くの人が高速石工の上州進出について注目するようになった。近年故今井善一郎氏が『群馬歴史散歩』一〇号（昭和五〇年）に信州高速石工のリスト作製を提案し、以後同誌に各地の報告が散見し、『伊勢崎の近世石造物』には板橋春夫氏の小論が掲げられているのが注目される。

以上が群馬県下における高速石工研究の歩みであるが、一方高速の地元研究者たちも『貞治の石仏』刊行以来『高速町誌上巻』に大塚省悟氏が群馬県下の高速石工の分布図や多くの作例を紹介している。今回の県内近世石造文化財の悉皆調査では、更にその作例が多く記録されているので注目していただきたい。

群馬県下における高速石工の進出状況を見ると、西毛から中毛地方に多くその作品をみることが出来る。既刊の市町村別石造文化財調査報告からみると、板倉町には高速石工の作例は一基もない。館林市『六郷・三野谷の石仏』には、文化六年（一八〇九）と天保一四年（一八四三）に灯籠が二例あるだけで、『太田市石造美術調査報告書』には、別所円福寺境内の文政二年（一八一九）の千手観音像に「石工信州高速領北原村北原九兵衛信行作」とあるのが一例だけである。但し、円福寺の安政二年（一八五五）の水盤に「境町石工北原玄蕃好視・朽木常吉」とあるのは、境町に住みついた高速石工であろう。高速石工の上州進出は太田辺が一応の境界のようである。

一方、西上州にはその作例が多い。『赤城村の石造文化財』には、享保

三年（一七一八）の青面金剛像を初発に、銘文の明らかなものだけでもつぎの一七基がある。

- 1 青面金剛像 享保三年 溝呂木クラブ入口  
「信州高遠 保科安之丞作」
- 2 青面金剛像 享保七年 上三原田蟹谷戸地藏塚  
「信州高遠領 石屋彦四郎」
- 3 青面金剛像 元文元年 津久田高科十王堂  
「石屋 信州高遠 安三郎」
- 4 鳥 居 宝暦三年 津久田赤城神社  
「石工 安兵衛」
- 5 鳥 居 明和四年 津久田西谷稲荷神社  
「石工 新助」
- 6 鳥 居 安永九年 長井小川田清水  
「石匠 高遠 伊藤新助」
- 7 鳥 居 天明七年 津久田八幡神社  
「石工 伊藤新助 同新五郎」
- 8 鳥 居 寛政三年 長井小川田八幡神社  
「石工 伊藤新助」
- 9 鳥 居 寛政八年 勝保沢諏訪神社  
「石工 伊藤新助」
- 10 灯 籠 寛政六年 溝呂木諏訪神社  
「信州高遠住 石工 伊藤新助重信」
- 11 灯 籠 文化八年 津久田八坂神社

「信州高遠野田笹村 保科要蔵」

12 灯 籠 文化八年 長井小川田八幡神社  
「石工信州高遠 伊藤平右衛門」

13 灯 籠 文化十二年 敷島高瀬六〇—三  
「石工信州高遠 保科要蔵」

14 宝篋印塔 安永五年 津久田小池原観音堂  
「石工 信州高遠彌勒邑 新助 直七」

15 宝篋印塔 寛政元年 溝呂木天神上り墓地  
「石工 高遠彌勒村 伊藤新助 同友八」

16 宝篋印塔 文化元年 溝呂木大蓮寺墓地  
「石工 信高遠 源蔵 次兵衛 政孝」

17 宝篋印塔 文化七年 津久田北原青木家墓地  
「石工 信州高遠住 飯塚源蔵 同政吉 同庄蔵」

以上のように赤城村では享保期からはじまり、初期には庚申の青面金剛像などを彫り、ついで鳥居や灯籠・宝篋印塔となっているが、寛政以後が多く、保科・伊藤・飯塚などの石工が多く入ってきていたようである。この他石工銘のないものの中にも、信州高遠の石工の作は多くあったと考えられる。この地方は江戸石工の作例は全く見えていない。

つぎに『甘楽町の石仏』からその例をみると、ここでは地藏菩薩像が早くに彫られ、近世後期に宝篋印塔が彫られている。

1 地藏菩薩 享保九年 中佐久間善龍寺跡 「信濃国中伊奈郡高遠 藤沢

栗木村 願主 北原源太郎 同武兵衛 同勝左エ門」

2 地藏菩薩 明和四年 町屋薬師堂 「願主 高遠栗木村 北原七郎治」

3 子育地蔵 天保十三年 天引向陽寺 「信州伊奈羽廣村 宮下与兵卫」

4 宝篋印塔 寛政二年 国峰興巖寺 「信州高遠栗田 石工 北原七郎

治宗清」

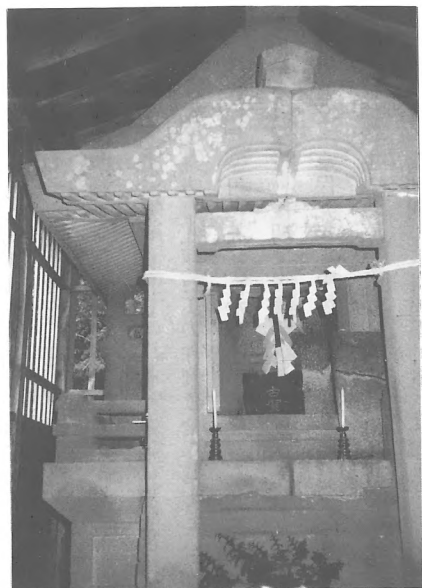
5 宝篋印塔 寛政二年 国峰興巖寺 「信州高遠中伊奈郡栗田村 北原平

次宗清」

などがある。ここでも近世後期には宝篋印塔が彫られている。

『伊勢崎の近世石造物』をみると、近世石工銘のあるもの二九基中、高遠石工と刻まれたもの一五基、石工名からみて高遠石工と考えられるもの三基で、合計一八基も高遠石工の作である。種別は地蔵二、宝篋印塔三、庚申二、馬頭観音二、石祠二、他に鳥居・石灯笼・聖観音・二十二夜塔・観音塔・手洗石・天道念仏塔などである。ここでも地蔵は寛保元年（一七四一）と早く、宝篋印塔は寛政十一年（一七九九）が最も早い例である。石工は北原・保科・西村・伊藤・宮下・高見・中山・高嶋・湯沢・中村・山崎・大石などの姓が見受けられるが、北原村の石工が早くから県内各地に入っていたようである。

このように高遠石工は親子何代にもわたり上州に入ってきていて、多くの優れた作品を残しているが、その作風は極めて特色があり、一見木彫風の繊細な彫りである。特に植物の葉や花の彫りは特色がある。木彫風といえば、石殿・石祠などには木造建築のように細部まで彫刻したものがあり、なかでも吾妻郡吾妻町の古賀良山神社などは、大きな石殿で袖障子の彫りものまでした見事なものであり、さながら木造社殿を思わせる。また、渋川市行幸田の駒形社も大きさといひ細部の彫りといひ見事で、何れも高遠石工の作である。西毛地方の近世後期の宝篋印塔には高遠石工の優れた作



吾妻町大戸古賀良山神社本殿

品が多く目立っている。また、江戸城の石垣の石を切出したと伝える前橋市下大屋町の産泰神社境内には、江戸石工に対抗するかのようにな大きな灯笼を高遠石工が彫んでいる。なかでも参道脇の高灯笼はその大きさからみても県下最大級であり、灯笼を支える鬼の彫刻も見事である。総じて高遠石工の作品は木造建築や木彫を思わせる。そう見ていくと、高遠石工の銘の刻まれてないものにも、高遠石工の作と考えられるものが多いのではなからうか。

ところで、これら多く上州入りした高遠石工たちは、やがて上州に定住した者も多かったと考えられる。先に記した太田市円福寺の水盤銘には、「境町石工北原玄蕃」とある。近世後期には多くの北原を名乗る高遠石工が上州へ入ってきているので、佐波郡境町に定住したのであろう。『伊勢崎の近世石造物』には、太田市小暮家墓地の安政四年（一八五七）の地藏菩薩台石に「石工 信州高遠領的場村産本州伊勢崎住大石市太郎」とあり、

嘉永二年（一八四九）の曲輪町同聚院の宝篋印塔には「本国信州伊奈郡高遠領北原郷住出店当国佐位郡境町 石工 北原復祐好祖」とある。これらの人々は境町に出店しても高遠の石工として作品を刻み、大石市太郎のように「伊勢崎住」と上州の住人となったことを表現したものもある。

このように多くの上州入りした高遠石工たちは、上州に定住しても同郷の石工職人として講中をつくり、互いに高遠石工としての誇りを堅持し続けたようである。それを物語る作品が安中市原市八本木地藏堂境内の丸彫りの聖徳太子孝養像である。この像も見事であるが台石には関東入りした高遠石工の名が数十名を連ねて刻まれている。その所在と氏名を示すと次頁のようであり、両毛・中毛・北毛から北武蔵にまでおよんでいる。高遠石工の発展を示す好資料といえよう。



前橋市産泰神社参道

黒 沢 赤羽嘉傳治  
 弥 勒 小林栄次郎  
 木 下 藤森吉弥  
 八幡山 伊藤清兵衛  
 中 坪 中山庄左門  
 板 山 伊藤豊三郎  
 野 口 矢澤松太郎  
 荒 町 金井久之丞  
 藤 塚 鍛治屋興六  
 荒 町 秋山馬太郎  
 新高崎 相澤小右門  
 勝 間 小松政藏  
 水 上 唐澤倉之助

荒 町 北原助右門  
 境 村 中村治右門  
 藤 澤 北原勇吉  
 北 越 後 井伴藏  
 尾 嶋 伊藤音七  
 權 井 若林重藏  
 青 嶋 北原豊藏  
 非 持 中山安五郎  
 四 場 中山安五郎  
 牧 西 武田八百藏  
 勝 間 湯澤八百太郎  
 彌 勒 廣瀬為藏  
 長 岡 向山筆五郎  
 非 持 山 保科國太郎



聖徳太子孝養像  
 (安中市八本木 地藏堂境内)

町 中 村 北原安  
 水 上 赤羽菊藏  
 野 口 矢澤十郎左門  
 講 元  
 前 橋 町 宮下政吉  
 野 口 北原市五郎  
 傳 馬 町 伊藤彌右門  
 大 國 唐澤亀吉  
 垣 御 外 堂 田中傳左門  
 傳 馬 町 伊藤嘉吉  
 野 笹 保科勝藏  
 中 坪 吉太郎

天保六年歲  
 次乙未冬十一月  
 信州伊奈  
 石工講中  
 満福寺現住  
 俊澄代

御 外 堂 藤澤徳兵衛  
 行 田 清水大十郎  
 福 島 井口卯之松  
 磯 部 堀口直次郎  
 長 岡 金子仁兵衛  
 高 梨 國太郎  
 中 後 閑 佐五郎  
 上 棚 鳥山常藏  
 小 出 平澤瀧三郎  
 中 坪 向山政吉  
 荆 口 北原岩藏  
 野 口 向山民吉  
 武州羽生町細工人  
 関口条次郎置虎  
 柏 越 後 田端常藏

# 道祖神概説

丸山 知良

## 一、はじめに

群馬県内の道祖神の悉皆調査を、群馬県教育委員会の主催で、全県下の市・町・村関係者を糾合して実施した。

県内に所在する道祖神への関心は、県内在住者ばかりでなく全国的に広がっており、次第に高まっている。群馬県が石造美術品の宝庫としての一翼を担っている地域だからである。道祖神の造形が庶民そのものであり、親しみもてる顔に会うことができる。あの道傍で会い、この辻で会う数多くの道祖神たちがいる。

数多くの道祖神、表情の豊かな道祖神を、多くの人びとがカメラを向け、メモをとってきた。しかし、そのすべてを知ることがは困難なことである。あまりにも多く、その種類も種々分類されよう。

「松のことは松に習う」という。道祖神のことは道祖神に尋ね、道祖神に学ぶことが必要である。こうした気運が結集され、ここに調査がまとめられた。

## 二、分布からみる

道祖神と称し得るものを総べてを数えあげたとき三、五三六基となった。うちに像碑が一、八九二基あり、文字碑が一、六一六基あり、その他二八基となる。

像碑は、いわゆる双体道祖神と呼ばれるもので合計一、八七七基である。総数三、五三六基に占める割合は五三%である。多くの石碑は文字碑が多い中で、道祖神のみは像碑が文字碑を上まわっている。このことは道祖神といえれば双体道祖神を思い出す程の親しみをもたれてきたことを知るのである。

その市町村別、種別一覧表を示す。

群馬県内道祖神一覽表

整理 番号 市郡別	項目 市町村別	像			单体	像計	文字		文計	石 有	殿 無	その他	総計
		双有紀	双無紀	2神別彫			有紀	無紀					
市	1 前橋市	36	16	—	—	(52)	66	10	(76)	1	—	1	130
	2 高崎市	43	41	—	—	(84)	97	21	(118)	—	—	—	202
	3 桐生市	1	2	—	—	(3)	8	4	(12)	—	—	—	15
	4 伊勢崎市	9	2	—	1	(12)	26	8	(34)	—	—	—	46
	5 太田市	1	—	—	—	(1)	3	—	(3)	—	—	—	4
	6 沼田市	68	17	—	—	(85)	23	5	(28)	—	—	—	113
	7 館林市	3	—	—	—	(3)	6	2	(8)	4	3	—	18
	8 渋川市	36	13	—	1	(50)	30	3	(33)	—	—	—	83
	9 藤岡市	15	26	—	—	(41)	89	106	(195)	—	—	1	237
	10 富岡市	14	43	—	—	(57)	72	79	(151)	—	—	1	209
	11 安中市	44	77	—	—	(121)	108	36	(144)	—	—	—	265
	市計(11)	(270)	(237)	—	(2)	(509)	(528)	(274)	(802)	(5)	(3)	(3)	(1,322)
勢 多 郡	12 北橋村	22	3	—	—	(25)	19	2	(21)	—	—	—	46
	13 赤城村	16	9	—	—	(25)	34	8	(42)	—	—	—	68
	14 富士見村	12	4	—	—	(16)	17	6	(23)	—	—	—	39
	15 大胡町	5	1	—	—	(6)	6	5	(11)	—	—	—	17
	16 宮城村	2	—	—	—	(2)	3	—	(3)	—	—	—	5
	17 粕川村	1	4	—	—	(5)	11	4	(15)	—	—	—	20
	18 新里村	2	—	—	—	(2)	9	3	(12)	—	—	—	14
	19 黒保根村	3	2	—	—	(5)	6	1	(7)	—	—	—	12
	20 東村	2	4	—	1	(7)	1	1	(2)	—	—	—	9
		計(9)	(65)	(27)	—	(1)	(93)	(106)	(30)	(136)	—	—	—
群 馬 郡	21 榛名町	43	70	—	4	(117)	26	12	(38)	—	—	1	156
	22 倉渕村	37	58	2	—	(97)	5	5	(10)	—	—	3	110
	23 箕郷町	21	14	—	—	(35)	25	14	(39)	—	—	1	75
	24 群馬町	17	5	—	—	(22)	7	2	(9)	—	—	—	31
		計(4)	(118)	(147)	(2)	(4)	(271)	(63)	(33)	(96)	—	—	(5)
北 群 馬 郡	25 子持村	12	2	—	—	(14)	7	3	(10)	—	—	—	24
	26 小野上村	10	12	—	—	(22)	9	5	(14)	—	—	—	36
	27 伊香保町	—	1	—	—	(1)	1	—	(1)	—	—	—	2
	28 榛東村	14	20	—	1	(35)	15	2	(17)	—	—	1	53
	29 吉岡村	17	15	—	—	(32)	18	1	(19)	—	—	—	51
		計(5)	(53)	(50)	—	(1)	(104)	(50)	(11)	(61)	—	—	(1)
多 野 郡	30 新町	—	—	—	—	(—)	4	—	(4)	—	—	—	4
	31 鬼石町	1	4	—	3	(8)	9	4	(13)	—	—	—	21
	32 吉井町	19	26	—	1	(46)	23	11	(34)	—	—	—	80
	33 万場町	—	—	—	—	(—)	3	1	(4)	—	—	—	4
	34 中里村	1	—	—	—	(1)	—	—	(—)	—	—	—	1
	35 上野村	—	4	—	—	(4)	—	—	(—)	—	—	1	5
		計(6)	(21)	(34)	—	(4)	(59)	(39)	(16)	(55)	—	—	(1)
甘 楽 郡	36 妙義町	1	14	—	—	(15)	11	—	(11)	—	—	—	26
	37 下仁田町	11	53	—	—	(64)	25	19	(44)	—	—	—	108
	38 南牧村	13	39	—	—	(52)	8	21	(29)	—	—	—	81
	39 甘楽町	26	15	—	—	(41)	39	12	(51)	—	—	—	92
		計(4)	(51)	(121)	—	—	(172)	(83)	(52)	(135)	—	—	(—)

整理 市郡別	項目 市町村別	像 碑			単体	像計	文字 碑		文字 小計	石 殿 有 無	その他	総計	
		双有紀	双無紀	2神別彫			有紀年	無紀年					
碓氷郡	40 松井田町	23	73	—	—	(96)	32	38	(70)	—	—	1	167
	計(1)	(23)	(73)	—	—	(96)	(32)	(38)	(70)	—	—	(1)	(167)
吾妻郡	41 中之条町	72	47	1	—	(120)	29	13	(42)	—	—	—	162
	42 東 村	13	8	—	—	(21)	5	—	( 5)	—	—	—	26
	43 吾妻町	34	60	—	—	(94)	19	25	(44)	1	—	—	139
	44 長野原町	21	19	—	—	(40)	—	1	( 1)	—	—	—	41
	45 嬭恋村	14	14	—	—	(28)	2	—	( 2)	—	—	—	30
	46 草津町	4	2	—	—	( 6)	—	—	(—)	—	—	—	6
	47 六合村	15	9	—	—	(24)	2	1	( 3)	—	—	—	27
	48 高山村	24	10	—	—	(34)	1	—	( 1)	—	—	—	35
計(8)	(197)	(169)	( 1)	—	(367)	(58)	(40)	(98)	(1)	—	(—)	(465)	
利根郡	49 白沢村	11	7	—	—	(18)	—	1	( 1)	—	—	—	19
	50 利根村	6	—	—	—	( 6)	—	—	(—)	—	—	—	6
	51 片品村	16	8	—	—	(24)	7	7	(14)	—	—	—	38
	52 川場村	21	7	—	—	(28)	7	4	(11)	—	—	—	39
	53 月夜野町	28	14	—	—	(42)	10	4	(14)	1	—	—	57
	54 水上町	15	2	—	—	(17)	6	4	(10)	1	1	1	30
	55 新治村	27	14	—	—	(41)	4	7	(11)	—	—	—	52
	56 昭和村	15	4	—	—	(19)	1	1	( 2)	—	—	—	21
計(8)	(139)	(56)	—	—	(195)	(35)	(28)	(63)	(2)	(1)	(1)	(262)	
佐波郡	57 赤堀村	—	2	—	—	( 2)	4	2	( 6)	—	—	—	8
	58 東 村	2	—	—	—	( 2)	—	—	(—)	—	—	—	2
	59 境 町	1	—	—	—	( 1)	8	8	(16)	—	—	—	17
	60 玉村町	4	6	—	—	(10)	21	9	(30)	—	—	—	40
	計(4)	( 7)	( 8)	—	—	(15)	(33)	(19)	(52)	—	—	(—)	(67)
新田郡	61 尾島町	—	—	—	—	(—)	9	1	(10)	—	—	—	10
	62 新田町	1	—	—	—	( 1)	1	—	( 1)	—	—	1	3
	63 藪塚本町	—	2	—	—	( 2)	4	1	( 5)	—	—	—	7
	64 笠懸村	—	—	—	—	(—)	7	2	( 9)	—	1	—	10
	計(4)	( 1)	( 2)	—	—	( 3)	(21)	( 4)	(25)	—	(1)	(1)	(30)
山田郡	65 大間々町	4	2	—	—	( 6)	5	4	( 9)				15
	計(1)	( 4)	( 2)	—	—	( 6)	( 5)	( 4)	( 9)				(15)
邑楽郡	66 板倉町	1	—	—	—	( 1)	1	—	( 1)	2	—	—	4
	67 明和村	—	—	—	—	(—)	6	—	( 6)	—	—	—	6
	68 千代田町	—	—	—	—	(—)	2	—	( 2)	—	—	—	2
	69 大泉町	—	1	—	—	( 1)	4	—	( 4)	—	—	—	5
	70 邑楽町	—	—	—	—	(—)	1	—	( 1)	—	—	—	1
計(5)	( 1)	( 1)	—	—	( 2)	(14)	—	(14)	(2)	(—)	(—)	(18)	
郡 計(59)													
合 計		952	925	3	12	1,892	1,067	549	1,616	(10)	(5)	(13)	3,536



さて大略の分布傾向を、一先づ教育事務所管内の郡市集計をみよう。それぞれの教育事務所管内の市町村数も面積、人口も平均化されていないから一応の傾向ということになるが次表の如くである。

	西部教育事務所管内	双体	単体	文字	その他	総計
高崎	八四			一一八		二〇二
藤岡	四一			一九五	一	二三七
富岡	五七			一五一	一	二〇九
安中	一一一			一四四		二六五
群馬	二六五	六		九六	五	三七二
多野	五五		四	五四	一	一一五
甘楽	一七二			一三五		三〇七
碓氷	九六			七〇	一	一六七
吾妻	三六六		一	九八	一	四六五
利根	一九五			六三	四	二六二
沼田	八五			二八		一一三
中部教育事務所管内						
勢多	九二		一	一三六		二三〇
伊勢崎	一一		一	三四		四六
佐波	一五			五二		六七
北群馬	一〇三		一	六一	一	一六六

洪川	四九	一	三三	八三
前橋	五二		七六	二 一三〇
桐生	三		一二	一五
太田	一		三	四
館林	三		八	七 一八
新田	三		二五	二 三〇
山田	六		九	一五
邑楽	二		一四	二 一八

西部教育事務所管内で一、八七四基となつて、全県下の五三%を占めるのである。東部教育事務所管内が全県下の二・八%に過ぎないことと比較すれば、西毛に濃いことが確然としている。

分布の多いということは面積比などを考えなければ、正式のことは言えないであろうが、単純に市町村別集計の多いところをあげれば

安中市	二六五	藤岡市	二二九
富岡市	二〇九	高崎市	二〇二
松井田町	一六七	中之条町	一六二
榛名町	一五六	吾妻町	一三九
前橋市	一三〇	沼田市	一一三
倉渕村	一一〇	下仁田町	一〇八

という順序になる。とにかく文字碑等を含めて考えれば一碑もない市町村はない。どの市町村にも分布していることは珍しいことと言わなければならない。

これを峠道ごとに集計してみる。

総計 四六九 (三七六)

○十石峠道

上野村	五 (内像数四)
中里村	一 (一)
万場町	四 (〇)
鬼石町	二 (八)
藤岡市	二三七 (四一)
総計	二六八 (五四)

○下仁田道

下仁田町	一〇八 (六四)
南牧村	八一 (五二)
富岡市	二〇九 (五七)
甘楽町	九二 (四一)
吉井町	八〇 (四六)
総計	五七〇 (六〇)

○中山道

松井田町	一六七 (九六)
安中市	二六五 (一一二)
高崎市	二〇二 (八四)
新町	四 (〇)
総計	二二〇八 (五六二)

○鳥居峠道

榛名町	一五六 (一一七)
倉渕村	一一〇 (九七)
吾妻町	一三九 (九四)
長野原町	四一 (四〇)
嬬恋村	三〇 (二八)

十石峠道は道祖神の少ない通りである。藤岡市はむしろ埼玉県の寄居町、児玉町と高崎市の交通路にあたりと考えられるので、十石峠道としての道祖神と考えるには弱いところがある。総数も藤岡市の数が八八%を占めている。また像碑が二〇%であった。

下仁田道は信州から和美峠、内山峠、余地峠を越えてくる道である。この沿線の村々の総計は五七〇基で、内に像碑の割合は四六%であった。

中山道沿いの松井田、安中、高崎、新田と合併市町村の多いところで、旧中仙道の坂本、松井田、安中、板鼻、高崎、倉賀野、新田と宿駅がつづいた五街道の主要道路だけに、道祖神の数も多い。一、二〇八基を数えた。像碑五六一基で四六%であった。

鳥居峠道は大戸道と呼ばれる信州への道である。この総計四六九基で像碑三七六基で八〇%を占める。こうした像碑の占める割合が多いことは特色とするところであろう。

以上の四つの信州からの峠道にある道祖神を集計すると、五一五基になり、県全体の七十一%になる。内数の像碑は一、二五一基で、六六%を占めている。

三、作者たち

石工の名が刻まれているのは道祖神に限っては極めて少ない。これは双体神祖神というか、愛の表現については作者名が出しにくいということなのである。わずかに三基の双体道祖神に作者名が刻まれている。それ



前橋市広瀬町飯玉神社  
(高遠石工倉田政右エ門作)

に文字碑二基を加えても五基にすぎない。従ってこうしたいわば芸術品とも言える多くの碑は無銘のまま鑑賞してもらうことになる。路傍の石仏であり、庶民のわれわれの石仏としては、その方が良いと思うべきなのだろうか。そのわずかの作者名から見よう。

前橋市広瀬町二丁目の飯玉神社の寛政八丙辰十二月大吉日(一七九六)の双体道祖神の信州石工、倉田政右衛門。

勢多郡粕川村深津字三ヶ尻の天保昭陽単闕建之の石工高遠産馬場住、井上源治郎義卿の大きな双体道祖神。昭陽は癸、単闕は卯のこと。こうした干支の異名が一般的でないので今まで読まなかったのか、読めないで、年号がないと過していた場合もあったようだ。天保十四年(一八四三)。

この二体は前橋市も元の勢多郡上川測村後閑と勢多郡粕川村深津字三ヶ尻で、信州石工とか高遠石工という、同じ信州高遠の石工の系列である。さすがに幕末の天保年間には勢多郡宮城村馬場に土着したのであろう。

双体道祖神のもう一体は北上州の利根郡水上町須田貝で、明治廿丁亥年七月吉日という新しい作品で、越后ノ国刈羽郡荻野島村石工とある。

この極めて少ない作者名の中で信州高遠と越後の石工が出ていることに興味をもつ。石造美術品の調査のすべてを通覧して石材彫刻者の問題は考慮しなければならぬが道祖神だけからは上記のことのみを指摘しておきたい。

なお、文字碑二基は群馬郡箕郷町富岡本村の市河米庵孔陽先生の書を刻んだという、文政十年(一八二七)の緊張した信州高遠、林仙蔵の場合と、勢多郡粕川村女測の天保二年(一八三一)の竹沢村石工佐吉と刻まれた例をみるのみである。

#### 四、信仰から

道祖神は、広辞苑によれば「道路の悪霊を防いで行人を守護する神。日本では八さえのかみ」と習合されてきた。くなどのかみ。たむけのかみ」とある。

道の神であり、行路の安全を守る神であるが、さえのかみとして邪霊の侵入を防ぐ神でもある。この二面の要素をもっている。

塞(さえ)の神として防塞の神として、他からの侵入する悪霊を防ぐのである。特に疫病を中心として村中に災害をもたらすものを村境で防がなければならぬのである。そこで村境・峠・辻などに道祖神を建てておがむのであった。

悪霊は人間生活の微妙なる隙をおそるのであろう。夫婦の和合した豊か

道祖神、寒神、石神等神社一覽 (群馬県史研究第九号による)

郡名	道祖(神)社	道神社	猿田彦社	寒神社	(八)衢社	久那(岐)社止	大杉神社	白髭神社	石(神)社	尺地社	社宮司社	その他	計
利根	一〇	七	二	三	七				二			一	三九
吾妻									四				二八
西群馬									九				四八
碓氷									〇				一六
北甘									九				二二
多野									二				二二
東馬									一				二二
南勢									二				二二
佐位那									一				一七
新田									一				四九
山田									一				四九
邑楽									一				四四
計	二八	四六	八八	四四	一六	一〇	二	九	六八	三	二	一七	三三三

なる家庭は悪霊のつけ込む隙を与えず退散させるに十分なる力を發揮するのであるか。双体道祖神の像がそこに大きな役割をはたすのであろう。

この道祖神の起源を古事記や日本書紀に求める場合がある。イザナギ・イザナミの両神は天のぬほこという矛(ほこ)を持ってどろどろした処をかきまわして上げると、滴が落ちて島が出来た。淡路島であり、それから日本の多くの島々を生んだ。鳥生みの伝説である。イザナミが没して黄泉の国まで追って行ったイザナギは黄泉国からの帰路に追われて、千引岩(ちびいわ)を黄泉平坂(よちひらさか)の真中に据えられた。これがあの世とこの世の境で、さえの神となったといわれる。

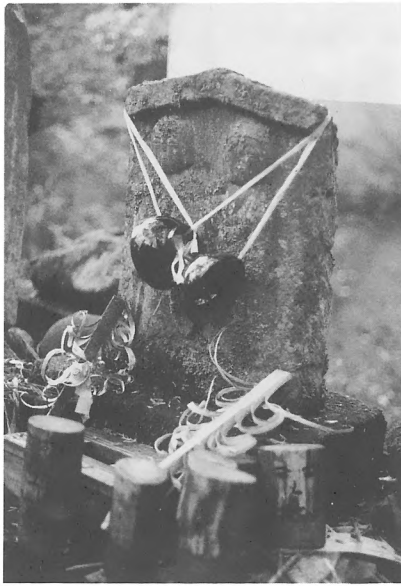
日本書紀はイザナギの神が投げた杖が岐神(くなど)或はふななどのかみ)

となったと伝えている。やはり、さえの神であり、道祖神となったという。

道祖神が神社となったのは明治十二年の神社明細帳を整理して萩原進、池田秀夫両氏が発表している。

「東毛地方は道祖神社と道神社が圧倒的に多く、西毛には少なく、石神社が多い。また、猿田彦社が多く、東毛には少なく、寒神は西毛より東毛に多い。」と説明されている。

双体道祖神についての起源説話として兄妹婚のことが、池田秀夫稿県史研究第九号に述べられている。倉渕村落合伝説等をひいて、実の妹とわかり離別した悲劇の夫婦が道祖神になったと伝えている。こうした話が各地に伝えられているという。



六合村入山梨木の道祖神

これらは双体道祖神が村はずれの路傍に、雨の日も風の日も立っていることへの同情から、説明を求められた時に生れた説話が流布したものと考へる。本来的な道祖神信仰ではなく、後からついてきた説明なのであろう。さて道祖神と言えばドンド焼きが思い出される。小正月行事として一月十四日の晩に行なうか、十五日朝に行なう。道祖神の石像をつくることとドンド焼きとはどうも結びついていないようである。行事と石碑とたまたま村はずれであるという程度の一致をみるが別々に実施されていると考えた方がよいようだ。時にドンド焼きの中に道祖神石碑を投げ込んでいたので、こんなに落魄してしまつたと聞くことがある。しかしドンド焼きが実施されても像はないところ、像があつてもドンド焼きはないなど、別々と考える方がよいであろう。六合村誌調査のときに、ぬるでの木に人の顔を書いて道祖神にそなえているのを見た。小正月行事に道祖神がきて祭り、ドンド焼きの炎にのつて

昇天するのであろう。都丸九十九氏の調査である。

さて、県史の民俗編（都丸九十九一部会長）の道祖神では俗信として、道祖神とは次の六つに結論している。

- ①性の神。しかし性習俗と結びつくものはなく、福守様や陽物や山王の猿などに委せられている。
- ②道の神。路傍に立っている。道の神は足の神となり、足の病を道祖神に拝み、なおると草鞋を供えたという。
- ③道祖神は耳の神。道のふさがりから耳のふさがりをとつて通りよくしようというまじない。
- ④目の神など病気にきくという。
- ⑤子育ての神。ドンド焼き、道祖神祭りが子どものまつりだから子育ての神とされた。
- ⑥厄落し。ドンド焼きは厄落しの機会。

##### 五、造像からみて

ただの石に道祖神と書いた紙を貼るという例が富岡市一の宮にある。こうしたことは造像以前からのものであろうか。

道祖神としての最も古い銘文は寛永二年（一六二五）乙丑十一月吉日の双体道祖神で、群馬郡倉渕村の熊久保のものである。以来、年代の推移に伴って増加している。

とにかく近世以前のものはない。群馬県に於いては一六二五年からである。悉皆調査の上でこのことが確定された。年代的な変遷は別表の通りで

ある。(文末)

道祖神を大別すれば像碑と文字碑に分けられよう。

像碑は双体道祖神と単体に分けられる。当然、道祖神と呼ばれる双体道神が一、八七七基で大部である。そのうち銘文の確認できたものが九五二基で半数以上である。

男女別像の道祖神は珍しく、群馬郡倉沢村川浦の元三沢にある。男神像と女神像が一对になっている。戦国時代に下家が三河国から移転して奉祭したと伝えられている。

単体道祖神は極めて特異のものといふべきであろう。

さて、双体道祖神の型式分類はまだ固定したものはない。

大塚省悟氏の分類は合掌系・肩くみ手握り系・酒器持ち系・幣持ち系・雲上像系・あからさまな性系・秘めた性系・特殊像系の八種に分けてい

る。萩原進氏は天孫降臨型・神像型・把手型と媒酌型・直線型と曲線型・謹厳型と微笑型・あぶな絵型・変り型などに分類することを試みた。

一応、合掌型・擁肩握手型・酒器持ち祝言型・奉幣型・雲上型・その他などに分けるのが普通だと思われる。しかし、定説があるわけではないので、多くの人が見て肯定される名称が自然に定められてゆくであろう。

榛名山ろくから烏川の鳥居峠道にかけての道祖神調査をして造像の変遷に及んだ近藤昭二報「二神並列型道祖神石像の成立と変遷について」を紹介しておこう。

寛永二年以降を四期に分け、第一期を元禄まで、第二期を享保期、第三期を宝暦期、以下明治までを第四期とする。

第一期は仏像の形を模倣した道祖神を試みた時代である。合掌するとか正座するという像が造られた。いわば成立期である。

第二期は享保年代で、二神直立型で互いに手を前に組んだり肩にかけていても静かな信仰の形である。固定期。

第三期は宝暦期で道祖神全盛期である。自然石に丸やハート型にくり込んで二神を刻んだり、石殿のような屋根をつくるものなどが出て、男女抱擁型までできた。数も多く、多様な型式の出現となった。

第四期は文化十五年から明治期に及ぶ時代で双体道祖神の衰退期であり、文字碑が多く出現している。道祖神は特に復古神道の影響で天孫降臨型が出現してくる。猿田彦が矛を持って、天鈿女命あめのすめのみことと共に天降りする図に変化してくる。

## 六、書家の名前を

文字碑の中には書家の名が刻まれているものもある。あるいは文字碑に刻まれた文字のみが現在残されている作品というのものもある。いわゆる書家として伝えられない地域の書き手としての文字を知ること、道祖神文字碑の功德なのかも知れない。

米庵 河孔陽先生と書かれた箕郷町富岡の文政十年(一八一七)、箕郷町原山の安政七年(一八六〇)がある。共に米庵を師と仰ぐ地域の書家によって写しとられた文字を刻んだものと思われる。市川米庵は下仁田町の出身で、地域での活躍を経て、江戸京橋で書道指導に当り、加賀百万石の藩校で指導したこともある。当時江戸の第一人者であった。東京国立博物



榛東村山子田の道祖神  
角田無幻書（天保15）

館で父寛齋と共に特別展が開催されたことのある書家なのである。

無幻道人 北群馬郡吉岡村下野田の本山派修験の華藏寺で生れ、勢多郡赤城村津久田の林徳寺を嗣いだ。修験者としての修行のほかに書道にすぐれ、光格天皇に千字文を差上げた。天皇の手本として用いられたことにより、止め筆として筆跡を一般に出すことを禁じられたという。このため書名が高くなった。

赤城村樟の文化七年、群馬町中泉の寛政七年、高山村中山の寛政十年、高崎市大八木町の享和元年などの文字がある。

帰雲外史 高崎藩の儒学者、書家にして、その法帖は珍重された。赤城村津久田に文化十五年の碑がある。その他、列記する。

- 一 徳 齋 前橋市千代田町 弘化三年
- 川 中 英 前橋市上公田町 寛政七年
- 成 孝 前橋市小屋原町 万延元年

宮司光端	前橋市元総社町	享和元年
平義弓	高崎市宿横手町	宝曆十一年
赤城大璞	高崎市正観寺町	天明七年
松東野	高崎市上並榎町	明和八年
護国庵	高崎市上並榎町	明和八年
祐慶	高崎市飯塚町	嘉永五年
守一	高崎市下佐野町	文化十五年
松琴邦	高崎市下中居町	安政四年
春山	伊勢崎市堀口町	寛政九年
連堂	藤岡市森新田	明治七年
城谷寛周	富岡市下高尾	寛政七年
中山瑛親	富岡市瀬下	天保六年
中山瑛親	富岡市七日市	弘化四年
中山瑛	富岡市上丹生	(文化)
中山瑛	安中市郷原	文化三年
安積慶	富岡市一の宮	明治二十三年
甘谷惟寅	富岡市丹生	文政十年
平燦明	安中市伝馬町	享和二年
龍崎和道	安中市谷津	享和二年
有隣教承	安中市谷津	文化五年
閑山	安中市上後閑	大正十四年
享齋	安中市上秋間	弘化二年
法印舜盛	赤城村溝呂木	文久二年

川島蘭洲	榛名町本郷	慶応二年
関共寧	榛名町高浜	明和四年
関橋守	榛名町高浜	慶応三年
芦交	榛名町下室田	文政二年
長野不染	箕郷町富岡	天明六年
良融	箕郷町白川	寛政十三年
永井暉	箕郷町柏木沢	文久二年
青山一布	箕郷町柏木沢	文政四年
静斎	群馬町井出	安政五年
如意寺鉄舟	小野上村	弘化三年
嗜山	伊香保町	寛政十一年
儉江	榛東村広馬場	嘉永二年
紫城	榛東村広馬場	明治三十一年
黒山光芳	吉岡村陣場	安政二年
石井徴言	新町	万延元年
省斎	下仁田町馬山	嘉永五年
平鉄胤	下仁田町馬山	慶応三年
天頼	吾妻町松谷	慶応元年
椿山	邑楽町篠塚	万延元年
藤賢和	大胡町堀越	文政五年

道祖神の文字碑の中から抜書きした。全部ではない。署名は二字のみのものもあり、それだけで同名なるが故に同人と比定できないことも多い。

関橋守は榛名町の歌人で、県内に歌碑が多いので知られている。

川島蘭洲は安中市板鼻出身、明治十年没。巻菱湖に師事して書家・佐藤一斎に師事して経文に通じた学者。

一徳斎は富士見村時沢の人。往来物の赤城詣や当時諸家人名録（文政八年）などで知られる。奈良姓、一徳斎光龍と称した。

二、三の人物について記したが、地域での活躍はそれぞれの意義があったことであろうと考えられる。

## 七、今までの道祖神考察

道祖神についての関心は、比較的古くからあったのであろうが、管見に入ったものを列挙すれば次のようである。

①矢島 胖 道祖神彫刻の技術的側面

雑誌「上毛文化」昭16・4から

道祖神についての論考の最初のように思われる。雑誌「上毛文化」の六卷三・六・八・九・十号、七卷一・三号の七回連載であった。この道祖神への切り込みがあつて、多くの人びとの関心を喚起した。

②矢島 胖 象形道祖神のプロファイル

雑誌「群馬文化」25（昭和三四年）

③矢島 胖 上州の道祖神

雑誌「民芸手帖」14（同）

④矢島 胖 上州道祖神探訪

同 42（昭和三六年）

前記の論文に続く戦後の多くの関心への、再度の問いかけである。



⑤鈴木 繁著『性神考』

昭和二九年 上毛古文化協会

性神という立場から著者の関心を収集したもので、「道祖神が性を挑発し、庚申が性を抑制するという私の考え方については更に裏付の資料を蒐集する必要があります」とあとがきで述べている。とにかく「偉大なる道祖神」の一章は賛否両論を含みながら、道祖神への関心を広めた。

⑥近藤昭一 二神並列道祖神不像の成立と変遷について

雑誌「ロータス」創刊号（立正大学教養部論集）に掲載の論文。昭和四二年十二月。

これが道祖神の基礎的研究というか、学問的関心を満たす方向を示唆している。この頃には写真家によって興味ある被写体の一分野となり、多くの写真となったようである。県内ばかりでなく、埼玉を始めとして関東地域の自動車日帰り範囲も拡大し、特に夜間撮影は周囲を消して、ライトで浮きあがる道祖神を好む人々もあつた。

⑦オギノ芳信著『上州路双体道祖神』

煥乎堂 昭和五二年九月

朝日新聞群馬版に「道端の恋人たち」の連載が昭和四十九年三月に始まり百四十回で完結した。著者オギノ氏は写真家で群馬県展、二科展などの写真展に入選入賞しているベテラン。

⑧大塚省悟『やぶにらみ道祖神考』

私家版 昭和五一年

道祖神の熱心なる愛好家による私家版である。道祖神を尋ねて地域系列像形別の一覧表を別冊として付したものである。

⑨雑誌「上州路」八六号（昭和五六年）

⑩同「上州路」八九号（同）

特集・群馬の双体道祖神

群馬の双体道祖神・所在地一覧

写真は風グループの撮影でブームになっていた道祖神の悉皆調査と全写真企画したが同時進行の多くのグループと競合したもので本特集として一応の終結とした。

⑪平山利男写真・萩原進文

群馬の道祖神 群馬県文化事業振興会 昭和五四年三月

「ほのぼのとした素朴さに魅かれ、カメラマンは対話した、一五〇体の神々」と書かれた帯の文が本書を適格に表現している。

⑫日本石仏協会群馬県支部編

『上州路道祖神百選』あさを社 昭和五九年十月

金井竹徳氏を会長とする二十一名による写真集である。何としても写真による鑑賞は、石仏といえは双体道祖神に第一に指を屈するであろう。県内のカメラを手にする多くの人たちの代表としての著作とも言えよう。

写真家と道祖神の結びつきは、例えば群馬県教育文化事業団の文化指導者バンクでも、写真と道祖神を出している中山克巳氏の例の如く数多いようである。

⑬若杉慧著『野の仏』

⑭佐鳥俊一著『群馬の石仏』 上毛新聞社

写真による石仏紹介である。写真としての芸術性と素材としての道祖神のすぐれたものが一体となって多くの人びとの共感を得た。

⑮ 武田久志著 『路傍の石仏』 第一法規

旅行の途次に眼にふれた上州路の路傍の石仏・道祖神に注目したことが、人々の関心を掘り起す論考となった。

⑯ 萩原進著 『道しるべ』 みやま文庫

交通史研究から道標に関心が進み、その研究から道の神、道祖神に研究が及んだ。道しるべという基礎的資料を積み重ねた上の研究である。

⑰ 都丸十九一著 『村と子ども』 第一法規

道祖神祭と子どもという項目にみられるように子ども行事から道祖神をみている。

⑱ 群馬県刊 『群馬県史』 資料編(民俗二)

道祖神信仰について十二頁をあてている。民俗学の成果を記している。

年代別道祖神塔造立状況

(総造立数3,536基中、紀年銘あるもの1,949基)

年 代	双 体 道福神	単 体 道福神	文 字 道福神	石殿形 道福神	計	同時代の主なできごと
1620～	1				1	寛永期 参勤交代制、鎖国完成
1640～						正保慶安期
1660～	7				7	寛文延宝期
1680～	10		1		11	元禄期 沼田真田氏改易(1683)
1700～	22		8		30	宝永正徳期 富士山噴火、正徳の治
1720～	117	1	13	1	132	享保期 享保の改革
1740～	294	2	37	2	335	宝暦期 関東大洪水(1742)
1760～	225	1	228	1	455	明和安永期 田沼時代
1780～	98	2	241		341	天明寛政期 浅間焼(1783)大飢饉、寛政改革
1800～	66	1	190		257	文化期 外国船の来航しきり
1820～	37		100		137	文政期 化政文化最盛、天保の大飢饉
1840～	39		109	1	149	天保期 天保改革、開国(1858)
1860～	19		75		94	幕末期 世直し一揆、討幕運動
計	935	7	1,002	5	1,949	

# 上州の道しるべ

金子 規矩雄



安中市西上秋間  
県内最古の道しるべ

県文化財保護課の企画による近世石造文化財総合調査が行われ、各市町村の調査報告カードから、事務局で「道しるべ」を抽出し、独・銘・丁石・磁石型の四種類に大別して、各市町村所在数を調査し別表とした。しかし市町村により調査の精粗がある様に考えられるので、この数字が県内所在の完全な数字を示しているとは言えないが、概数は知る事ができるのである。表の「独」は単に道しるべとして建てたもの、「銘」は建てた目的が二つ以上兼たもの、「丁石」は寺社等の目的地迄、一丁ごととか一里ごととかに建て、方向や距離数を示したものの、「磁石型」は路面に一個の板石

を置き、東西南北の方位を知らしめると共に、道しるべになっているものである。兼たものには、例えば「庚申塔」の如く単に「庚申」と二字だけのもの、「庚申塔」と三字のもの、「<sup>〆</sup>」字だけのもの、青面金剛像を彫刻したものと等あつて、同一種類のもので表現の仕方により幾通りにもなる。その正面に記した文字や、仏菩薩像等から名称を上げれば、次の如く多種多様になる。煩雑になるが記して見る。

●念仏供養・為有縁無縁南無阿弥陀仏・奉造立寒念仏供養・寒念仏供養・(地藏像)念仏地藏・十夜念仏供養塔・十六日念仏供養・普賢菩薩・奉造立万日廻向仏・不退妙転為菩提・馬頭大士・馬頭観世音・馬頭観世音菩薩・(馬頭観音像)奉造立供養馬頭観世音・馬頭観音像・地藏立像(右側面に総回向文)●南無地藏菩薩・六道能化地藏大菩薩・明奉造立庚申為菩提也祈所・道陸神・神祖神・双体道祖神像・百番巡拝観音供養塔・奉納百番供養塔・百番供養塔・三十三ヶ所観音巡拝塔・奉順札西国坂東秩父百番供養塔・秩父西国坂東百番供養・南無阿弥陀仏・(如意輪観音像)二十二夜塔・(如意輪観音像)十九夜・十九夜供養塔・甲子塔・大黒天・弁才天・弁才待供養・月山湯殿山羽黒山西国供養・八海山大神御嶽山三笠山大神・常夜塔・御神塔・奉献夜塔・大山祇大神・矜迦羅童子制陀迦童子・毘沙門天像・猿田彦尊・南無遍照金剛・大天狗小天狗石尊大権現・有縁無縁供養塔・三界万霊塔・大乘妙典供養塔・南無薬師瑠璃光如来・大日如来・石橋供養塔・野火除火防・水神塔・(子育地藏像)南無妙法蓮華経・奉造立為二世菩提也・金毘羅山大権現・念仏百万遍供養塔・為先祖菩提・天王宮・(地藏立像)法界念仏供養・聖徳太子・秋葉山等々があつてあるがなおもれたものがあるかも知れない。これ等は何れも江戸時代建立

のもので、利己的でなく社会性があり特に幾つかのものには、宗教的信仰心が滲じみ出て居て、感動を与えられるものがある。明治大正時代に政府勸奨の下に、青年団で建てた道しるべには、御大典記念、摂政宮御成婚記念・御即位記念・御成婚記念・平和記念・大正元年記念・耕地整理記念等、主として皇室の御慶事を記念したものが大多数で、皇室中心主義の思想のみ現れており、信仰的なものは無くなり、実用主義的で無味乾燥なもののみである。しかし、ただ一基「昭和御大典記念」に建てられた群馬町井出のものは、歌で道程を示すと言う潤いのある特筆すべきもので、「古昔伊香保道者のよまれし歌、梅園翁」と詞書があり「伊香保路や井提野が原の庚申塚伊香保に三里赤坂に二里」「伊香保路の井提野に咲きし女郎花色ゆへ人につまれけるかな」の二首と「新井翠石刻」と石工名がある。(みやま文庫道しるべ)

ここで歌や俳句を記してある道しるべを上げておこう。

#### 吾妻郡嬭恋村大笹登城

馬頭観世音と刻した高さ八六センチ、巾三六センチの自然石の碑の一方に「揚雲雀見聞いてここに休らふて右を仏の道と知るべし、正道」、「嘉永五<sup>五</sup>子歳五月吉日、佐藤五兵衛建之」と仏の道即ち善光寺へゆけると暗に大笹関所のぬけ道を教えているのである。

#### 太田市東本町

百番供養塔と兼ねた柱状の道しるべで「右たてはやし、こか道、左日光道、やき、さの駅」他面に「百番供養塔、享保三癸亥八月吉日、願主太田宿永竹幸助義信」次の面に「ひとすじに出れハ安き法の旅今なすわさそ後の世の夢」と一首記されている、此処は日光例幣使街道の追分で、傍らに

建てられている地藏像の敷茄子にも道標銘がある。

#### 北群馬郡子持村中郷長坂

高さ五六センチ、巾九センチの自然石の一面を平滑にし「牧はもく白衣はしろぬ、うつりかはれる俚言いかげせん」と詞書し「志くるるや左は白井右はもく、幻垂」と雅味のある文字で字配りも巧な、雅趣溢れる道しるべである。俳句のみで道を教えているのは他に無いであろう。子持村のガイドマップに文字碑コースの部に入れてあるのも宜なるかなと頷くことが出来る。小淵幻亜は土地の俳人である。

#### 伊勢崎市豊城町権現山東

高さ六七センチ、巾二二・五センチの角柱型で正面に「六道能化地藏大菩薩、享保三年戊八月日、玄海建之」右に「東わき屋、阿しかがみち、南さかい、江戸みち」左に「西いせさき、めうきみ(下欠損)」「北き里う、大ま、みち」裏面に「まよひ子にみちをおしゆるかかしかな、北の坊梅翁」とある。心の迷いを救う地藏菩薩を案山子と結びつけた所が面白い。

#### 北群馬郡小野上村小野子田ノ入

高さ八〇センチ、巾三二センチの道標で、「右邑入口道、左中之条道、文化二<sup>乙</sup>丑年夏五月」「風吹くやすすきの中の傍示杭」と一句記されている。何処からか移建したものであるという。

次に丁石について記しておこう。

信州の新張村から地藏峠を越えて、上州の鹿沢温泉迄の距離は三里ある。昭和八年八月私は友人と二人で、新張村から馬で峠を越えたが當時は、一丁毎に石仏が建てられていた。しかし、石仏の種類は記憶にない。今鹿沢温泉入口にある十一面観音立像はその内の一体である。信州沓掛から草津

温泉への街道筋六里ヶ原に、文化・文政頃建られた百体観音の内十九番観音像外二、三体現存すると、みやま文庫道しるべにある。桐生から下野国の根本山への道筋にもあったと言うが今は見当らない。県内でまともって遺存するのは、勢多郡新里村から、同郡粕川村の滝沢不動への丁石のみである。総数何基建てられたか不明であるが、一四基残っている。瀧沢不動は岩窟の中に堂宇が建てられ、本尊不動明王が祀られている。近くの不動の滝は赤城山第一の滝で、今も修験行者が滝の下で荒行をしている信仰の道場である。新里村関の竜光寺門前に高さ一一三センチ、巾四五センチの角柱正面に「ユ七十六丁目滝沢道」、右側に「アヒラウシ」左側面に「天

明八戊申稔六月吉日、前住尊盛立之、現住尊英代、石工信州宮下藤左衛門」とある。前、現二人の住職は滝光寺住職である。

新里村関には昭和四七年県指定になった「関の磨崖仏」がある。この磨崖仏の前に江戸時代に堂宇を建て、滝沢の不動を分霊して前不動として祀り信仰していた。「七十四丁廿間滝より是まで、天明八戊申六月吉日」とある丁石は、高さ一〇〇センチ、巾二五・五センチの角柱である。銘文中の「滝より」の滝は不動の滝である。

次に磁石型を紹介しよう。

石平面上に方位と地名を示した道しるべを磁石型としたのであるが、この型の物は極めて少く、総数六基あるのみである。恐らく全国にも少いであろう。その旧所在地は、勢多郡富士見村弓田・同城南村上増田・同城南村荒子(城南村の二基は前橋市立図書館保管)・同赤城村持柏木字庚申塚・富岡市上丹生字木戸坂(県立歴史博物館保管)・群馬郡榛名町高浜字六本辻である。六基の内四基が勢多郡に片寄っているのは如何なる理由である

うか、恐らく何処か最初に造られたのに触発された結果であろうと思われる。四基の内紀年銘のあるのは城南村上増田のものと榛名町高浜の二基である。

前橋市上増田町(現市立図書館)

高さ一三・六センチ、巾四五・四〇五三センチの板状の石の上面に、南北と方位を示し放射線状に地名と距離を記してある。「右ふくしま一り、五科二り、左まいはし三り、さねまさ三り、右さんたい一り、大胡二り、左いせさき一り、文政七年十一月、上増田阿佐見善蔵」と建立者の名が記されている。福島・五科・実正は利根川渡河地点である。

赤城村持柏木字庚申塚



赤城村持柏木の磁石型道標

高さ一六センチ、直径六〇センチの円形に加工された安山岩の表面に、放射状に方向と距離を記し、中央に「心」の一字を刻し、その周囲に東・西・南・北と記し、「日光十八里余、前橋三里半、高崎六里余、榛名町六里、沼田五里半、赤城三里半」と六方面が記されている。更にそれを取囲む様に周縁に丸く一首の和歌が記されている「よつの方むつのちまたにわかるれとこころひとつにたつねてそゆ

け、三水舎」と万葉仮名で草体に書かれている。側面に「勢多郡持柏木邑」とあるが、建立年月日や建立者名は無い。元は六本辻の中央に置かれて旅人に見易い様になっていたが、今は保存の為、道路の傍らに移建してある。磁石型道しるべ中の逸品である。村指定文化財。

#### 富士見村引田字馬場裏

三差路中央にあり高さ一五センチ、直径五〇センチの円形、放射状に「引田村・米の・山口・こぐれ・大ご」と記し、○印の下に北と記して方位を示してある。

#### 榛名町高浜字六本辻

高さ四〇センチ、巾七〇〜八〇センチの平板な石の上面に放射状に「高さき、やはた、むろ田、はるな、志らいは、のみち」と六方の道の地名を示している。南側面に「文化十四（以下欠損）」と建立年が記してある。

#### 富岡市上丹生字木戸坂

直径六三センチの円形の石の上面に変体仮名で、放射状に方位と地名が記してある。「東いたはな、南下仁田、西ふどう明（下部欠損）（上部欠損）井出」とあり「十二村 施主 さわ子」とある。欠損部には「王」と「北ま」を加へれば地名がハッキリする（みやま文庫道しるべ）。

石灯籠を兼た道しるべは現存するものは十四基であるが、他の道しるべと同様隠滅した物もあると考えられる。現存する物から何基かを上げて紹介して見よう。

#### 高崎市倉賀野下町

えんま堂のある中仙道と例幣使街道の分去りの辻にある石打籠には、竿石の台に「右中山道、左日光道、文化十一年<sup>甲</sup>戊八月四日、高橋佳年女書

常夜灯」とあり、その台石には歌舞伎役者の名前から、力士の雷電、鬼面山、佐渡嶽、鏡岩等々の名前、伊香保、草津、四万等の温泉地の旅館主名、江戸、信濃、京都等の遠隔地の寄付者名、板鼻の木島、藤木川岸の小樽などの富豪等多人数の関係者名が台石の四方にぎっしり刻されている。

#### 高崎市大八木町諏訪神社入口

石灯籠の竿石に「常夜燈」とあり裏に「詩仏老人書、文化十二年歳在乙亥夏」と記し、反対面に多野郡新町宿の学者田口秋因の和歌が刻してある。「灯の光にさすか行かへのひとよ夜な夜な迷はずもがな」旅人が迷はぬ様にと祈りをこめた歌である。この灯籠にまつわる挿話をみやま文庫「道しるべ」から引用させて貰う。「この道標は、もとは多野郡新町の神流川原に建っていたものである。それを明治二十四年になって、大八木村のものが譲り受けて移したものである。新町先の神流川は、水量が少ないので、徒歩渡りができた。中仙道を旅する人はこの川を渡って、武州から上州へ、上州から武州への旅をしたのであるが、後には仮り橋もできたらしいが、夜になるとこの灯籠と埼玉側の灯籠の一对に灯が入り、それを見通して川を渡ったので「見通し灯籠」とよんでいた。埼玉県分はいまもある。この灯籠については面白い話がある。例の俳人小林一茶が、文化五年に新町宿に泊っていると、村役人と寺僧が訪れて、こんど旅人のために灯籠を立てるので篤志寄附をしてほしいと頼んだ。貧乏俳人の一茶は極力断わったが、ついに十二文とられてしまい「手枕や小言いふても来る堂」の一句をつくっている。そうした金が集まって、文化十二年にできあがったのがこの灯籠である。有名な広重と英泉の合作になる「中仙道六拾九次」の浮世絵の新町には、ちゃんとこの灯籠が描かれている」

### 高崎市鼻高町少林山

この灯笼道しるべは、信州高遠の石工の作で、竿石に「御神灯」と大書し、右側面に「茲よ里、少林山北辰堂三丁、妙義五里、榛名六里」と里程を記し「文化六」己三月吉日「講中」と建立年月を記し尚、土地の俳人四名の四季の句を一句宛記し、其他関係者名が記してある。元は石段にかかる川の手前であったが、何者かに倒されたので其後現在地に移建した。

### 吾妻町萩生分去り

昭和二十五年三月頃道路改修の為埋没したのを昭和六十年四月三日発掘し、元の位置より約三米離して再建したという経緯のある、灯笼型道しるべである。「常夜塔」と竿部に、台石に「右ハくさず、左ハやむら道」右側に「明和四歳」丁亥十月吉日「惣村中」と記されている。昭和二十五年と言えば、敗戦後の物資不足と精神生活の混乱で、似非民主主義者や、似非社会共産主義者等が横行し、文化財破壊を特々としていった時代である。吾妻町に於いて荒廃した時代の潮流の現れの一端を、のぞき見られようとは思ひもよらない事であった。運の悪い灯笼と言う事が出来るであろう。

### 草津町草津南本町運動茶屋

泣きとらうの名で親しまれているこの灯笼には「献燈」と竿石に、他の所に「当温泉四十度入浴、万延元年庚申林鐘穀旦、建立者上州新田郡阿久津村、白石栄左衛門正庸」と記し、基段の一つに「沢渡・中之条・四方・伊香保・沼田・日光道」裏側に「江戸・高崎・川原湯・大戸・長野原・信州道」と刻してある。建立者白石栄左衛門は尾島町阿久津の富豪で、信仰心が深く各地の社寺に、献納品が残っていた今も見ることが出来る。子孫も現存している。

### 子持村鯉沢

この道しるべ灯笼は、小川の流れる中洲に建ててあり、竿石に「奉納弁才天、右沼田町清水越、左草津善光寺道」とあり右側面に「明治二十丁」亥「第七月」と記してある。明治になってからのものには珍しい弁財天信仰と兼用の道しるべである。



滝沢不動の丁石  
新里村関竜光寺門前

### 安中市新宿

風雅な形をした庚申塔と兼用の道しるべ灯笼である。竿石一ぱいの大きな字で「庚申塔」と記し裏面に「従は一宮大日街道」と刻し、背面に「享和二年九月中宿村講中」とある。世話人は木下左衛門、字は「高竜書」とある。尚一宮は貫前神社、大日は富岡市黒岩村にある大日堂をさしている（みやま文庫調べ）。

次に銘文に特徴のあるものを上げて置き度いと思う。

### 前橋市東大室町三差路

半肉彫の地藏立像の下に「念仏塔」と刻し、右側面に「願以此功德、普及於一切、我等与衆生、皆共成佛道」と法華経卷第三、化城喻品第七の偈文の中の言葉が記してある。この偈文は天台宗では総回向文としている。左に「明和六丑歳十一月吉日」基部に右「二ノ宮道」左「いせさきミち」と記す

### 前橋市西大室町

「為有縁無縁南無阿弥陀仏、延享二丑年十二月吉日」と造立趣意と年月を記し「南いせさき□□や東左大まま道、右大原道、西大胡、前橋道、北ゆのさわ道」と道しるべを記し「千吉良氏」と造立者が記してある。

### 前橋市荒子神社

尖頭角柱の正面に「奉鎮猿田彦尊」台石に「当邑講中」と記し基台に「東志もおふや道、南いせさき道、西まゐは志道」とある。奉鎮とは珍しい。

### 前橋市上増田町近戸神社

正面に「兼奉唱阿弥陀称号二百万遍供養□」右に「右まへばし道」左に「左こま加た道」裏に「皆明和五<sub>子</sub>歳三月吉日施主□□」と建立年月と施主名を記してある。

### 高崎市上中居町

馬頭観世音像の下正面に「奉造立供養馬頭観世音」寛政十一<sub>己</sub>未季十一月吉祥日、為善男善女等現当利益也」右側に「<sub>イ</sub>奉誦誦普門品供養塔、世話人、北ハこミち、東はとうや道」と記し、左側に「<sub>イ</sub>奉順礼秩父卅四箇所供養塔、願主成心、世話人、講中四拾人、南はら道」とある。馬頭観世像を建立し、観音経誦誦、秩父札所順礼の供養塔をまとめ、道しるべを付

けて造塔回向を行ったのである。

### 高崎市観音山埋立地南

一般県道吉井安中線T字路に、如意輪観音坐像の下に「右東北高崎道、右西富岡、下仁田路、左南小幡、福島途」とミチ字を三様に書分け、碑の裏面に「初無西東、今有北南、知迷歧路、無人山陰、弘囊碑費、賽仏誠心、夜行加護、如意観音」と道しるべを建立した趣意を記してある。建立者は「高崎市中紺屋町、高橋手、勘兵衛謹立、同清七郎補助」とある珍しい道しるべである。建立年月日が記して無い。

### 高崎市大八木町

総高二一センチ、巾八四センチの正面に「道祖神」と大字で書き、台石の正面に「右玉村、いせさき道」左側に「左まへばし道」裏に「享和紀元辛酉初冬大八木邑、無幻道人光旒書、石工白鳥常七」と記した堂々たる道しるべである。無幻は上毛三大書家の一人と称された、文化六年六十七才で没した。

### 伊勢崎市下道寺町字塔の辻

正面に「猿田彦大神」その下に「右五りやう、左やつたわたし」と記した円柱型の道しるべには「万延紀元庚申歲拜庚申尊一万基同秋九月庚申日建之、下道寺村中」庚申塔参拝一万基とは良く数えたと感心するのみである。

庚申塔巡拝記念塔は県内他に例が無いのではないだろうか。

### 太田市矢場恵林寺

高さ一一八センチの地藏菩薩立像に「法界御供養、延享十三<sub>丙</sub>寅十月廿四日、村中」台石に「右ハ小林道、左は台之郷」とある。法界御供養とは



珍しい銘文である。

沼田市今井町中山峠下

石造弘法大師像を安置した台石の正面に「南無大師遍照金剛」、その左  
右に「秩父、西国、坂東、四国」と百番観音札所と大師八十八番札場が記  
してある。「安永九<sub>子</sub>三月日、今井村願主星野氏」「右ハぬまた道、左ハ加  
ミカは多道」と道しるべが付けてある。

館林市松原一丁目

「奉建立地藏尊」右に「一慶善心皆具成仏導」左に「享保二十年卯月十  
日」左り花山道と下に道しるべが付けてある。面白いのは「皆具成仏導」  
と最後の一字が道でなく「みちびく」になっている事で花山へ導くとかけ  
たのであろう。

藤岡市一丁目増信寺

高さ一七四センチ、巾二七・五センチの角柱を高さ三一センチの台石上  
に建つ立派な道しるべがある。正面に「左江戸、本庄、八幡山」右側面に  
「右秩父、渡瀬、鬼石」左側面に「左妙義、榛名、高崎、吉井」と記し裏  
面に「行人取路遇岐旁疑之、而於衛衛人馬錯雜之際動輒角不用意、誤行数  
里帰者常多、雖郷人亦不違俟之一々問審以指南、故今相議建議義碑欲令莫迷  
途者也」と道しるべ建立の意図を記し「天保壬辰冬十一月望、鶴年書、幹  
旋、浅見作兵衛、小松幸兵衛、田部井与兵衛、新井半兵衛」と建立年月日  
と書者、幹旋者氏名が記してある。この碑は元藤岡市の三本辻で、本庄へ  
行く広い道の分岐点にあった道標である。(市指定文化財)

藤岡市篠塚久保西宝院

反花を造出した六角の基礎上に六地域を陽刻した六角柱を安置し、六角

の笠を載せた六地藏塔がある。基礎に「太随求陀羅尼十万遍、大仏頂陀羅  
尼十万遍、奉誦誦、願主光現院現住、陟除行純」と記し更に他面に「願以  
此功德、普及於一切、我等与衆生、皆共成仏道」と回向文と「若人欲了智、  
一世一切仏、應感法界性、一切唯心造」と大方広仏華嚴經の偈を記し「崑  
安永二巳年十一月吉日、施主篠塚村中、右ふじをか道、左新町道」と建立  
年月と道しるべがある。元これは五本辻にあったのを移建したのである。

藤岡市篠塚南県道十字路

反花のある四角の基礎上に蓮台を置きその上に角柱をたて笠を載せた総  
高一二九センチの碑身東面中心に「南無阿彌如来」左右に「伏勝地藏菩薩、  
不休息地藏菩薩」南面に「南無阿閼如来」左右に「弘法大師、達磨大師」  
西面に「南無宝生如来」左右に「禅林地蔵菩薩、無二地藏菩薩、天明七年  
丁未五月吉日」北面に「南無薬師瑠璃光如来」左右に「護讚地藏菩薩、諸  
竜地藏菩薩」基礎東面に「右くらがの、左ふじおか」南面に「右しんまち、  
左よしい」と道しるべが記してある。(市指定文化財)

群馬郡榛名町榛名神社参道玉垣親柱

「奉献江戸本町塩原屋太助、文化五<sub>戊辰</sub>年八月吉祥日、御師大学坊小山  
金太夫寛一、子年男信州高遠藤沢郷、御堂垣外藤原政吉正敬、是よりいか  
は江二里半」塩原太助寄進の玉垣親柱の銘である。

群馬郡箕郷町白川橋たもと

子育地藏像の背面に「南無妙法蓮華經」と題目を記し台石に「いかほ、  
みのわ、左志らかわ、白岩」と道しるべを記す。日蓮宗信者の造立である  
う。

吾妻郡吾妻町大柏木の場

馬頭尊像の下に「為志童男童女菩提也、天明五年、上州吾妻郡大柏木村」  
台石に「右ハやまみち、左ハすがをみち」と記す。男女子供たちの回向の  
為めに村中で馬頭観音像を建立し、道しるべとしたのである。

吾妻郡長野原町中棚観音堂

乳児を抱いた子安観音坐像を蓮台上に安置し、その下の棹石に「為早世  
菩提」右側面に「右たき沢」左側面に「文化五<sub>戌</sub>辰六月吉日」基台に「施  
主篠原茂左エ門、同伝右エ門、釈氏石梁」。早世した子供供の供養に観音像  
を建立し合せて道しるべを付けたのである。

同郡長野原町大津洞口

地藏像に「為善入如清法子、明和七年六月十二日、右ハくさつ、左ハ〇  
〇〇」これも前のものと同様、早世した子供供の供養の為に地藏像を建立し、  
合せて道しるべを付け、地藏に死んだ子供供の極楽への案内をたくした親心  
が偲ばれる一基である。

新田郡新田町木崎大通寺

正面に「聖徳太子」と大書し「新田源朝臣道純拜書 天保十一年歳在庚  
子十一月吉祥日立之、当駅世話人、吉田新五郎他三十六人、右大門、左大  
原、大間々」三十七名の結衆で田島の殿様新田道純の揮毫を得て建立した  
ことが知れる。

新田郡藪塚本町大原滝原清作氏庭

頂部方錐状の角柱に南面「江戸道、太田、木崎、足利」西面「あ津満道、  
三泰、前橋、大胡、伊香保、伊勢崎、草津」北面「足尾銅山日光道、相生、  
大間々、赤城山」東面「天保四年癸巳初秋建、上州新田大原駅、在こ道」

とある「あ津満道」とある珍しい道標。

新田郡笠懸村阿左美南光寺

表の下に「<sup>ナム</sup>アミダ<sup>ミダ</sup>」と正面に梵字で名字を書き側面に「寒念仏供  
養、延享四<sub>丁</sub>卯天立春日」と行事と建立年月日を記し、基礎正面を道しる  
べとしている、名字を梵字で書いた寒念仏供養塔の道しるべは他に無いで  
あろう。

邑楽郡板倉町岩田蛭田沼北谷田川提上

駒型角柱塔に「水神塔、安永九<sub>庚</sub>子七月吉日、岩田村、北岩ふねみち、  
西たてばやしみち」とある。水神塔の道しるべは県内これ一基ではないだ  
ろうか。度々の洪水で甚大な被害を受ける土地が想像される。

板倉町飯野中新田浅間神社入口

頂部を櫛型に造った角柱上半部各面に地藏立像を半肉彫とし、その下中  
央に「為先祖菩提」その左右に「天明四辰天、十二月吉日」その下右に「施  
主」左に「活門禅心法印」左右側面地藏像下に道標を付けてある。先祖の  
供養と共に、自他同證、平等利益を実践しているのである。

邑楽町狸塚

正面に「不退妙転為菩提」と書き、「上州狸塚村、享和四<sub>甲</sub>子二月吉日」  
下に「右五かかし、ちう志よう、左たてばやし」とある。不退妙転為菩提  
とは珍しい銘文である。簡単に言えば「有縁無縁供養塔」の一基と見れば  
良いであろう。

上  
州  
の  
道  
祖  
神

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
下大島町 来迎寺	駒形町 駒形神社裏手	駒形町 駒形神社	駒形町 駒形神社	駒形町 駒形神社	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(3)	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(2)	上佐鳥町 春日神社 神楽殿南(1)	六供町 寿延寺門前	川原町 市杵嶋神社	所在地
高さ 68 cm 巾 56 cm 総高 98 cm	高さ 61.5 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 45 cm 総高 103 cm	高さ 67 cm 巾 41 cm 総高 106 cm	高さ 50.5 cm 巾 23.5 cm 総高 62.5 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 91 cm 巾 55 cm 総高 99 cm	高さ 75 cm 巾 47 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 68 cm 総高 88 cm	高さ 55 cm 巾 32 cm 総高 71 cm	方量
天明 2	安永 2	寛政 12	寛政 2	天明 3	明和 8	明和 8	寛政 4	天保 12	不 明	年代
道祖神 七月吉祥日 天明二壬寅年勢多郡下大島村 講中	(擁肩握手) 安永一癸巳年 正月吉日	道祖神 (ウラ)寛政十一巳未年 十二月吉日	道祖神 (ウラ)寛政二庚戌歳 四月吉祥日 天明三癸卯年	道祖神 (ウラ)明和八年卯年九月吉日 西原中	道祖神 (ウラ)昭和八年丙卯年九月吉日 新町中	神祖神 (ウラ)寛政四壬子歳八月 中英書	道祖神 (ウラ)寛政四壬子歳八月 中英書	(降臨型) (ウラ)天保十二年辛丑二月吉日 村中		銘
自然石	(像高四三榎)	自然石	自然石	位牌形	自然石	自然石	自然石	下部地中	像高 32 cm	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
二之宮 赤城神社	上増田 蓮花院隣 八幡宮	上増田 蓮花院隣 八幡宮	上増田 蓮花院隣 八幡宮	西片貝町 竜沢寺東参道	西片貝町 玉蔵院	西片貝町 竜沢寺東参道 入口左側	西片貝町 竜沢寺東参道 入口左側	小屋原町村社 稲荷神代	小屋原町村社 稲荷神社	所在地
高さ 85 cm 巾 72 cm 総高 100 cm	高さ 125 cm 巾 60 cm 総高 140 cm	高さ 28 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 32 cm 総高 67 cm	高さ 66 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ cm 巾 47 cm 総高 89 cm	高さ 81 cm 巾 53 cm 総高 104 cm	高さ 85 cm 巾 75 cm 総高 108 cm	高さ 115 cm 巾 46 cm 総高 141 cm	高さ 114 cm 巾 66 cm 総高 139 cm	方量
天明 2	不 明	不 明	文化 5	不 明	天明 8	安永 8	文政 8	元延 元	文久 元	年代
道祖神 (ウラ)天明二壬寅□□	□□神 (ウラ)願主□村伊之吉 細野龍次郎	□祖神	道祖神 (ウラ)文化五戊辰四月吉日	道祖神	道祖神 (ウラ)天明八戊申年三月吉日 講中	神祖神 八月吉日 西片貝村 講中	文政八酉歳 二月吉日 当村中 北こめの道 東おふご 南まいせさき 西まやばし	岐塞神 (ウラ)萬延元庚申年八月日 上毛野朝臣成孝拜書團	道祖神 (ウラ)文久元辛酉年三月吉日 西原講中	銘
自然石	凝灰岩製	凝灰石製	自然石	自然石	自然石	自然石	道標	自然石(板状)	自然石(板状)	備考

前橋市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
上新田 雷電神社	下石倉 菅原神社	小相木町 富士浅間神社 入口	下大屋 産泰神社 神門前	三河町 正幸寺	下阿内 諏訪神社前	大渡町 王守神社	櫛島町 飯玉神社	南町 水神社	上増田蓮花院隣 八幡宮	所在地
高さ 60 cm 巾 42 cm 総高 77 cm	高さ 85 cm 巾 100 cm 総高 108 cm	高さ 79 cm 巾 50 cm 総高 77 cm	高さ 70 cm 巾 45 cm 総高 86 cm	高さ 72 cm 巾 53 cm 総高 96 cm	高さ 66 cm 巾 50 cm 総高 81 cm	高さ 49 cm 巾 35 cm 総高 69 cm	高さ 75 cm 巾 45 cm 総高 75 cm	高さ 110 cm 巾 50 cm 総高 130 cm	高さ 100 cm 巾 82 cm 総高 100 cm	方量
寛保元	寛政11	不明	文化13	寛政3	明和6	享保11	明和8	安永5	不明	年代
寛保元年 西十二月吉日	(ウラ) 寛政十一巳未年 二月吉日 村中		道祖神 文化十三丙子年八月	道祖神 寛政三辛亥 願主子供中 陽月大吉日	道陸神 明和巳丑 十一月吉日 村中	享保十一乙酉□□月吉日	道祖神 (ウラ)明和八辛卯天 八月吉日	道祖神 (ウラ)安永五丙申歲十一月吉日	道祖神	銘
像 高 16.5 (酒器持舟形)	自然石 (酒器持舟形) リンゴ彫	自然石 (元利根川端 (擁肩握手宝冠) 旧三河道にあつた (大徳寺近く)	隸書体	自然石		上部破損 (雨神共瓢持ち)		隸書体	自然石	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
田口町 雷電神社裏 福德神社横	田口町 雷電神社裏 福德神社横	関根町 赤城神社	関根町 赤城神社	関根町 赤城神社	下新田 稻荷神社	下新田 稻荷神社	上新田町 雷電神社	上新田町 雷電神社	上新田町 雷電神社	所在地
高さ 70 cm 巾 57 cm 総高 105 cm	高さ 108 cm 巾 44 cm 総高 141 cm	高さ 64 cm 巾 39 cm 総高 69 cm	高さ 79 cm 巾 52 cm 総高 105 cm	高さ 88 cm 巾 76 cm 総高 133 cm	高さ 87 cm 巾 76 cm 総高 122 cm	高さ 85 cm 巾 51 cm 総高 40 cm	高さ 53 cm 巾 30 cm 総高 59 cm	高さ 52 cm 巾 31 cm 総高 60 cm	高さ 62 cm 巾 44 cm 総高 85 cm	方量
不明	文化7	天明6	不明	不明	文化12	天明8	宝暦4	不明	寛保元	年代
道祖神 施主村中	道祖神 文化七庚午初春旦 當村中	道祖神 天明六丙午歲 霜月吉祥日	奉輓祖猿田彦尊	道祖神 村中	文化十二乙亥歲 村中	道祖神 天明八戊申季 正月吉日	道祖神 宝暦四天 正月吉日	团二月日 戌戌天	寛保元□酉歲 十二月吉祥日	銘
楷書体	尊書体	自然石	自然石	自然石	自然石にリン ゴ彫酒器持	篆書体	自然石	像 高 30 舟形、握手擁角	像 高 34 舟形握手擁肩	備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	田口町 雷電神社裏 福守神並び	高さ 77 cm 巾 33 cm 総高 104 cm	安永 9	道祖神 安永九庚子年 八月吉日	安永九庚子年	自然石
六供町 八幡宮 鳥居わき	北代田 八幡宮	古市町 公民館 和尚塚	大友町 鏡宮神社	大友町 鏡宮神社	三俣町 三俣神社	石倉町上石倉 神明社	石倉町上石倉 神明社	文京町 八幡宮	田口町 雷電神社裏 福守神並び	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
高さ 59 cm 巾 45 cm 総高 84 cm	高さ 82 cm 巾 50 cm 総高 105 cm	高さ 54 cm 巾 39 cm 総高 93 cm	高さ 58 cm 巾 36 cm 総高 94 cm	高さ 60 cm 巾 31 cm 総高 91 cm	高さ 45 cm 巾 24 cm 総高 58 cm	高さ 64 cm 巾 41 cm 総高 94 cm	高さ 86 cm 巾 41 cm 総高 103 cm	高さ 77 cm 巾 33 cm 総高 104 cm	高さ 59 cm 巾 45 cm 総高 84 cm	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
安永 5	安永 4	不明	不明	不明	天明元	享保16	不明	天保 2	安永 9	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
道祖神 (ウラ) 安永五丙申天十一月吉日	道祖神 安永四乙未歳 十一月吉日	寒念仏 供養 施主村中 (握手・擁肩) 申三月吉日	□保五年□十一月吉日	道祖神 天明元丑年 五月廿四日 狩野氏	道祖神 享保十六辛未□月吉日	道祖神 天保二辛卯年 十二月吉日 右さねまさ 左はぎはら	道祖神 安永四乙未歳 十一月吉日	道祖神 安永九庚子年 八月吉日	道祖神 安永五丙申天十一月吉日	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
自然石	自然石	舟形光背、像底 略部に講中、四名 とあるとのこと	舟形(酒器持)	舟型(握手・擁肩)		宝珠欠五輪塔 の火輪を代用	舟型(双体像 肩・帽子・擁 像高四二センチ)	自然石(道標 倒伏・番石は一 米のところにあ る草書体)	自然石	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	女屋町 桃川神社 女屋町公民館	高さ 100 cm 巾 69 cm 総高 137 cm	天明 5	道祖神 (ウラ)天明五乙巳年 仲□吉日 講中	天明五乙巳年	自然石
総社町野馬塚 神明宮	若宮町 飯玉神社	鳥取町 鳥取橋際	勝沢町 勝城神社	勝沢町 勝城神社	鳥取町 大鳥神社	鳥取町 大鳥神社	鳥取町 大鳥神社	上泉町 赤城山玉泉寺	女屋町 桃川神社 女屋町公民館	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
高さ 127 cm 巾 68 cm 総高 187 cm	高さ 97 cm 巾 58 cm 総高 114 cm	高さ 70 cm 巾 40 cm 総高 90 cm	高さ 38 cm 巾 24.5 cm 総高 62.5 cm	高さ 87 cm 巾 48 cm 総高 135 cm	高さ 68 cm 巾 40 cm 総高 83 cm	高さ 77 cm 巾 70 cm 総高 109 cm	高さ 104 cm 巾 57 cm 総高 139 cm	高さ 98 cm 巾 49 cm 総高 138 cm	高さ 100 cm 巾 69 cm 総高 137 cm	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
安永 3	天明 5	天明 5	不明	不明	安永 6	天明 5	安永 6	文政 5	天明 5	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
道祖神 安永三甲午年 二月吉祥日	道祖神 (ウラ) 天明五乙巳年四月吉日 當村中	天明五□巳歳 五月吉祥日 曲輪中	道神宮	道祖神	道祖神 安永六丁酉歳 九月吉祥日	道祖神 (ウラ)天明五乙巳年 四月吉日 曲輪中	道祿神 安永六丁酉歳 九月吉祥日	道祖神 ウラ 文政三庚辰歳 三月吉日 上泉村西 西組	道祖神 (ウラ)天明五乙巳年 仲□吉日 講中	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考
自然石	自然石	擁破 風形 肩	鳥居の額篆書	自然石		自然石	自然石		自然石	⊗	所在地	方量	年代	銘	文	備考

前橋市

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番号
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	形状
下長磯 お上人塚	下長磯 お上人塚	小島田 神明宮	笄井 近戸神社	駒形 琴平宮	富田町 吹地	泉沢一 区	泉沢一 区	泉沢一 区	荒口町 前原	所在地
高さ 36 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 47 cm 総高 83 cm	高さ 89 cm 巾 50 cm 総高 99 cm	高さ 107 cm 巾 60 cm 総高 127 cm	高さ 58 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 68 cm 巾 38 cm 総高 83 cm	高さ 55 cm 巾 50 cm 総高 73 cm	高さ 73 cm 巾 50 cm 総高 88 cm	高さ 75 cm 巾 63 cm 総高 90 cm	高さ 95 cm 巾 110 cm 総高 125 cm	方量
寛政 5	天保 15	天明 3	享和 3	文化 14	文政 5	寛政 13	安永 8	天保 15	天保 3	年代
道祖神 寛政五丑九月日 小川与□	道祖神 天保十五甲辰正月吉日 村中「願主世話人」生方□ 裏いせさき	道祖神 天明三癸卯歲四月吉日 御普請方 前島藤兵衛 道祖神 道橋守護 當村願主 浅野亨之丞(他五名略)	道祖神 享和三亥歲 四月吉日 當村中	道祖神 文化十四丁丑歲 正月吉日 上町中	道祖神 文政五壬午年四月吉日 大沢氏	道祖神 寛政十二庚申 十二月 吉旦	安永八己亥年 八月吉日 東さんたい明神道 南いせさき道 北大こ之道	天保十五甲辰年 六月吉日 村中	右福嶋北さんたい(裏) 天保三壬辰十一月吉日 村中	銘文
下部地中	基部地中		台石は石臼	自然石 下部地中			道標		自然石道標 隆臨形	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番号
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	形状
青梨子町 熊野神社	上青梨子町 淡島神社	青梨子町 前原上宿	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	上青梨子町 新田	上青梨子町 淡島神社	上青梨子町 淡島神社	所在地
高さ cm 巾 42 cm 総高 70 cm	高さ cm 巾 93 cm 総高 106 cm	高さ cm 巾 96 cm 総高 105 cm	高さ 48 cm 巾 102 cm 総高 cm	高さ 107 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ cm 巾 43 cm 総高 64 cm	高さ cm 巾 42.5 cm 総高 65 cm	高さ 40 cm 巾 45 cm 総高 66 cm	高さ cm 巾 99 cm 総高 126 cm	高さ 106 cm 巾 75 cm 総高 cm	方量
明和元	明和 3	明和 2	明和元	明和元	宝暦 9	宝暦 9	寛保 3	享和 3	不明	年代
明和元申天 十一月吉祥日 前原村	明和三年四月吉日 観念仏講中	明和乙卯二年七月吉日 上屋敷中	明和元己卯天十二月大吉日 元物社鳥場□中	明和元甲申十二月 村金井□中	宝暦九□□ 月吉日	宝暦九己卯天十二月 物社前納手	奉造立 寛保三癸亥天七月吉祥日 当中	享和三 癸亥三月日 上青梨村		銘文
像高 43		像高 38	えぼし とっくり、林	倒れている	像高 23	像高 17		像高 32	形をとりめす 集めた。よって原 関越道工事のため 移転し、一ヶ所に 集めた。よって原	備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番形
②	②	②	⑤	⑤	⑤	②	②	②	⑤	所在地
元総社町 宮鍋様	元総社町 宮鍋様	青梨子町前原 上宿二二〇	元総社町 総社神社	元総社町 宮鍋様	元総社町 総社神社	元総社町 総社神社	上青梨子町 三ツ屋峰巢 建具店前	池端町 神明宮	青梨子町前原 上宿二二〇	所在地
高さ cm 巾 33 cm 総高 47 cm	高さ cm 巾 49 cm 総高 65 cm	高さ cm 巾 43 cm 総高 81 cm	高さ 100 cm 巾 62 cm 総高 30 cm	高さ cm 巾 82 cm 総高 100 cm	高さ 90 cm 巾 61 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 74 cm 総高 cm	高さ cm 巾 56 cm 総高 73 cm	高さ 39 cm 巾 50 cm 総高 110 cm	高さ 59 cm 巾 66 cm 総高 111 cm	方量
不明	不明	嘉永 4	文化元	享和元	寛政 6	天明元	安永 7	明和 7	宝暦 14	年代
	(表)殿町 宝暦乙巳年□□吉日	嘉永四年辛亥六月吉日 願主 松下蔵	文化元年甲子歲三月(裏)新田町中 □藤忠啓	道俣神 宮司道人光端書 享和紀元 辰西初冬	寛政六年寅五月吉日 元惣社村上町	天明元歲 中町 南たかさき 十二月吉日	安永七戌歲五月吉日	明和七年庚寅年九月十五日 池端村	宝暦十四癸申三月吉祥日	銘文
林 徳 利	徳 へ 利 束	像 高 46		酒 器 持	像 高 31	像 高 31 ②ハート型 道標、酒器持	像 高 33			備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
⑤	②	⑤	②	②	②	②	②	②	⑤	所在地
上泉町 宝林寺	鳥羽町 大福寺西の辻	上泉町 西林寺	総社町野馬塚 神明宮	上青梨子町 淡島神社	上青梨子町 淡島神社	元総社町 総社神社	青梨子町前原 上宿一一二〇	青梨子町前原 上宿一一二〇	青梨子町字熊野前 熊野神社	所在地
高さ 75 cm 巾 48 cm 総高 90 cm	高さ 107 cm 巾 74 cm 総高 137 cm	高さ 50 cm 巾 33 cm 総高 58 cm	高さ 57 cm 巾 48 cm 総高 85 cm	高さ 45 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 63 cm 巾 38.5 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 57 cm 総高 cm	高さ cm 巾 36 cm 総高 49 cm	高さ cm 巾 36 cm 総高 63 cm	高さ 45 cm 巾 57 cm 総高 99 cm	方量
天明 8	文化 10	不明	享保 6	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 天明八戊申天十月吉日	(天孫降臨型) 文化十□□	道祖神	享保六年 (併立右酒器持左傘?) 丑四月十二□						道俣神	銘文
	像 高 38	自然 石	像 高 46 cm			徳 へ 利 束	像 高 45	像 高 45 天孫降臨形		備考



130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
房丸 公民館前	房丸 四体明神	鶴小路 極楽寺境内社	川曲町 岡田家霊園三差路 (中央高校東方)	前箱田町 稲荷大明神	西箱田公民館 菅原神社境内	西箱田公民館 菅原神社境内	西箱田公民館 菅原神社境内	西箱田公民館 菅原神社境内	後家町 稲荷神社	所在地
高さ 110cm 巾 85cm 総高 3cm	高さ 73cm 巾 51cm 総高 3cm	高さ 62cm 巾 33.5cm 総高 20cm	高さ 107cm 巾 75cm 総高 122cm	高さ 62cm 巾 37cm 総高 67cm	高さ 39cm 巾 34cm 総高 109cm	高さ 95cm 巾 40cm 総高 109cm	高さ 48cm 巾 34cm 総高 68cm	高さ 66cm 巾 46cm 総高 74cm	高さ 57cm 巾 42.5cm 総高 68cm	方量
安永 3	安永 3	明和 6	寛政 4	宝暦 3	不明	文化 5	享保 12	元文 5	寛保 3	年代
道祖神 十一月大吉日 安永三 甲 季	道祖神 十二月喜祥日 右まいはし 房丸邑中 安永三 甲 午 季	(握手擁肩) 願主 明和六 巳 丑年九月吉日 地家村 阿内村 女講中	道祖神 寛政四 壬 子年八月吉祥日 當村 (台石) 右惣社道 左高崎道	宝暦三 癸 酉天 酒器持(瓶子盃) 十一月吉日	道祖神 自然石 下部地中	道祖神 文化戊辰季冬穀日 西箱田村	(擁肩、男神(向つて左が女神の下部を抑えている)) 十一月吉日 享保十二 天	(握手擁肩) 元文五年庚申 十二月吉日	寛保三 癸 亥天 (握手擁肩) 七月吉日	銘
自然石 道標	自然石 台無	破風型 像高 33	自然石 道標	像高 39 舟形光背 台石下部地中	自然石 下部地中	自然石に篆書 で大きく	舟形光背 像高 34 光背上部欠	舟形光背 像高 43	舟形光背 像高 三九・五	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
矢嶋町 村社 鈴之宮神社境内	南大類町 大住神社境内	中嶋町寺前 公民館東 観音堂跡	元嶋名町西方 百庚申前	下大類町 荒木正一宅裏 道端	矢嶋町前村 堀端	矢嶋町 村社 彦島神社境内	宿大類町 公民館東	上大類町 飯玉神社境内	上大類町 井上コーポ前	所在地
高さ 86cm 巾 40cm 総高 117cm	高さ 57cm 巾 29cm 総高 57cm	高さ 60cm 巾 41cm 総高 60cm	高さ 80cm 巾 135cm 総高 150cm	高さ 46cm 巾 36cm 総高 46cm	高さ 45cm 巾 30cm 総高 45cm	高さ 60cm 巾 37cm 総高 70cm	高さ 57cm 巾 42cm 総高 68cm	高さ 64cm 巾 37cm 総高 69cm	高さ 55cm 巾 42cm 総高 62cm	方量
不明	慶応 3	延享 2	寛政 12	宝暦 4	明和 8	元文 5	寛延 2	不明	不明	年代
道祖神	道祖神 慶応三 丁 寅卯年正月吉日 南大類村 総代 天田富次郎	延享二 天 巳九月吉日 (握手)	寛政十二 庚 申十二月吉日 元嶋名村西方中	宝暦四年 甲 戌十一月吉日笠原中 (酒器持)	明和八卯年 (酒器持)	元文五 申年三月吉日 □祖神 酒器持 矢嶋 反町清右衛門 反町彦一良	寛延二 己 巳年正月吉日願主 (酒器持) (台)道祖神	(酒器持ち)	(擁肩握手)	銘
自然石	自然石真二つ に割れている	天明三年浅間焼の折泥 押しより埋没ものを田 口孝氏が屋敷の礎の元大 木を知ったとき根元より り出土セル由	自然石 リンゴ彫	光背形		光背形	光背形	破風形 向右側面男 根彫有		備考

上州の道祖神一覽

78 - 82 頁は

個人情報が含まれるため非公開

高崎市

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	所在地
倉賀野町下町 諏訪神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町上町 倉賀野神社	倉賀野町 田子屋	下佐野町 翁橋西の辻	下佐野町 「放光神社」南	下佐野町 「古峯神社」	上佐野町「西光庁」 東の辻	下大類町 新居八雲道社	所在地
高さ 85 cm 巾 50 cm 総高 122 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 74 cm 巾 50 cm 総高 135 cm	高さ 80 cm 巾 45 cm 総高 90 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	方量
天明3	不明	不明	文化5	宝暦5	不明	不明	文化15	不明	宝暦13	年代
道祖神 天明三 <small>癸卯</small> 季正月吉祥日 <small>氏子</small>			文化二年乙丑正月吉日 上町惣子供施主大熊三右エ門	宝暦五乙亥正月吉日 田子屋	道祖神 翁講中	道祖神 左□□□□右八野道 □□元甲申天十月吉日	文 <small>し</small> 斎守一書 道祖神 文化十五戌寅 三月吉日	道祖神	道祖神 宝暦十三戌未 正月吉日	銘
						明和元年 宝永元年 ⑤道標				備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	所在地
栗崎町 栗崎神社	栗崎町 栗崎神社	東中里町 水雷若御子神社	台新田町 稻荷神社	下之城町 諏訪神社	下之城町 諏訪神社	下之城町 水路端	下之城町 松村	新後閑町 琴比羅宮東三差路	倉賀野町下町 諏訪神社	所在地
高さ 63 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 102 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 54 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 45 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 37 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 47 cm 巾 36 cm 総高 70 cm	高さ 100 cm 巾 75 cm 総高 cm	高さ 75 cm 巾 56 cm 総高 128 cm	方量
不明	不明	不明	不明	延享元	天保2	延享2	不明	天保4	不明	年代
道祖神	道陸神	□享元甲天十一月吉日中村村中		延享元甲子天十一月吉日下之城村	□保二年辛卯三月吉日下之城村	延享二乙丑年 正月吉日		天保四巳 二月日	道祖神 氏子	銘
										備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	所在地
綿貴町 赤城神社	下中居町	下中居町	下中居町 普門寺入口の反対側	上中居町 諏訪神社入口西	上中居町 宇名室 諏訪神社	上中居町 宇名室 諏訪神社	上中居町 極楽寺前	下大類町 丸二家具本店うら	矢中町 東外水路端	所在地
高さ 69 cm 巾 40 cm 総高 94 cm	高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 82 cm	高さ 68 cm 巾 48 cm 総高 123 cm	高さ 60 cm 巾 47 cm 総高	高さ 93 cm 巾 40 cm 総高 120 cm	高さ 63 cm 巾 35 cm 総高	高さ 34 cm 巾 42 cm 総高	高さ 58 cm 巾 36 cm 総高	高さ 63 cm 巾 35 cm 総高	高さ 51 cm 巾 35 cm 総高	方量
天明 6	天保 6	安政 4	享和 3	文政 6	天明 4	延享 2	不 明	安永 7	不 明	年代
綿貴村講中 天明六丙午年十二月吉日 道祖神	衛陸神 天保六乙未年霜月吉日 当所 新井中	道祖神 安政四丁巳正月吉辰西北中 松琴邦喜書	道祖神 享和三亥年 霜月吉日	道陸神 文政六癸未歲正月吉日当所氏子中	道祖神 天明四年甲辰正月吉日 宇名室中	延享二乙丑年 □月吉日	延享□□年 十二月吉日	道祖神 安永七年 八月吉日	道祖神	銘
						欠				備考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	所在地
南大類町 馬頭観音堂	南大類町 馬頭観音堂	八幡原町 八幡宮	下滝町 赤城神社	下滝町 赤城神社	下滝町 赤城神社	上瀧町 滝宮神社	綿貴町 天王さま	綿貴町 天満宮	綿貴町 諏訪神社	所在地
高さ 76 cm 巾 51 cm 総高 89 cm	高さ 39 cm 巾 34 cm 総高	高さ 67 cm 巾 46 cm 総高	高さ 54 cm 巾 40 cm 総高	高さ 82 cm 巾 55 cm 総高	高さ 95 cm 巾 62 cm 総高	高さ 75 cm 巾 60 cm 総高	高さ 75 cm 巾 43 cm 総高 88 cm	高さ 99 cm 巾 41 cm 総高 114 cm	高さ 90 cm 巾 47 cm 総高 120 cm	方量
宝曆 4	宝曆 3	寛政 元	宝曆 7	文化 15	不 明	宝曆 6	明和 6	天明 5	天明 6	年代
宝曆四甲戌天正月吉日	(宝曆) □□三癸酉歲 正月吉日 大類村	道祖神 寛政示己酉	道祖神 宝曆七年巳九月吉日	文化十五戌寅年 正月 道祖神 下瀧村		道祖神 宝曆六丙子天十一月吉日	明和六己丑天八月吉祥日 道祖神	道祖神 天明五巳正月吉日 綿貴 小林中	天明六丙午年十二月吉日 道祖神 曲師講中	銘
										備考

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
中豊岡町 観音寺西藤川端	中豊岡町 上台公民館西	中豊岡町 下台公民館	上豊岡町 東洋デンホル十字路 剣崎との境	豊岡町 和風レストラン 「肉の橋」脇	上豊岡町 宗伝寺南水路端	藤塚町 総の宮	佐野窪町	下佐野町 一本松橋カーブ手前	南大類町柳原 馬頭観音堂	所在地
高さ 96 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ 94 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 68 cm 巾 50 cm 総高 82 cm	高さ 75 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 52 cm 総高 cm	高さ 133 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 130 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 45 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 90 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 33 cm 総高 cm	方量
明和 7	宝暦 4	宝暦 12	明和 6	不 明	寛政 12	宝暦 3	不 明	天保 14	宝暦 6	年代
道祖神 明和七庚寅 九月吉辰	道陸神 宝暦四歳 戌三月吉日	道祖神 宝暦十二年 六月吉日下台	道祖神 明和六年八月 吉日	道祖神 西三月中洗造立之	道祖神 寛政十二年庚申 前村中 丁六月吉日	道祖神 宝暦三四年 正月吉辰	□保二	道祖神 天保十四年 癸卯正月吉日 原講中	□曆六子十一月吉日中大類峯□村中	銘
						自然石	舟形	自然石		備考

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
片岡町二丁目 南東の角 33	片岡町三丁目 変形十字路	乗附町下乗附 乗附公民館脇	乗附町下乗附 乗附一号橋さわ	乗附町上乗附	乗附町上乗附	鼻高町上鼻高 天満宮	鼻高町上鼻高 天満宮脇を南へ登 るY字路	上豊岡町食堂 里見道「茜」脇	上豊岡町 「四川の脇を北に 入った左手	所在地
高さ 116 cm 巾 45 cm 総高 166 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 130 cm 巾 110 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 68 cm 総高 cm	高さ 85 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 49 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 96 cm 巾 90 cm 総高 132 cm	高さ 76 cm 巾 42 cm 総高 cm	方量
元治 2	不 明	享保 11	安永 9	天明 5	天保 6	不 明	不 明	宝暦 11	明和 元	年代
道祖神 元治二乙丑年 正月吉祥日 氏子中	道祖神 寛□□□□四月	道祖神 享保十一年 四月吉日	道祖神 安永九子年 四月吉日	道祖神 天明五乙巳年 正月吉日 氏子中 当村	天保六□□年二月廿日 上州□□□村			道祖神 宝暦十一巳年 十一月六日 村中	奉斎 明和元甲申年 道祖神 十有一月甲寅	銘
自然石	板状石塔	自然石	自然石	自然石	起舟形	舟形	自然石	自然石		備考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
寺尾町 館一号橋、二号橋 中間Y字路	寺尾町 姥山公民館の角	寺尾町 「寺尾小」西南の角	寺尾町 二号橋東三差路	寺尾町 根古屋から寺尾へ 入ってY字路	石原町東半田	石原町東半田 東半田公民館脇	石原町 三高塚古墳入口北路傍	石原町 有賀園脇を東南に入 った三差路	石原町 有賀園入口の辻	所在地
高さ 145 cm 巾 90 cm 総高 182 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 105 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ 93 cm 巾 66 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 68 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 108 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 120 cm 巾 76 cm 総高 cm	方量
文政 2	嘉永 3	不 明	寛延 3	文化 8	不 明	宝暦 9	不 明	不 明	不 明	年代
道祖神 文政二 <sup>己</sup> 卯歳正月吉日 当町氏子中	道祖神 嘉永三年 九月吉日	道祖神	道祖神 寛延三庚午 正月吉日	道祖神 文化八年 <sup>辛</sup> 未仲秋 当所中	道祖神 当以下埋没	道祖神 宝暦九 <sup>己</sup> 卯歳 七月吉日 当郷中	道祖神		道祖神	銘
自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	舟形	自然石	備考

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
阿久津町岩立 山名団地西T字路	山名町 山名八幡宮	阿久津町 旧端県道端の道祖 神脇を入った田中 のT字路	木部町田端 県道端	阿久津町氏宅 ブロック塀の角	阿久津町 氏宅東の路傍	阿久津町 「心洞寺」北うらの角	阿久津町 滝沢吉野顕彰碑脇を西 に入った突きあたり	阿久津町 共栄橋の南を左折堤 防下のT字路	阿久津町 共栄橋南石垣下	所在地
高さ 58 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 28 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 44 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 32 cm 総高 cm	方量
不 明	不 明	享保 14	不 明	不 明	明和 5	不 明	不 明	不 明	宝暦 5	年代
		享保十四 <sup>己</sup> 酉正月吉日	安 <sup>(上部欠半ばで折損)</sup> □□亥□□□村田端	宝暦□年 正月吉日阿久津村	明和五年子正月吉日	阿久津村	□□津西村組 (年部分欠損)正月吉日	(上部欠損)	宝暦五 <sup>乙</sup> 亥年五月吉日 阿久津	銘
				舟形	舟形	板碑形	舟形		起舟形	備考

高崎市

200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
山名町 光尊南東十字乾水踏帯	山名町 光台寺南東十字路 水路帯	下豊岡町 千日堂の西丁字路	根古屋町 宝祥寺西十字路北側	根古屋町上組 金沢碑入口東十米程	根古屋町中郷 根古屋城址登り口	根古屋町 薬師沢橋北	片岡町 児童公園南西角	上佐野町 天神さま	山名町戸屋 山名停車場線十字路 を東に入った右手	所在地
高さ 30 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 29 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 89 cm 巾 67 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 80 cm 総高 117 cm	高さ 155 cm 巾 120 cm 総高 cm	高さ 86 cm 巾 47 cm 総高 132 cm	高さ 100 cm 巾 90 cm 総高 116 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 37 cm 総高 cm	方量
不明	不明	宝暦13	明和6	明和5	明和2	明和4	天保4	寛保3	不明	年代
□祖神		道祖神 宝暦十三□□	道祖神 明和六己丑年 当所 正月吉祥日 講中	明和五戌子年 根小屋村 道祖神 正月吉祥日 上組	道祖神 明和二乙酉天	道祖神 明和四丁亥年五月吉祥日 当村 下組	(酒器持ち) 天保四癸巳年五月吉日落合氏子中	(肩くみ手にぎり) 寛保三亥年 正月吉祥日	道祖神	銘
欠損	欠損	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	舟形		備考

202	201	番形
⊗	⊗	所在地
上乘附大黒	中豊岡町 中華料理 四川うら庭	所在地
高さ 66.7 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	方量
正徳5	不明	年代
(合掌) 十二月吉日	正徳五乙未戌	銘
破風形	欠損	備考

桐生市

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
境野町六丁目 祥雲寺門前	広沢町五丁目	広沢町四丁目 水神橋下	広沢町二丁目 雷電神社	広沢町間の島 金井自動車近く	梅田町五丁目 石鴨	梅田町四丁目 猿石	梅田町四丁目 荷場	梅田町一丁目 湯沢	梅田町一丁目 大門	所在地
高さ 38 cm 巾 38 cm 総高 79 cm	高さ 32 cm 巾 32 cm 総高 61 cm	高さ 41 cm 巾 41 cm 総高 75 cm	高さ 58 cm 巾 58 cm 総高 155 cm	高さ 31 cm 巾 31 cm 総高 67 cm	高さ 60 cm 巾 41 cm 総高 84 cm	高さ 78 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 79 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	方量
不明	不明	寛政11	寛政8	不明	宝暦4	天明7	天明6	不明	天明5	年代
道祖神	道祖神	道祖神 寛政十一年星舎 己未秋八月	道祖神 寛政八年 星舎丙辰春三月	道祖神	宝暦四年 十一月日 (亀に乗る)	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 天明五乙巳晩冬吉日 願主 内田平四郎 内田平左登	銘文
					石鴨部落入口 舟重文	二渡神社 自然石 楷書	残馬神社里言 自然石 楷書	齊言神社 自然石 行書	西方寺沢 自立石 行書	備考

15	14	13	12	11	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
永明寺 川内町三丁目	赤城神社 川内町二丁目	忠霊塔 川内町五丁目	川内町五丁目 四三〇	川内町一丁目 峠	所在地
高さ 40 cm 巾 40 cm 総高 70 cm	高さ 50 cm 巾 50 cm 総高 118 cm	高さ 35 cm 巾 35 cm 総高 46 cm	高さ 30 cm 巾 32 cm 総高 61 cm	高さ 31 cm 巾 31 cm 総高 71 cm	方量
天明7	安永9	文政3	不明	不明	年代
道祖神 天明七丁未十一月吉日 當所願主星野氏	道祖神 安永九庚子二月吉日	道祖神 文政三庚辰年二月吉日 願主今泉三之助			銘文
			舟形	合舟掌形	備考



上州の道祖神一覧 89、90頁は  
個人情報が含まれるため非公開

46	45	44	43	42	41	40	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
飯島町 葉師堂	長沼町 養気山	馬見塚清水町 一五八 五十嵐 ホンダ北	中町和田三九二	上之宮町 倭文神社	宮子町 一四一〇一五 中野建設西	稻荷町 今村神社	所 在 地
高さ cm 巾 41 cm 総高 60 cm	高さ cm 巾 34 cm 総高 56.5 cm	高さ cm 巾 36.5 cm 総高 41 cm	高さ cm 巾 29 cm 総高 82 cm	高さ cm 巾 59.5 cm 総高 76 cm	高さ cm 巾 17 cm 総高 46 cm	高さ cm 巾 46 cm 総高 69 cm	方 量
不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	年 代
道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	銘  文
自 然 石	駒 型	自 然 石	自 然 石	自 然 石	自 然 石	箱 型	備 考

4	3	2	1	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	
(鳥山)新野 赤城神社	(宝泉)下田島 日吉神社	(強戸)寺井 聖王寺	(宝泉)下田島 日吉神社	所 在 地
高さ 88 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 42 cm 巾 27 cm 総高 cm	高さ 88 cm 巾 51 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 24 cm 総高 cm	方 量
天保 5	文化 5	寛政 6	寛政 6	年 代
道祖 猿田彦大神	天保五年歳八月吉祥日 (握手) 願主桑原氏	寛政六甲寅年五月壬寅日 道祖神	寛政六甲寅年正月吉祥日 道祖神	銘  文
自 然 石				備 考

沼田市

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
新 上久屋町 田 屋	北 尾形原町 原 形	篠 屋形原町 尾 形	井 土上町 中 井	町 田町(西) 塔 之辻	石 墨町(東) 大 神宮境内	石 墨町(東) 新 田	上 久屋町 十 二反	上 川田町 新 田	石 墨町 な べかいと	所 在 地
高さ 54 cm 巾 33 cm 総高 54 cm	高さ 66 cm 巾 36.5 cm 総高 66 cm	高さ 53 cm 巾 36 cm 総高 53 cm	高さ 57 cm 巾 30.5 cm 総高 57 cm	高さ 54 cm 巾 34.5 cm 総高 54 cm	高さ 64 cm 巾 36 cm 総高 85 cm	高さ 78 cm 巾 48 cm 総高 112 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 60 cm	高さ 61 cm 巾 40 cm 総高 78 cm	高さ 34 cm 巾 47 cm 総高 34 cm	方 量
延享 2	延享元	延享元	寛保 4	寛保 2	元文 5	元文 5	元文 4	元文 4	元文 2	年 代
(道祖神双神像) 延享二丑歳 四月吉日	(道祖神双神像) 延享元甲子年十月吉日	(道祖神双神像) 延享元甲子年六月吉日	(道祖神双神像) 寛保四年 子三月吉日	(道祖神双神像) 寛保二年 五月吉日	(道祖神双神像) 元文五年 四月吉日	(道祖神双神像) 元文五年 申四月吉日	己 千時 元文四年 (道祖神双神像) 未仲春吉日立之	(道祖神双神像) 元文己未年五月吉日 奉造立道祖神上川田村小池孫次郎	(道祖神双神像) 元文二丁巳 二月吉日	銘 文
光背型 肩くみ手握り	破風型 肩組み手握り	破風型 肩組み手握り	破風型 手握り	光背型 手握り	破風型 肩組み手握り	自然石 肩組み手握り	光背型 手握り 女神のかぶるも の特徴あり	板碑型 酒器持ち手握り	自然石 肩組み手握り	備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
中 湯舟橋上 発 知町	鍛 鍛冶町 正 覚寺観音堂前	真 坊新田町 庭 今助家脇	善 善桂寺町 満 天宮	恩 恩田町 野 神社	武 武尊神社 尊 神社	上 上久屋町 上 久屋神社	下 下久屋町 新 田	戸 戸鹿野町 東 原寺	井 井上上町 諏 諏訪神社	所 在 地
高さ 61 cm 巾 32 cm 総高 61 cm	高さ 57 cm 巾 33 cm 総高 57 cm	高さ 59 cm 巾 37 cm 総高 59 cm	高さ 79 cm 巾 45 cm 総高 79 cm	高さ 58 cm 巾 39.8 cm 総高 58 cm	高さ 56.5 cm 巾 32.5 cm 総高 54.5 cm	高さ 58 cm 巾 39 cm 総高 58 cm	高さ 57 cm 巾 34 cm 総高 71 cm	高さ 58 cm 巾 36 cm 総高 73 cm	高さ 61.5 cm 巾 36.5 cm 総高 61.5 cm	方 量
延享 4	延享 4	延享 3	延享 3	延享 2	延享 2	延享 2	延享 2	延享 2	延享 2	年 代
(道祖神双神像) 延享四丁卯稔 四月吉日 施主中組	(道祖神双神像) 延享四丁卯年 四月吉日	(道祖神双神像) 延享三丙寅十一月吉日	(道祖神双神像) 延享三丙寅 七月吉日 村中	(道祖神双神像) 延享二年 十二月吉日	(道祖神双神像) 延享二歳 丑十一月吉日	(道祖神双神像) 延享二丑歳 八月吉日	(道祖神双神像) 延享二乙丑歳 六月吉日中口	(道祖神双神像) 延享二年乙丑 六月吉日	(道祖神双神像) 延享二丁巳 五月吉日	銘 文
破風型 手握り	破風型 肩くみ手握り	光背型 肩くみ	破風型 肩くみ手握り	光背型 肩くみ手握り	破風型 手握り	光背型 肩組み手握り	光背型 肩組み手握り	光背型 手握り	光背型 肩くみ手握り	備 考

沼田市

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
屋形原町 八幡宮	新町 千日堂横	高橋場町 原田神明宮	下川田町 宿	戸神町上	奈良町 武尊神社	岡谷町 辻	下川田町 宮塚	下川田町 宮塚	横塚町 新井茂次家前	所在地
高さ 78 cm 巾 36 cm 総高 98 cm	高さ 61 cm 巾 40 cm 総高 83 cm	高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 75 cm	高さ 95 cm 巾 59 cm 総高 110 cm	高さ 69 cm 巾 43 cm 総高 88 cm	高さ 57 cm 巾 37.5 cm 総高 57 cm	高さ 59 cm 巾 40.5 cm 総高 59 cm	高さ 41.5 cm 巾 37 cm 総高 46.5 cm	高さ 56.5 cm 巾 34 cm 総高 76.5 cm	高さ 33 cm 巾 34 cm 総高 33 cm	方量
寛延 2	寛延 2	寛延元	寛延元	延享 5	延享 5	延享 4	延享 4	延享 4	延享 4	年代
(道祖神双神像) 寛延二己巳年 四月吉祥日 施主広瀬組	(道祖神双神像) 寛延二年 巳十一月吉日 氏子三拾人	(道祖神双神像) 寛延元戊辰天 十月吉小(日) 式拾人 當村	(道祖神双神像) 寛延元戊辰年 九月吉祥日 施主前宿中	(道祖神双神像) 延享五辰四月吉日 破風型	(道祖神双神像) 延享五辰天施主 三月吉祥日 十二月木氏	(道祖神双神像) 延享四年四〇月吉日 施主敬白	(道祖神双神像) 享四丁卯十一月吉日 願主宮塚組中 (上部欠損)	(道祖神双神像) 延享四丁卯十一月吉日 願主宮塚組中	(道祖神双神像) 享四丁卯年六月吉祥 願主辻氏敬白 (上部欠損)	銘文
破風型 酒器持	光背型 肩くみ手握り	破風型 肩くみ手握り	石殿型 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	光背型 肩くみ手握り	光背型 肩くみ手握り	光背型 肩くみ手握り	箱型 肩くみ手握り	光背型 手握り	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
今井町	秋塚町	屋形原町 横子	今井町	町田町(東) 天満宮	下川田町 滝	下川田町 平井	堀廻町 河内神社入口	硯田町 天満宮	上川田町 新田	所在地
高さ 67 cm 巾 30 cm 総高 67 cm	高さ 52 cm 巾 31.5 cm 総高 52 cm	高さ 63 cm 巾 32 cm 総高 63 cm	高さ 66 cm 巾 38 cm 総高 86 cm	高さ 66 cm 巾 33 cm 総高 66 cm	高さ 59 cm 巾 35 cm 総高 79 cm	高さ 60 cm 巾 36.5 cm 総高 72 cm	高さ 68 cm 巾 43 cm 総高 90 cm	高さ 64 cm 巾 33 cm 総高 81 cm	高さ 53 cm 巾 30 cm 総高 53 cm	方量
宝暦 5	宝暦 3	宝暦 3	宝暦 3	寛政 4	寛延 4	寛延 4	寛延 3	寛延 3	寛延 3	年代
(道祖神双神像) 宝暦五乙亥八月吉辰	(道祖神双神像) 宝暦三癸酉天 十月吉日	(道祖神双神像) 宝暦三年 五月吉日	(道祖神双神像) 宝暦三年五月吉日	(道祖神双神像) 寛延四未十月吉日	(道祖神双神像) 寛延四歲辛未 閏六月吉日	(道祖神双神像) 寛延未天 三月吉日	(道祖神双神像) 寛延三年午年	(道祖神双神像) 寛延三庚午天九月吉日 硯田村中	(道祖神双神像) 寛延三全月吉日	銘文
光背型 手握りホホよせ	駒型風 肩くみ手握り	破風型 御弊の變形した ようなものを持	光背型 手握りホホよせ	破風型 肩くみ手握り	破風型 肩くみ手握り	破風型 手握り	光背型 肩くみ手握り	破風型 手握り	光背型 肩くみ手握り	備考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
透	登	下	下	下	下	下	上	中	中	所在地
上登知町 門	登知新田町 池田神社	下登知町	下佐山町	下川田町 関口	下川田町 大竹	下登知町 諏訪神社	上川田町 東光寺入口	中登知町 湯舟橋上	中登知町 岩本	
高さ 54 cm 巾 33 cm 総高 54 cm	高さ 49 cm 巾 31 cm 総高 49 cm	高さ 46 cm 巾 30 cm 総高 49 cm	高さ 77 cm 巾 36 cm 総高 98 cm	高さ 62 cm 巾 35 cm 総高 82 cm	高さ 61.5 cm 巾 40 cm 総高 85.5 cm	高さ 59.5 cm 巾 37 cm 総高 76.5 cm	高さ 55 cm 巾 30 cm 総高 77 cm	高さ 73 cm 巾 33 cm 総高 73 cm	高さ 52 cm 巾 32 cm 総高 52 cm	方量
明和 2	明和 2	明和 2	宝暦 12	宝暦 11	宝暦 10	宝暦 9	宝暦 9	宝暦 9	宝暦 7	年代
(道祖神双神像) 明和二年 十月吉日	(道祖神双神像) 明和二年乙酉 八月吉日	(道祖神双神像) 明和二年 二月吉日	(道祖神双神像) 十月吉祥日 宝暦十二年 下佐山村 同行七人	(道祖神双神像) 宝暦十一年 八月吉祥日	(道祖神双神像) 宝暦十年庚辰 四月吉日 大竹氏	(道祖神双神像) 宝暦九年 卯九月吉日	(道祖神双神像) 宝暦九乙卯天 八月吉祥日	(神祖道双神像) 宝暦九己卯 宮崎中 四月吉日	(道祖神双神像) 宝暦七丁丑 岩本中	銘文
破風型の変形 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	破風型 肩くみ手握り	破風型 手握り	光背型 酒器持ち	光背型 手握り	光背型 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	破風型 酒器持ち	破風型と思わ れる手握り	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
下	上	下	石	上	原	登	井	佐	登	所在地
後入沢 田	南 登知町	上 下久屋町	瀬久保 墨町(東)	馬 上川田町	愛宕神社 町	登知新田町 東西	井土上町 莊田城跡下の 三差路	蓮 山町(下)	松井義夫家入口 登知新田町	
高さ 58 cm 巾 30 cm 総高 58 cm	高さ 51.5 cm 巾 33 cm 総高 71.5 cm	高さ 54 cm 巾 42 cm 総高 54 cm	高さ 55 cm 巾 39 cm 総高 99.5 cm	高さ 54 cm 巾 34 cm 総高 54 cm	高さ 59 cm 巾 35 cm 総高 80 cm	高さ 57 cm 巾 29 cm 総高 57 cm	高さ 60 cm 巾 38 cm 総高 60 cm	高さ 70 cm 巾 38 cm 総高 70 cm	高さ 60 cm 巾 32 cm 総高 60 cm	方量
明和 9	明和 8	明和 8	明和 8	明和 6	明和 6	明和 5	明和 5	明和 3	明和 2	年代
(道祖神双神像) 明和九年壬辰 六月吉祥日入澤郷中 願主	(道祖神双神像) 明和八年 九月吉日	(道祖神双神像) 明和八年 四月吉日 左たぬまたち	(道祖神双神像) 明和辛卯年 三月吉日石墨新田瀬久保組 右八佐山道 左八三み称道	(道祖神双神像) 明和六丑天 十月吉日 組中 施主	(道祖神双神像) 明和六年 丑九月吉日 (台石正面)	(道祖神双神像) 明和五戊子歲 十月吉日	(道祖神双神像) 明和五戊子天 八月吉祥日	(道祖神双神像) 明和三戊天 十月吉祥日 施主敬白	(道祖神双神像) 明和二年 西十月吉日	銘文
破風型の変形 酒器持ち	破風型 酒器持ち	光背型 道標をかねる 肩くみ手握り	光背型 酒器持ち	破風型 肩くみ手握り	光背型 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	光背型 酒器持ち	破風型 肩くみ手握り	破風型 肩くみ手握り	備考

沼田市

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
岩本町 上野	上佐山町 りんごセンター前	下川田町内宿 川間神社入口	上之町 生方たつゑ家	鍛冶町 東電前	上川田町 下村	栄町	上之町 生方たつゑ家	沼須町 下河原	榛名町 榛名神社	所在地
高さ 56 cm 巾 31 cm 総高 71 cm	高さ 73 cm 巾 35 cm 総高 73 cm	高さ 55 cm 巾 35 cm 総高 94 cm	高さ 128 cm 巾 57 cm 総高 128 cm	高さ 29 cm 巾 47 cm 総高 29 cm	高さ 55 cm 巾 30 cm 総高 110 cm	高さ 130 cm 巾 42 cm 総高 130 cm	高さ 64.5 cm 巾 37 cm 総高 64.5 cm	高さ 86 cm 巾 98 cm 総高 126 cm	高さ 102 cm 巾 50 cm 総高 102 cm	方量
天明元	安永 8	安永 8	安永 7	安永 5	安永 5	安永 5	安永 5	安永 2	明和 9	年代
(道祖神双神像) 天明元年 八月吉日	(道祖神双神像) 安永八亥歳 五月吉日 下組中	(道祖神双神像) 安永八己亥年 三月吉祥日 願主内組中	道祖神 安永七戌年 九月吉祥日	道祖神 安永五甲十一月日	(道祖神双神像) 安永五甲天 十月吉日 前古屋中	道祖神 安永五申九月日	⊗ (道祖神双神像) 安永五歳甲七月十九日 長州赤間関(⊗) 妙圓尼	(台石正面)奉造立道祖神 願主 子供中敬白	道祖神 明和九壬辰年九月吉祥日	銘文
破風型 肩くみ手握り	破風型 酒器持ち	石殿型 肩くみ手握り	自然石	自然石	石殿型 肩くみ手握り	自然石	光背型 酒器持ち	自然石のくぼみに文字を刻んで	自然石	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
上発知町 北部	屋形原町 沢	硯田町 天満宮	石黒町(西) 羽黒神社	東倉内町 市村正臣家	発知中町 湯舟橋横	白岩町	奈良町 大倉	下川田町 伽藍堂	上沼須田町	所在地
高さ 39 cm 巾 19 cm 総高 39 cm	高さ 139 cm 巾 56 cm 総高 182 cm	高さ 56.5 cm 巾 31 cm 総高 59.5 cm	高さ 97 cm 巾 69 cm 総高 97 cm	高さ 104 cm 巾 58 cm 総高 104 cm	高さ 88 cm 巾 45 cm 総高 111 cm	高さ 63.5 cm 巾 33.5 cm 総高 63.5 cm	高さ 71 cm 巾 48.5 cm 総高 71 cm	高さ 66 cm 巾 34 cm 総高 66 cm	高さ 85 cm 巾 68 cm 総高 131 cm	方量
文政10	文政 4	文化13	文化 7	文化 6	享和元	寛政 3	寛政 2	天明 5	天明 4	年代
道祖神 文政十亥年 八月吉日	道祖神 文政四年 三月吉日 左こもち山	道祖神 文化十三年 丙子四月吉日	道祖神 文化七庚午年 四月吉日	道祖神(裏文化六己仲冬吉日) 右むら 左かは場か志やう山	道祖神 享和元酉年九月吉日	(道祖神双神像) 寛政辛亥仲冬立之 白岩村	道陸神 寛政二庚戌四月日	(道祖神双神像) 天明五七年八月吉日 願主 田中組	道祖神 天明四甲辰 願主(裏)正月吉祥日 村中	銘文
角柱型	自然石 道標	自然石	自然石	自然石 道標	自然石	破風型 酒器持ち	自然石	破風型 酒器持ち	自然石	備考

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
柳三光院 町	尾形原町 高尾山入口	下川田町 前入沢	篠尾町 十ノ嶺	岡谷町 西部	下久屋町 前原	下川田町 寺尾	尾形原町 錦改戸	篠尾町 十三峰	上佐山町 大神宮入口	所在地
高さ 65 cm 巾 37 cm 総高 65 cm	高さ 54 cm 巾 29 cm 総高 54 cm	高さ 79 cm 巾 49 cm 総高 117 cm	高さ 177 cm 巾 60 cm 総高 220 cm	高さ 82 cm 巾 42.5 cm 総高 82 cm	高さ 64 cm 巾 42 cm 総高 99 cm	高さ 99 cm 巾 17 cm 総高 159 cm	高さ 51 cm 巾 38.5 cm 総高 51 cm	高さ 92 cm 巾 42 cm 総高 92 cm	高さ 59.5 cm 巾 24 cm 総高 59.5 cm	方量
慶応3	慶応3	安政6	安政5	弘化3	弘化2	天保15	天保6	天保4	文政12	年代
道祖神 慶応三丁卯歳四月吉日	道祖神 慶応三卯二月吉日 願主 生方氏	道祖神 安政六己未年	道祖神 安政五戊午歳正月吉日	道祖神 弘化三甲午八月吉日 当村両組子供	道祖神 弘化二年己正月 永井氏	道祖神 天保十五年甲辰十二月吉日	(道祖神双神像) 天保六年 十月吉日	道祖神 天保四癸巳年十一月吉日	道祖神 文政十二己丑 八月吉祥日	銘文
自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	駒形 肩くみ手握り	自然石	角柱型	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
上発知町 透門先	下佐山町 竹名戸	横塚町 上組	上久屋町 粹谷菊代家	上久屋町 上久屋神社	下久屋町	下久屋町 屋敷	戸鹿野町 長田清家	材木町 平等寺	上川田郡新田 砥石神社下	所在地
高さ 67 cm 巾 37 cm 総高 67 cm	高さ 46 cm 巾 32 cm 総高 65 cm	高さ 122 cm 巾 52 cm 総高 122 cm	高さ 47 cm 巾 30 cm 総高 47 cm	高さ 65 cm 巾 41 cm 総高 65 cm	高さ 50 cm 巾 32 cm 総高 50 cm	高さ 64 cm 巾 38 cm 総高 78 cm	高さ 56.5 cm 巾 30 cm 総高 56.5 cm	高さ 53 cm 巾 35 cm 総高 53 cm	高さ 80 cm 巾 60 cm 総高 80 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	明治2	年代
道祖神	(道祖神双神像) (左) □吉 (右) 白	道祖神 右)ふ道 左加王者道	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双神像)	明治二己正月 道祖神 組中	銘文
自然石	光背型 破損激しい	自然石 道標	光背型 酒器持ち	光背型 手握り足踏み	光背型 肩組み手握り	光背型 肩組み手握り	破風型 酒器持ち	光背型 肩くみ手握り	自然石	備考

沼田市

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番 形
⊗	⊗	⊗	⊕	⊗	⊕	⊗	⊗	⊗	⊕	所 在 地
屋形原町 篠尾入口	下川田町 横子	下川田町 中	石墨町 追田薬師近く	井上上町 石原	下沼田町 武尊神社	岡谷町 大雲寺	上発知町 中	上発知町 諏訪神社前	上発知町 諏訪神社前	方 量
高さ 80 cm 巾 110 cm 総高 110 cm	高さ 61 cm 巾 40 cm 総高 61 cm	高さ 59 cm 巾 33 cm 総高 59 cm	高さ 56 cm 巾 42 cm 総高 83 cm	高さ 63 cm 巾 28.5 cm 総高 63 cm	高さ 63.5 cm 巾 33 cm 総高 63.5 cm	高さ 63 cm 巾 32 cm 総高 63 cm	高さ 34 cm 巾 26 cm 総高 49 cm	高さ 70 cm 巾 35 cm 総高 70 cm	高さ 70 cm 巾 35 cm 総高 70 cm	年 代
不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	銘 文
(道祖神双神像) 村中施主各敬白	(道祖神双神像)	(道祖神双神像) (右) □保六年 願国田⊕	道祖神	道祖神	(道祖神双神像)	(神祖道双神像)	(道祖神双神像)	(道祖神双道像)	(道祖神双道像) 二月念□□□□ □□□□	備 考
肩組み手握り 破風型	手光背型 握り型	破損激しい 破風型	自然石	自然石	肩組み手握り 破風型	破握激しい 破風型	光背型? 合掌、みみだ の神として信仰 されている	手破風型 握り型	手破風型 握り型	

113	112	111	番 形
⊗	⊕	⊗	所 在 地
岩本町 上金子組 金子家入口	屋形原町 油店	屋形原町 篠尾入口	方 量
高さ 59 cm 巾 37 cm 総高 76 cm	高さ 41 cm 巾 31 cm 総高 41 cm	高さ 50 cm 巾 35 cm 総高 50 cm	年 代
不 明	不 明	不 明	銘 文
(道祖神双神像)	道祖神	(道祖神双神像) 念佛供養□主	備 考
光背型	自然石	光背型 合掌のため 念仏供養のため の造立か	



上州の道祖神一覧 98頁は

個人情報が含まれるため非公開

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	八木原	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 110 cm	明和 2	道祖神 明和二年己未三月吉辰 建立狩野氏		
大崎	川島 甲波宿称神社	大崎	半田	中村	半田 早尾神社	中村 早尾神社	石原 猿田彦神社	上之町	八木原	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
高さ 145 cm 巾 80 cm 総高 173 cm	高さ 82 cm 巾 66 cm 総高 103 cm	高さ 80 cm 巾 70 cm 総高 108 cm	高さ 140 cm 巾 77 cm 総高 159 cm	高さ 94 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 60 cm 総高 122 cm	高さ 74 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 75 cm 総高 128 cm	高さ 145 cm 巾 110 cm 総高 175 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 110 cm	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
天明 5	天明 4	天明 4	天明 2	安永 9	安永 8	安永 8	安永 3	明和 8	明和 2	年代	銘	文	備考	銘	文	備考
道祖神 天明五年己巳年孟春吉日	道祖神 天明四年龍集甲辰閏正月吉日 植村	道祖神 天明四年辰孟春	道祖神 天明二年寅極月日新井中	道祖神 安永九年庚子孟春吉辰新屋敷中	道祖神 安永八年己亥四月吉日	道祖神 安永八年己亥年三月吉日早尾中	道祖神 安永三年甲午年石原村中建之	道祖神 明和八年辛卯十一月吉日 当驛上町連中建焉	道祖神 明和二年己未三月吉辰 建立狩野氏	銘	文	備考	銘	文	備考	

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	石原 大山祇神社	高さ 130 cm 巾 105 cm 総高 cm	天明 5	道祖神 天明五年歲次己巳冬十一月	横山田忠書 高源地村中	
八木原 諏訪神社	祖母島 宿称神社	御陰	上郷	祖母島	元町 弁財天	半田 早尾神社	行幸田	並木町 八坂神社	石原 大山祇神社	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
高さ 87 cm 巾 55 cm 総高 115 cm	高さ 80 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 55 cm 総高 cm	高さ 85 cm 巾 69 cm 総高 130 cm	高さ 134 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 161 cm 巾 100 cm 総高 cm	高さ 87 cm 巾 50 cm 総高 130 cm	高さ 150 cm 巾 100 cm 総高 cm	高さ 135 cm 巾 116 cm 総高 178 cm	高さ 130 cm 巾 105 cm 総高 cm	番形	所在地	方量	年代	銘	文	備考
享和元	寛政10	寛政6	寛政5	寛政3	寛政元	天明7	天明6	天明6	天明5	年代	銘	文	備考	銘	文	備考
道祖神 享和元年西六月吉日	道祖神 寛政十年戊午六月吉日横手中	道祖神 田大十一歳書 寛政甲寅	道祖神 上郷岡請中 皆寛政五龍星癸丑肇月日	道祖神 寛政三年冬十一月吉島願主	道祖神 寛政元年己酉三月吉日	道祖神 天明七年歲次丁未季冬良辰 願主北中	道祖神 天明六年龍飛丙□□□	道祖神 天明丙午正月吉日願主外丸	道祖神 天明五年歲次己巳冬十一月	銘	文	備考	銘	文	備考	

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
石原	有馬 渠口神社	金井	金井 八坂神社	有馬 中有馬	有馬 神戸	八木原 諏訪神社	八木原 諏訪神社	寄居町 妙法寺	半田	所在地
高さ 53 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 63 cm 総高 114 cm	高さ 77 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 124 cm 巾 93 cm 総高 147 cm	高さ 107 cm 巾 62 cm 総高 cm	高さ 97 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 68 cm 巾 38 cm 総高 cm	方量
元治 2	嘉永 7	弘化 3	弘化 3	文政 11	文政 4	文化 8	文化 5	文化 2	享和 4	年代
道祖神 元治二年正月吉日建立	道祖神 嘉永七年 <sup>甲寅</sup> 正月吉日下有馬	道祖神 弘化三年 <sup>午</sup> 閏五月	道祖神 弘化三年十一月吉祥日 下新田中	道祖神 文政十一年子十二月吉日 中有馬中	道祖神 文政巳四天	道陸神 文化八年 <sup>辛未</sup> 年孟諏吉祥日中之町	道祖神 干峯文化五龍 <sup>戊辰</sup> 孟夏吉祥日 八木原惣連中	道祖神 文化二年 <sup>丑</sup> 歲正月上旬 寄居中	道祖神 享和四歲子正月吉日半田村 善兵衛 佐次兵衛 李蔵	銘文
										備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
川島	寄居町 妙法寺	元町 秋葉神社	半田 新屋敷	有馬	石原 手川	金井 金井本町	祖母島	金井	東町	所在地
高さ 106 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 45 cm 総高 64 cm	高さ 69 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 31 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 112 cm 巾 80 cm 総高 cm	高さ 45 cm 巾 32 cm 総高 cm	方量
元文 2	享保 18	享保 18	享保 17	享保 15	享保 7	不明	不明	不明	不明	年代
元文二年 <sup>巳</sup> 二月吉日	享保十八年九月	享保十八年八月	享保十七年 <sup>壬酉</sup> 十一月吉日	享保十五年 <sup>戊午</sup> □□廿八日神戸	道陸神 享保七年 <sup>寅</sup> 十一月	(双体像)	道祖神 横手中	道祖神 岸市郎右衛門同武兵衛	道祖神	銘文
					单体像	飯塚盛一宅				備考

渋川市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
入 渋川八幡宮	大 崎	半 田 新屋敷	石 原 田中	半 田 新堀	元 町 観音堂	南 牧 十二社	入 沢 渋川八幡宮	金 井	金 井 金蔵寺	所在地
高さ 56 cm 巾 33 cm 総高 83 cm	高さ 75 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 36 cm 総高 70 cm	高さ 67 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 37 cm 総高 67 cm	高さ 59 cm 巾 30 cm 総高 78 cm	高さ 72 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 85 cm 巾 59 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 42 cm 総高 95 cm	方量
寛延 4	寛延 3	寛延元	延享 3	延享 2	寛保 3	寛保 2	寛保元	元文 5	元文 4	年代
寛延四歳 <sup>辛未</sup> 六月吉祥日	寛延三 <sup>庚午</sup> 六月吉日	□延元年月前川原中 (寛)	延享三年天十月吉辰前田中	延享二 <sup>乙丑</sup> 天八月吉日 堂開戸□方中	寛保三天九月吉日	寛保二 <sup>戊</sup> 年三月吉日	寛保元年三月吉日 南横町	元文五 <sup>庚申</sup> 九月吉日	元文四 <sup>巳</sup> 歲霜月吉祥 金井村上宿	銘文
										備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
金 井	有 馬	金 井 鳥頭百庚申	石 原	石 原 諏訪神社	祖 母 島	川 島 甲波宿称神社	行 幸 田	東 町	八 木 原	所在地
高さ 90 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 92 cm 巾 90 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 76 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 54 cm 総高 111 cm	高さ 64 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 64 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 45 cm 巾 32 cm 総高 cm	方量
明和 2	明和元	宝曆13	宝曆12	宝曆12	宝曆11	宝曆9	宝曆9	宝曆9	宝曆7	年代
明和二 <sup>乙酉</sup> 年十月吉日 岸豊後守	明和元 <sup>甲申</sup> 十二月中有間村	宝曆十三 <sup>癸未</sup> 天八月吉日	宝曆十二年十二月吉日	宝曆十二年 <sup>壬午</sup> 十月吉日建立 施主 諏訪之木邑中	宝曆十一年 <sup>巳</sup> 六月吉日	宝曆九年 <sup>壬子</sup> 十一月吉日	宝曆九年 <sup>己卯</sup> 六月吉日	宝曆九年 <sup>己卯</sup> 歲五月吉祥日	宝曆七年六月吉日 新井	銘文
										備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
金井	半田 新屋敷	金井	並木町 真光寺	金井	金井 八坂神社	石原 手川	金井 八坂神社	半田 新屋敷	祖母島	所在地
高さ 57 cm 巾 41 cm 総高 71 cm	高さ 100 cm 巾 70 cm 総高 145 cm	高さ 60 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 70 cm	高さ 73 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 40 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 124 cm 巾 103 cm 総高 164 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 35 cm 総高 70 cm	高さ 61 cm 巾 43 cm 総高 cm	方量
安政 5	嘉永 3	文化 9	天明 3	安永 10	安永 7	安永 4	明和 6	明和 3	明和 2	年代
加藤安左衛門 安政五年十二月吉日	嘉永三年歲在庚戌九月吉日新 屋舖中寄附押石並木惣右衛 門台石高橋基右衛門世話人 中沢三次郎山口郷右衛門	文化九年十一月吉日	天明三天三月吉日	安永十年丑正月吉辰願主岸氏	戊二月吉祥日宿中子供	安永四乙未歲十二月吉辰前手川	明和六己丑年十一月吉日	明和三戌天十二月吉日	明和二乙酉夏吉祥日 願主村山氏	銘文
					安永七か	二二 四				備考

80	79	78	73	76	75	74	73	72	71	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
八木原	八木原 諏訪神社	金井 脚気薬師	川島 甲波宿神社	祖母島 宿称神社	富貴原	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	入沢 洪川八幡宮	所在地
高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 72 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 25 cm 総高 75 cm	高さ 96 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 37 cm 総高 119 cm	高さ 53 cm 巾 47 cm 総高 cm	高さ 64 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 45 cm 総高 94 cm	高さ 87 cm 巾 64 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	文久 3	年代
									文久三癸辰年四月良建立 町内中	銘文
										備考

83	82	81	番形
㊦	㊦	㊦	
行幸田	石原 猿田彦神社	石原 田中	所在地
高さ 55 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 38 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	年代
			銘
			文
			備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	
藤岡旭町 八高線西	小林、舞台 風天神社	藤岡芦田町 東組	藤岡南町 前組	藤岡鷹匠町 慰霊塔北	藤岡天川町 八高線西	藤岡仲町 女子高南角	小林堀之内東 田の端	藤岡芦田町 北組	藤岡芦田町 西組	所在地
高さ 90 cm 巾 49 cm 総高 106 cm	高さ 94 cm 巾 55 cm 総高 114 cm	高さ 78 cm 巾 46 cm 総高 123 cm	高さ 63 cm 巾 29 cm 総高 63 cm	高さ 130 cm 巾 53 cm 総高 142 cm	高さ 101 cm 巾 37 cm 総高 120 cm	高さ 90 cm 巾 42 cm 総高 96 cm	高さ 68 cm 巾 51 cm 総高 68 cm	高さ 66 cm 巾 39 cm 総高 71 cm	高さ 85 cm 巾 48 cm 総高 129 cm	方量
不明	寛政3	文政10	寛政12	寛政12	寛政9	寛政3	不明	明和4	元文2	年代
道祖神 □□□□ 甲 正月建之	道祖神 嘉永三年庚戌十一月再建	道祖神 文政十丁 亥 天正月吉日	道祖神 寛政十二庚申	道祖神 寛政十二庚申年 四月吉日	道祖神 寛政九丁 巳 年四月吉日 笹末上中上町新丁	道祖神 寛政三辛 亥 正月中町中	道祖神 □□八辛 □歳正月吉祥日	道祖神 明和四歳寅九月吉日 芦田□北村組	道祖神 元文二丁 巳 正月吉日 上組	銘
線香立あり 自然石、緑色片岩	左下部が剥落 自然石、緑色片色	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩 下部割れめあり	自然石、緑色片岩 篆書体	自然石、緑色片岩 名14人を刻む	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石	文
										備考

藤岡市

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	
下栗須西組 稻荷神社	下戸塚 宮側下り	上戸塚 島戸塚神社	小林舞台東 堀の端	藤岡四丁目東 庚申堂	藤岡四丁目東 庚申堂	藤岡吉田町 中宿	藤岡宮本町 浅間神社	藤岡南町 下組公会堂	藤岡、山崎 運動公園東	所在地
高さ 105 cm 巾 50 cm 総高 133 cm	高さ 56 cm 巾 30 cm 総高 63 cm	高さ 51 cm 巾 38 cm 総高 63 cm	高さ 32 cm 巾 21 cm 総高 32 cm	高さ 37 cm 巾 25 cm 総高 37 cm	高さ 73 cm 巾 46 cm 総高 73 cm	高さ 56 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 64 cm 巾 31 cm 総高 64 cm	高さ 65 cm 巾 45 cm 総高 79 cm	高さ 72 cm 巾 53 cm 総高 75 cm	方量
明和 4	不 明	明和 8	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	年代
道祖神 明和四〇〇〇 左正〇〇〇〇村中		明和八辛 卯天〇月十四日 上戸塚	道祖神 中野〇	道祖神 願主 平五郎	道祖神 当所 水井整一郎	道祖神 中宿組	〇祖神	道祖神	道祖神 山崎村子供建	銘
自然石 綠色片岩	舟型、砂岩 崩落著し	舟型、安山岩 握手	自然石 綠色片岩、行書体	自然石、綠色片岩 石積上	自然石、綠色片岩 石積上	自然石、褐色 コンクリート台上	自然石	自然石、綠色片岩 コンクリート台上	自然石 綠色片岩	文
										備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	
下戸塚上方 西の田の端	岡之郷 上郷新田	下戸塚宮地 水沼神社	上戸塚赤塚 笹川橋横	下栗須東組 手長神社	上戸塚 島戸塚神社	上戸塚原 笹川岸	岡之郷温井 光蓮寺	岡之郷、台門 新幹線南	岡之郷、下郷 西口	所在地
高さ 83 cm 巾 62 cm 総高 83 cm	高さ 128 cm 巾 56 cm 総高 148 cm	高さ 73 cm 巾 50 cm 総高 73 cm	高さ 86 cm 巾 80 cm 総高 86 cm	高さ 78 cm 巾 27 cm 総高 112 cm	高さ 68 cm 巾 48 cm 総高 93 cm	高さ 113 cm 巾 93 cm 総高 133 cm	高さ 83 cm 巾 43 cm 総高 83 cm	高さ 127 cm 巾 56 cm 総高 148 cm	高さ 88 cm 巾 40 cm 総高 168 cm	方量
不 明	不 明	安政 7	天保 15	寛政 12	寛政 2	寛政 2	寛政 元	安永	安永 8	年代
道祖神	道祖神 〇〇〇〇 吉祥日	道祖神 安政七庚 申歳北組 杏所泰〇	猿田彦 天鈿女 嘗天保十五甲 辰年正月吉日	道祖神 寛政十二庚 申九月吉日	道祖神 庚寛政二年正月吉日 宮地子供中	道祖神 寛政二年戊八月吉日 戸塚村原子供中	道祖神 寛政元酉年九月〇	道祖神 安永〇年二月吉祥日	道祖神 〇〇八己 美歳左正〇吉日 講中	銘
自然石 綠色片岩	自然石 片岩	自然石 綠色片岩	自然石、綠色片岩 右側縦に割れる	自然石 砂岩、行書体	自然石 綠色片岩	自然石、綠色片岩 中央縦に割れる	自然石 綠色片岩、行書体	自然石 片岩	自然石 綠色片岩	文
										備考

藤岡市

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番 形
立石 下新田	立石 本立石	立石 清水南路傍	立石 茨谷戸	中下泡宮神社	森新田上宿 八一番地 天王様	森県道東	上戸塚 久保堀端	岡之郷下郷東口	下戸塚宮地 水沼神社	所在地
高さ 50 cm 巾 23.5 cm 総高 50 cm	高さ 39 cm 巾 20 cm 総高 47 cm	高さ 68 cm 巾 31 cm 総高 18 cm	高さ 49 cm 巾 30 cm 総高 71 cm	高さ 50 cm 巾 37 cm 総高 59 cm	高さ 41 cm 巾 30 cm 総高 59 cm	高さ 62 cm 巾 43 cm 総高 84 cm	高さ 56 cm 巾 25 cm 総高 73 cm	高さ 62 cm 巾 25 cm 総高 109 cm	高さ 57 cm 巾 26 cm 総高 57 cm	方 量
明和 5	寛政 11	不 明	不 明	不 明	安政 7	寛文 6	不 明	不 明	不 明	年 代
道祖神 明和五子正月吉日 下川子	道祖神 寛政十一年己未 十二月吉日	(双体浮彫)清水中□つ	(双体浮彫)	(双体浮彫)	安政七年申九月	寛文六年 村中	道祖神	道祖神	道祖神	銘
箱型 割れ目あり	箱型	下部のみ残り、 部を欠失	舟型	舟型	舟型 頭部少し損傷	舟型 折損し接着	山状角状 砂岩	角柱 熔岩積み上	自然石 緑色片岩	備 考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番 形
中栗須神明宮	上栗須 赤城神社	立石 清水南路傍	立石 西久保	中栗須神明宮	立石新田 茨谷戸	中上	中島養蚕神社	立石 後久保	立石東久保 (宮地)	所在地
高さ 90 cm 巾 45 cm 総高 90 cm	高さ 56 cm 巾 45 cm 総高 56 cm	高さ 63 cm 巾 38 cm 総高 63 cm	高さ 129 cm 巾 29 cm 総高 139 cm	高さ 97 cm 巾 47 cm 総高 97 cm	高さ 63 cm 巾 30 cm 総高 63 cm	高さ 73 cm 巾 38 cm 総高 89 cm	高さ 72 cm 巾 48 cm 総高 114 cm	高さ 89 cm 巾 58 cm 総高 89 cm	高さ 61 cm 巾 42 cm 総高 61 cm	方 量
不 明	不 明	慶応元	万延元	万延元	寛政 12	寛政 3	天明 6	安永 4	安永 3	年 代
道祖神 □□	道祖神	道祖神 慶応元丑年十一月□□ 立石村(窪田)	開闢 道祖猿田彦 万延元年	道祖神 万延元季歳次 庚申春一月子供中	道祖神 寛政十二年	道祖神 寛政三年	道祖神 天明六年正月大直 中島	道祖神 安永四乙未年 月吉日	道祖神 安永三年甲午四月吉日	銘
自然石	自然石	自然石	自然石(割り石) 緑色片岩	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	備 考



60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥
立石新田	立石立石神社	森飯玉神社東	中下泡宮神社	中下泡宮神社	中西組神社境内	中上	中上	中栗須神明宮	中栗須神明宮	所在地
高さ 85 cm 巾 35 cm 総高 97 cm	高さ 34 cm 巾 20 cm 総高 49 cm	高さ 85 cm 巾 50 cm 総高 110 cm	高さ 86 cm 巾 52 cm 総高 95 cm	高さ 94 cm 巾 63 cm 総高 108 cm	高さ 90 cm 巾 50 cm 総高 100 cm	高さ 71 cm 巾 40 cm 総高 80 cm	高さ 93 cm 巾 59 cm 総高 104 cm	高さ 46 cm 巾 23 cm 総高 46 cm	高さ 54 cm 巾 32 cm 総高 54 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 子開一月吉日	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 当所西組 七月吉日□建	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	銘
氏子中							北組中			文
自然石	箱型	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	自然石	山状角柱	自然石	備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥
上落合上郷 産胎神社北道	下大塚西組 火の見下	上大塚南組 大雲寺	上大塚南組 大雲寺	本動堂 前屋敷西組	篠塚上組 田とうし水田端	森新田明神下 大神宮前の路傍	森新田上宿 天王社	中島養蚕神社	立石清水	所在地
高さ 60 cm 巾 33 cm 総高 90 cm	高さ 54 cm 巾 38 cm 総高 72 cm	高さ 50.5 cm 巾 35 cm 総高 67.5 cm	高さ 73 cm 巾 32 cm 総高 86 cm	高さ 68 cm 巾 28 cm 総高 68 cm	高さ 53 cm 巾 42 cm 総高 53 cm	高さ 141 cm 巾 62 cm 総高 156 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 63 cm 巾 25 cm 総高 63 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 60 cm	方量
不明	宝曆14	不明	不明	天保12	明和5	不明	明治7	明治2	不明	年代
(双体浮彫)	宝曆十四年□□	(双体浮彫)	(双体浮彫)	天保十二 <sup>辛</sup> 生正月十四日 前家敷中	明和五戊子天三月吉上日 篠塚邸□□中	道祖神	道祖神 明治七年甲戌九月蓮堂謹書	道祖神 明□二巳年 中島村□□□ 正月吉日	道祖神	銘
並立、磨滅 舟型、砂岩	舟型、砂岩、左 神右を向き右足 を出す	酒器持、並立 舟型、砂岩	並立細長い 舟型、砂岩	駒形角柱 左神徳利を持つ	砂岩型	砂岩型	自然石	草書自然石	自然石	備考

藤岡市

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
下大塚西組 平地神社	下大塚東組 飯塚商店西	中大塚南組 新井正一家北 (庚申様)	篠塚西口原口 石淵貞吉家南	中大塚田中 塚の越九一五 町田実家畑角	本動堂 前屋敷西組	篠塚上組 観音堂南	上落合、長津 鍋川土手前	上落合、長津 鍋川土手南	篠塚中組 伊賀大明神鳥居西	所在地
高さ 69 cm 巾 30.3 cm 総高 88 cm	高さ 60 cm 巾 24 cm 総高 85 cm	高さ 64 cm 巾 28 cm 総高 80 cm	高さ 90 cm 巾 48 cm 総高 90 cm	高さ 71 cm 巾 43 cm 総高 81 cm	高さ 102 cm 巾 38 cm 総高 127 cm	高さ 58 cm 巾 24.5 cm 総高 78 cm	高さ 46 cm 巾 21 cm 総高 62 cm	高さ 56 cm 巾 37 cm 総高 56 cm	高さ 54 cm 巾 38.5 cm 総高 54 cm	分量
不明	弘化3	寛政12	安永5	安永2	明和9	明和3	元文2	不明	不明	年代
道祖神	道祖神 弘化三年正月十四日 下大塚村東組中	道祖神 寛政十二庚申年正月吉日 ゆ大塚お	道祖神 安永五丙申三月吉日 築塚村	道陸神 安永三天午十一月吉日 中大塚	道祖神 明和九年壬亥九月吉日 本動堂 明和九年壬亥九月吉日	道祖神 明和三丙戌十一月吉日 篠塚村上之組中	道祖神 元文二	(双体浮彫)	当邑中組	銘
山状角柱、砂岩 文字大きい	山状角柱 砂岩磨滅	自然石 緑色片岩	自然石、緑色 片岩分厚い	自然石 白茶色の片岩	自然石 緑色片岩	山状角柱	山状角柱	舟型、砂岩 頭部から折損	舟型、砂岩 並立、磨滅	文
										備考

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
緑柱久保 三又路	鮎川西 北野神社	緑柱板倉 大聖峰寺東	緑柱板倉 大聖峰寺東	緑柱下組 秩父往還南	中大塚中郷 的場墓地	上落合前組 宗永寺裏道	上落合岡組 伊勢塚古墳東	本動堂 下宿松本商店前	下大塚西組 平地神社	所在地
高さ 71 cm 巾 39 cm 総高 100 cm	高さ 75 cm 巾 27 cm 総高 75 cm	高さ 40 cm 巾 39 cm 総高 40 cm	高さ 47 cm 巾 29 cm 総高 52 cm	高さ 40 cm 巾 32 cm 総高 40 cm	高さ 40 cm 巾 50 cm 総高 58 cm	高さ 78 cm 巾 38 cm 総高 78 cm	高さ 82 cm 巾 52 cm 総高 92 cm	高さ 50 cm 巾 34 cm 総高 85 cm	高さ 74 cm 巾 53 cm 総高 74 cm	分量
明和2	宝暦12	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 明和二年乙酉十二月	道祖神 久保子共中発願主 善六 宝暦十二年八月吉日	(双体浮彫)	(双体浮彫)	□六月吉日 祈願主□	(自然石)	道祖神	道祖神	道祖神	道陸神	銘
自然石 青色凝灰岩	自然石、青色凝 灰岩、石組上に 並ぶ	光背、砂岩上部 欠損、握手、向き 合う	舟型、砂型 並立	光背形、立体的、 握手、右神が左 向き左足を出す	自然石、緑色片 岩石塊が台石上 に載る	自然石	自然石、片岩、 東鮎川岸から移 す	自然石、赤褐色、 安山岩石積み上	自然石 緑色片岩	文
										備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
鯨川東組 鎌倉街道五又路	鯨川北野神社	西平井 三島神社下佐	緑埜中郷 美国神社道東	東平井 円満寺西方塚	東平井 平野石油西	鯨川新田 滝川家南三差路	白石上郷 般若寺西	緑埜板倉 大聖峰寺東	白石、中郷 飯玉神社北	所在地
高さ 103 cm 巾 37 cm 総高 118 cm	高さ 79 cm 巾 27 cm 総高 90 cm	高さ 97 cm 巾 46 cm 総高 97 cm	高さ 70 cm 巾 36 cm 総高 96 cm	高さ 94 cm 巾 64 cm 総高 113 cm	高さ 150 cm 巾 31 cm 総高 155 cm	高さ 145 cm 巾 66 cm 総高 157 cm	高さ 55 cm 巾 28 cm 総高 55 cm	高さ 90 cm 巾 78 cm 総高 90 cm	高さ 80 cm 巾 28.5 cm 総高 100 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	寛政 3	天明 4	安永 5	明和 9	明和 6	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 正 □ □ □	道祖神	道祖神 寛政十二年庚申十一月吉日	道祖神 天明四辰年十二月吉日	道祖神 安永五丙申稔十一月吉祥日	道祖神 明和九千辰天四月吉日 右高崎 左めうぎ道	道祖神 明和六 <sup>丑</sup> 天霜月吉日 中郷組	銘
東組	中瀬									文
自然石 綠色片名	自然石、綠色 片石(日月)	自然石、砂岩、上 下の中間に割れめ	自然石、砂岩 磨減	自然石 砂岩	自然石 綠色片岩	自然石 砂岩(天引石)	自然石 青色凝灰岩	自然石、砂岩 朱入り文字	山状角柱、砂岩 朱入り文字	備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
東平井南 変電所北	東平井下宿 信号機西水路際	東平井上新町 田の畔道	緑埜板倉 大聖峰寺東	緑埜中郷 緑埜橋東方二町	東平井南東 信号機西	緑埜南英靈殿	白石城谷戸 旧道三又路	緑埜 信号機南堀の端	緑埜 齊藤家墓地東	所在地
高さ 66 cm 巾 25.5 cm 総高 84 cm	高さ 88 cm 巾 50 cm 総高 136 cm	高さ 91 cm 巾 64 cm 総高 91 cm	高さ 38 cm 巾 22 cm 総高 38 cm	高さ 108 cm 巾 45 cm 総高 122 cm	高さ 71 cm 巾 30 cm 総高 89 cm	高さ 79 cm 巾 38 cm 総高 115 cm	高さ 96 cm 巾 56 cm 総高 126 cm	高さ 82 cm 巾 45 cm 総高 82 cm	高さ 63 cm 巾 30 cm 総高 63 cm	方量
慶応 4	慶応 3	慶応 3	弘化 3	寛政 12?	寛政 12	不明	不明	不明	不明	年代
道祖神 慶応四辰歳正月吉日 上宿組	道祖神 慶応三年丁卯正月	□祖神 慶応三年 上新丁	道祖神 弘化三年十一月吉日	道祖神 寛政斗申 三月吉日	道祖神 寛政十二年庚申一月吉日宣正	道祖神	道祖神	道祖神	道祖 □	銘
砂 角柱、角丸 岩	自然石 綠色片岩	自然石 綠色片岩 上部欠	角柱、裏は荒 削り、砂岩	自然石、綠色片岩 草書体	自然石 綠色片岩	自然石 赤っぽい片岩	自然石 綠色片岩	自然石 綠色片岩	自然石、綠色片岩 木の本に倒れかか る	備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
本郷神明 前方墓地	神田宿神田 公会堂	本郷風久保 東旧池端	白石北原 裏組十二天社	白石下郷 島寺増野家畑	白石下郷 ボラ組天王山	白石下郷 滝組東坂道	西平井 大神場池東土手	西平井 平井橋東崖	東平井下新町 鮎川境	所在地
高さ 49.5 cm 巾 22 cm 総高 49.5 cm	高さ 47 cm 巾 37 cm 総高 47 cm	高さ 43 cm 巾 35 cm 総高 43 cm	高さ 63 cm 巾 65 cm 総高 85 cm	高さ 85 cm 巾 44 cm 総高 85 cm	高さ 96 cm 巾 36 cm 総高 96 cm	高さ 76 cm 巾 41 cm 総高 93 cm	高さ 90 cm 巾 65 cm 総高 103 cm	高さ 27 cm 巾 100 cm 総高 27 cm	高さ 72 cm 巾 36 cm 総高 72 cm	方量
万延元	安政 3	安永 2	慶応 3	天保 13	嘉永 6	安永 9	不 明	不 明	明治 3	年代
萬延元庚申歲閏三月吉日 願主 宮田伊左エ門	安政三年辰九月吉日	安永二乙亥十一月当所子供中	道祖神 慶応三丁卯歲正月吉日建之	道祖神 天保十三壬寅三日	道祖神 嘉永六年癸丑正月吉日	道祖神 安永九庚子年 正月吉辰	道祖神	道祖神	道祖神 明治三年歲正月吉日 下新町中立之	銘 文
厚さ 12 cm、 握手型	並舟立型	並舟立型	砂自然石	行書体 自然石、緑色片岩	自然石、緑色片岩 三社を祭る塀の東にある	自然石 緑色片岩	自然石、砂岩、 表面を削り文字 を彫る。昭和活 字より祭り復活 60年	自然石、砂岩、 長石に右書き、 崖にはめ込まれる	自然石 緑色片岩	備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
根岸 薬王寺跡	牛田新井 医光寺南方	高山中組 入山大笹	高山上組 杓子谷戸 長谷川家	高山上組 弘法井戸北	本郷寺山 瓶酒神社	神田中神田 郵便局南	保美塚ノ越	本郷神明 前方墓地	本郷中郷 東坂四辻	所在地
高さ 163 cm 巾 70 cm 総高 203 cm	高さ 44.5 cm 巾 18 cm 総高 44.5 cm	高さ 100 cm 巾 55 cm 総高 126 cm	高さ 73 cm 巾 42 cm 総高 73 cm	高さ 60 cm 巾 25 cm 総高 60 cm	高さ 67 cm 巾 27 cm 総高 78 cm	高さ 15 cm 巾 24 cm 総高 15 cm	高さ 42 cm 巾 33 cm 総高 42 cm	高さ 49 cm 巾 31 cm 総高 49 cm	高さ 34 cm 巾 29 cm 総高 34 cm	方量
天明 5	天明 4	天明 2	安永 6	安永 4	宝暦 12	不 明	不 明	不 明	不 明	年代
道祖神 天明五年十二月吉日 根岸邑中	道祖神 天明四年	道祖神 天明二寅年六月吉日 水神	道祖神 安永六年丁酉八月吉日 □□子供中	道祖神 安永四年乙未正月吉日	道祖神 宝暦十二年壬子十一月一日 願主邑中	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	銘 文
自然石 緑色片岩	自然石	自然石 緑色片岩	自然石、緑色片岩 下部折損	自然石 緑色片岩	山状角柱	舟型 磨滅著しい	舟型、砂岩 上部を欠く	舟型 頭部を欠く	舟型 上部を欠く	備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
高山 上組吞田	保美塚ノ越	三本木東組 旗立台傍	三本木 水口道東	本郷田中	本郷中郷 神明境	神田後神田 木村周作家	本郷道中郷 鎌倉街道東	矢場御巡部神社	矢場御巡部神社	所在地
高さ 84 cm 巾 60 cm 総高 106 cm	高さ 58 cm 巾 56 cm 総高 58 cm	高さ 84 cm 巾 53 cm 総高 98 cm	高さ 56.5 cm 巾 47 cm 総高 69.5 cm	高さ 80 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 48 cm 巾 23 cm 総高 48 cm	高さ 141 cm 巾 56 cm 総高 186 cm	高さ 143 cm 巾 41 cm 総高 143 cm	高さ 58.5 cm 巾 26 cm 総高 61 cm	高さ 87 cm 巾 61 cm 総高 87 cm	方量
不明	不明	不明	不明	寛政 2	元治 2	万延元	安政 7	安政 6	寛政元	年代
道祖神  村中	道祖神 左 おにし  保美	道祖神	妻 神	道祖神 寛政二庚戌年十月吉日 田中村	道祖神 元治二丑年 西□	道祖神 萬延元庚申年壬三月吉日	道祖神 安政七年庚申仲春 道中郷	道祖神 安政六年己未正月大吉□	道祖神 寛政改元酉四月吉日 村中子供	銘  文
緑色自然片岩	自然道標石	緑色自然片岩	緑色自然片岩	緑色自然片岩	緑色自然片岩	自然石	緑色自然片岩	角柱	自然石	備考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
下日野塩井 十二の森	下日野芝平	下日野 鉦沢	下日野中倉 鷲宮神宮	金井大平 大天白	下日野中倉 鷲宮神社	下日野駒留 地守神社	下日野印地	下日野高井戸 観音堂	川除宝蔵寺	所在地
高さ 54 cm 巾 39 cm 総高 69 cm	高さ 58 cm 巾 30 cm 総高 72 cm	高さ 43 cm 巾 32 cm 総高 55 cm	高さ 61 cm 巾 42 cm 総高 72 cm	高さ 55 cm 巾 43 cm 総高 55 cm	高さ 54 cm 巾 27 cm 総高 69 cm	高さ 48 cm 巾 30 cm 総高 48 cm	高さ 51 cm 巾 30 cm 総高 58 cm	高さ 43 cm 巾 36 cm 総高 57 cm	高さ 50 cm 巾 42 cm 総高 50 cm	方量
不明	不明	不明	不明	天明 9	安永 5	安永 5	享保 20	元禄 8	不明	年代
(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	天明九乙酉 施主町田李左衛門	安永五天申四月吉日 中井村	安永五□	享保二十卯□	元禄八乙亥天五月吉日	道祖□	銘  文
砂舟型、握手岩	砂舟型	上部欠損 舟型、砂岩	光背、砂岩 握手	舟型、砂岩 上部欠損、抱合	舟型、砂岩 左神右向く	光背、砂岩 握手	砂岩背	砂岩背	自然石、緑色片岩 下部地中	備考

藤岡市

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所 在 地
下日野中倉中井 鮎川南	金井稻荷神社	下日野駒留 地守神社	金井稻荷神社	下日野猪ノ田 普寛堂	上日野小柏 大谷旧道	上日野 小柏日向	上日野 小柏下組	上日野 細谷戸	下日野塩平 十二の森	所 在 地
高さ 28 cm 巾 17 cm 総高 28 cm	高さ 85 cm 巾 79 cm 総高 85 cm	高さ 54 cm 巾 28 cm 総高 54 cm	高さ 50 cm 巾 26 cm 総高 50 cm	高さ 47 cm 巾 30 cm 総高 67 cm	高さ 50 cm 巾 29 cm 総高 67 cm	高さ 54 cm 巾 23 cm 総高 64 cm	高さ 56.5 cm 巾 27 cm 総高 54.5 cm	高さ 55 cm 巾 36 cm 総高 69 cm	高さ 51 cm 巾 33 cm 総高 71 cm	方 量
安永 2	安永 2	明和 9	宝暦 11	明治 4	不 明	不 明	不 明	不 明	不 明	年 代
道祖神 安永二己年正月吉日	道祖神 安永二癸天六吉 祥日上町	道祖神 明和九辰天八月吉日 宮後村子供中	道祖神 宝暦十一 金井下町子	明治四年 六月吉日	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	(双体浮彫)	銘
自然石、砂岩 上部が割れる	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	山状角柱	舟型、砂岩 盃、徳利を持つ	舟型、砂岩 盃、徳利を持つ	舟型、砂岩、右 割れる、倒伏	光背、緑色片岩 握手	舟型、砂岩 上部が割れる	舟型、砂岩 握手	文
										備 考

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所 在 地
下日野箕輪	上日野板野 下板野	上日野小柏 奥ノ反	上日野上平	下日野芝平	下日野印地	上日野尾根	金井岡ノ原	下日野渡牛	上日野田本 辛科八幡	所 在 地
高さ 56 cm 巾 58 cm 総高 56 cm	高さ 110 cm 巾 64 cm 総高 110 cm	高さ 114 cm 巾 50 cm 総高 114 cm	高さ 103 cm 巾 33 cm 総高 116 cm	高さ 129 cm 巾 46 cm 総高 129 cm	高さ 40 cm 巾 35 cm 総高 40 cm	高さ 50 cm 巾 45 cm 総高 57 cm	高さ 70 cm 巾 44 cm 総高 94 cm	高さ 50.5 cm 巾 24.7 cm 総高 60 cm	高さ 62 cm 巾 30 cm 総高 62 cm	方 量
弘化元	天保 9	天保 8	文化 10	享和元	不 明	寛政 12	寛政 12	寛政 11	寛政 10	年 代
道祖神 弘化元年	道祖神 天保九戌戌年正月吉日	道陸神 天保八酉年	道祖神 文化十癸酉曆八月大祥日	道祖神 享和元辛酉三月日	道祖神 寛政 十月吉日	道祖神 寛政十二庚申 八月吉祥日	道祖神社 寛政庚申 六月日	道祖神 寛政十一年 正月吉日	道祖神 寛政十午歳 正月十四日	銘
自然石	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	板石加工、緑色 片岩 上下半分 に折損	割り石、砂岩 草書体	自然石	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	箱型	砂角 岩柱	文
										備 考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦
上日野細谷戸	下日野駒留 地守神社	上日野坂野 上坂野	上日野奈良山	上日野奈良山	上日野馬渡戸	下日野印地	下日野駒留 地守神社	上日野日本 辛科八幡	上日野鹿島 鹿島神社	所在地
高さ 51 cm 巾 38 cm 総高 66 cm	高さ 89 cm 巾 46 cm 総高 89 cm	高さ 62 cm 巾 35 cm 総高 76 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 50 cm	高さ 43 cm 巾 38 cm 総高 43 cm	高さ 80 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 65 cm 巾 35 cm 総高 65 cm	高さ 74 cm 巾 50 cm 総高 74 cm	高さ 79 cm 巾 48 cm 総高 79 cm	高さ 80 cm 巾 47 cm 総高 80 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	嘉永 2	弘化 4	年代
(双体浮彫)	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 嘉永一酉年 四月吉日	道祖神 弘化四丁未年三月吉祥日 鹿島村	銘
										文
砂舟 岩型	自然石 緑色片岩	自然石 後に断片あり	自然石	自然石	自然石 上部左欠ける	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩	備考

184	183	182	181	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦
緑野上郷 美国神社	緑埜下組 伝兵衛屋敷	緑埜下組 秩父住遷三本辻 斎藤家墓地	緑埜下組 秩父住遷三本辻 斎藤家墓地	所在地
高さ 114 cm 巾 46 cm 総高 123 cm	高さ 77 cm 巾 51 cm 総高 77 cm	高さ 105 cm 巾 58 cm 総高 105 cm	高さ 105 cm 巾 58 cm 総高 105 cm	方量
不明	不明	不明	寛政 12	年代
百体道祖神 No. 101 No. 103の三基を含み、計五三基現存する。全て文字碑で堀口伝兵衛(ホリデ)が寛政十二年に発願して文化二年(一七〇七)までの間(約五年間)に百基の道祖神文字塔を造立したもの。 紀年銘のあるもの八基、道標を兼ねるもの三基、篆書体五、草書体三十一、楷・行書体十四、不明二	道祖神 奉造立一百社堀口伝兵衛定寿 左白山道 第三番	道祖神奉造立一百社 二番 堀口伝兵衛定寿	道祖神 奉造立一百社 寛政十二年庚申□大願主堀 第一番 口伝	銘
				文
最大高さ 四三センチ 最小高さ 四〇センチ	自然石、緑色片岩、 竹藪内にあり 道標	自然石 緑色片岩	自然石 緑色片岩 道標	備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
高瀬 上高瀬	高瀬 内匠	高瀬 内匠	小野 高尾 千福寺	小野 須山 上組	小野 藤木	小野 桑原 日影	小野 小桑原	小野 蕨 下組	小野 後賀	所在地
高さ 54 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 66 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 55 cm 総高 cm	高さ 48 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 75 cm 総高 cm	高さ 42 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 32 cm 総高 cm	方量
延宝元	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像) 延宝 丑十一月十五日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 子年	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	銘
										文
			合 掌	祝 言	祝 言	合 掌	祝 言	握 手	合 掌	備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
黒川 黒川 戸河瀬	黒川 黒川 手代坂	黒川 黒川 手代坂	吉田 小林	吉田 小林	吉田 小林	吉田 稲荷沢	吉田 久保田居村	吉田 梅沢	吉田 神成	所在地
高さ 59 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 33 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 46 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 58 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 33 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 49 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 42 cm 総高 cm	方量
不明	不明	明和2	不明	不明	享保7	宝暦13	不明	明和4	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 明和二乙丙 正月吉日 黒川村 同行十三人	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保七壬 十一月吉日	(双体道祖神像) 宝暦十三未年 二月十五日	(双体道祖神像) 壬戌八月吉日 女中念仏供養	(双体道祖神像) 明和四丁亥六月吉日	(双体道祖神像)	銘
										文
										備考



30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
額岡本部 川久保	額岡本部 下川	額岡本部 下川	額岡本部 下川	黒上黒岩 大月	黒下黒岩 田中	黒下黒岩 砂田	黒下黒岩 砂田	黒下黒岩 芥田	黒黒川 横場	所在地
高さ 巾 総高 cm cm cm	高さ 巾 総高 34 cm 42 cm cm	高さ 巾 総高 34 cm 40 cm cm	高さ 巾 総高 50 cm 40 cm cm	高さ 巾 総高 59 cm 37 cm cm	高さ 巾 総高 59 cm 28 cm cm	高さ 巾 総高 cm cm cm	高さ 巾 総高 47 cm 25 cm cm	高さ 巾 総高 55 cm 33 cm cm	高さ 巾 総高 cm cm cm	方量
不明	不明	不明	不明	享保11	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保十一年丙午 四月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	銘
										文
測定不能	頭部を欠く					測定不能				備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
額野上部 三協	額岩部 染	額岩部 染	額南後箇下大塩	額岡本部 柳谷戸	額岡本部 東 <sup>あずま</sup>	額岡本部 日向	額岡本部 上北根	額岡本部 上北根	額岡本部 下北根	所在地
高さ 巾 総高 46 cm 37 cm cm	高さ 巾 総高 64 cm 49 cm cm	高さ 巾 総高 66 cm 39 cm cm	高さ 巾 総高 60 cm 27 cm cm	高さ 巾 総高 73 cm 46 cm cm	高さ 巾 総高 45 cm 34 cm cm	高さ 巾 総高 56 cm 41 cm cm	高さ 巾 総高 40 cm 38 cm cm	高さ 巾 総高 38 cm 39 cm cm	高さ 巾 総高 66 cm 39 cm cm	方量
不明	不明	不明	不明	宝永3	明和6	寛政12	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像) □□七□五月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 宝永三年 四月吉日	(双体道祖神像) 明和六子年 十一月吉日	(双体道祖神像) 寛政十二年 六月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) □□七□五月吉日	(双体道祖神像)	銘
										文
										備考

富岡市

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
小相野田	小相野田	小野 蕨 根古屋	小野 一の坂	小野 白岩	小野 白岩	小野 後賀	額野上 部 塩名田	額野上 部 加生	額野上 部 新加生	所在地
高さ 61 cm 巾 31 cm 総高 cm	高さ 79 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 71 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 28 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 96 cm 総高 cm	高さ 73 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 49 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 46 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	不明	寛政9	寛政元	寛政13	享保6	不明	享保6	年代
道祖神	道祖神 □□二戊天 下組相野田村	道祖神 氏子中	道祖神 明和□□	道祖神 寛政九季 正月吉日	道祖神 寛政元酉年 正月吉日	道祖神 寛政十三年辛酉正月吉日 中子氏	(双体道祖神像) 享保六辛丑天 正月吉日	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保六歳 八月吉日	銘文
				下部埋れる						備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
富瀬 小舟神社	富岡 酢ノ瀬	富岡 酢ノ瀬	小野 下高尾	小野 下高尾	小野 藤木	小野 藤木 日影	小野 桑原 小浜	小野 桑原 北前組	小野 桑原 丸山	所在地
高さ 85 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 85 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 67 cm 総高 cm	高さ 69 cm 巾 57 cm 総高 cm	高さ 72 cm 巾 68 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 38 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	嘉永4	寛政7	不明	寛政2	不明	不明	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神 当所 西組	道祖神 寛政七年龍舎乙卯首春良辰 城谷 氏子中 当所新保谷戸	道祖神 藤木村	道祖神 寛政庚戌年 十一月吉祥日	道祖神 正月吉日	道陸神	道祖神 氏子	銘文
行書体		行書体			篆書体	行書体				備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
富岡 七七日市南新田	富岡 七七日市	富岡別保 熊野神社	富岡 小沢	富岡 小田谷	富岡 市役所前	富岡 富小前	富岡 屋敷	富岡 屋敷	富岡 小舟下 神社	所在地
高さ 69 cm 巾 49 cm 総高 cm	高さ 72 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ 97 cm 巾 49 cm 総高 cm	高さ 72 cm 巾 62 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 - 45 cm 総高 cm	高さ 89 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 91 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 47 cm 総高 cm	方量
文化7	弘化4	寛政2	不明	天明6	不明	不明	享和2	文政12	天保6	年代
道祖神 文化七庚午春	道祖神 束傘巻書 弘化四季如月穀旦 七七日市下組	道祖神 寛政二庚戌 十一月吉日	道祖神 □□二壬寅 正月吉日	道祖神 天明六年午春	道祖神 歳己寅	道祖神	道祖神 享和二壬戌 歳十二月吉辰	道祖神 文政己丑年正月吉日 屋舗邑子供中	道祖神 天保六季乙未正月十四日 瑛親書 湊下町子供中 世話人三名略	銘文
	中山瑛親		行文書体 寛文二壬寅			篆書体			中山瑛親書 行書体	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
一の宮 田島 和合橋	一の宮 田島	一の宮 神農原 馬場	一の宮 神農原 馬場	一の宮 神農原 馬場	一の宮 神農原	一の宮 神農原 五組	富岡 本城寺	富岡 七七日市 駅東	富岡 七七日市	所在地
高さ 75 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 71 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 13 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 87 cm 巾 52 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 125 cm 巾 51 cm 総高 cm	高さ 87 cm 巾 36 cm 総高 cm	方量
寛政2	文化3	不明	不明	不明	文化元	不明	不明	慶応4	安永4	年代
道祖神 寛政二庚戌春正月吉日	道祖神 文化三年 寅四月五日 田嶋村	道祖神	道祖神 ばん八中	道祖神	道祖神 文化元甲子年 十二月吉日 神原村	道祖神	(双体道祖神像)	道祖神 慶應四辰天 正月十四日 北新町	道祖神 安永四乙未天 正月吉日 七七日市	銘文
						下部埋もれる				備考

富岡市

90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	所在地
一の宮 宇田 中寺田	一の宮 宇田 おみ堂	一の宮 宇田 宿中	一の宮 宇田 婁子堂橋	一の宮 宇田	一の宮 宇田	一の宮	一の宮 一峰公園	一の宮	一の宮	所在地
高さ 64 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 96 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 87 cm 巾 100 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 77 cm 総高 cm	高さ 76 cm 巾 105 cm 総高 cm	高さ 108 cm 巾 98 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 94 cm 巾 94 cm 総高 cm	高さ 125 cm 巾 51 cm 総高 cm	方量
不明	文化 6	不明	明和 6	明和 6	安政 3	安永 3	不明	不明	文久 2	年代
道祖神 辰正月吉日 中寺田	道祖神 文化六巳天 二月吉日	道祖神 巳年 宿中 二月八日	道祖神 明和六巳 二月八日	道祖神 明和六巳 二月初八日 宇田村	道祖神 安政三丙辰 二月建	道祖神 安永三甲 正月吉日	道祖神	道祖神 (紙に墨書) 自然石	猿田彦大神 文久壬戌年四月吉日	銘 文
篆書体			下部没				やつと判読		地域の人は道祖神としてつまりこの場所ですと焼きをしてきたという	備考

100	99	98	97	96	95	94	92	92	91	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	所在地
一の宮 宮崎	一の宮 根岸	一の宮 根岸	一の宮 根岸	一の宮 宮崎	一の宮 宮崎	一の宮 坂井	一の宮 坂井	一の宮 坂井	一の宮 宇田 上寺田	所在地
高さ 100 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 88 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 74 cm 巾 47 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 108 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 83 cm 巾 54 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 31 cm 総高 cm	高さ 113 cm 巾 130 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 88 cm 総高 cm	方量
不明	不明	慶応 3	不明	安政 4	不明	安永 7	不明	文化 5	安永 9	年代
道祖神	道祖神	道祖神 慶応三丁卯十二月吉日	道祖神 根岸村	道祖神 安政四丁巳霜月	道祖神 宮崎村	道祖神 安永戊戌歳 酉正月吉日	道祖神	道祖神 文化五戊辰年十二月良辰	道祖神 安永九庚子季 上寺田	銘 文
										備考

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
東富岡 君富川	東富岡 星田	東富岡 星田 岩棚	東富岡 星田 下星田	東富岡 下田篠	東富岡 上田篠	一の宮 神農原	一の宮 宇田 上寺田	一の宮 下り松	一の宮 柳沢	所在地
高さ 53 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 21 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 94 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 92 cm 巾 41 cm 総高 cm	高さ 38 cm 巾 28 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 27 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 40 cm 総高 cm	方量
不明	不明	寛政 9	不明	不明	安永 9	寛延 2	享保 11	不明	元禄 9	年代
衛祖神 未正月吉日	道祖神	道祖神 寛政九己正月吉日	道祖神	道祖神	道祖神 安永九年庚子 十二月日	(双体道祖神像) 寛延二年 己十二月吉日	(双体道祖神像) 享保十一丙午正月	(双体道祖神像) 戊年 □月吉日 施主佐俣氏	道祖神 元禄九年子年八月吉日	銘 文
								不明 紀年銘の部分		備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 曾木	東富岡 星田	東富岡 田篠	東富岡 曾木	東富岡 曾木	所在地
高さ 42 cm 巾 38 cm 総高 cm	高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 103 cm 巾 63 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 53 cm 総高 cm	方量
不明	不明	享保 7	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像) 享保七年九月吉日 曾木村 施主	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	道祖神 曾木村	道祖神	銘 文
										備考

富岡市

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
高瀬	高瀬 上高瀬	高瀬 上高瀬	高瀬 中高瀬 薬師寺	高瀬 中高瀬 薬師寺	高瀬 下高瀬	高瀬 下高瀬	高瀬 内匠	高瀬 内匠	高瀬 内匠	所在地
高さ 55 cm 巾 60 cm 総高	高さ 110 cm 巾 80 cm 総高	高さ 73 cm 巾 63 cm 総高	高さ 65 cm 巾 46 cm 総高	高さ 73 cm 巾 63 cm 総高	高さ 73 cm 巾 47 cm 総高	高さ 85 cm 巾 75 cm 総高	高さ 53 cm 巾 56 cm 総高	高さ 82 cm 巾 26 cm 総高	高さ 75 cm 巾 43 cm 総高	方量
不明	不明	文久2	文化3	不明	安永6	安永5	不明	安永9	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神 文久二壬子三月吉日 氏子中	道祖神 文化三丙寅 寅天	道祖神	道祖神 安永六丁酉年 十月吉日	道祖神 安永五丙申年 正月吉日	道祖神	道祖神 安永九子年 八月吉日	道祖神	銘
										文
										備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
吉田成 神	吉田成 神	吉田成 神	高瀬 中高瀬	高瀬 中高瀬 幅	高瀬 中高瀬	高瀬	高瀬 上谷戸	高瀬 上谷戸	高瀬 上谷戸	所在地
高さ 75 cm 巾 60 cm 総高	高さ 90 cm 巾 70 cm 総高	高さ 65 cm 巾 45 cm 総高	高さ 84 cm 巾 45 cm 総高	高さ 87 cm 巾 86 cm 総高	高さ 84 cm 巾 50 cm 総高	高さ 114 cm 巾 64 cm 総高	高さ 138 cm 巾 54 cm 総高	高さ 23 cm 巾 23 cm 総高	高さ 83 cm 巾 59 cm 総高	方量
文化14	天明元	不明	不明	不明	明和9	安永4	不明	不明	不明	年代
道祖神 中神成村 文化十四酉正月吉日	道祖神 天明元年丑年十一月吉日 神成村	道祖神 下神成	道祖神	道祖神	道祖神 明和九壬辰年 四月吉日	道祖神 安永四未九月吉日	道祖神	道祖	道祖神	銘
				行書体						文
										備考

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
吉 小 田 倉	吉 破 風 前 場 田	吉 蚊 田 沼	吉 蚊 田 沼	吉 田	吉 田	吉 鳥 総 社 田	吉 鳥 総 社 田	吉 新 田 田	吉 神 成 田	所 在 地
高さ 74 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 88 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 132 cm 巾 85 cm 総高 cm	高さ 86 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 71 cm 巾 174 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 100 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 50 cm 総高 cm	方 量
不 明	不 明	天保 9	文政 4	文政 4	不 明	不 明	不 明	天明 5	不 明	年 代
道 祖 神 小 倉 村	道 祖 神	道 祖 神 北 海 小 比 叡 山 主 人 七 十 一 叟 天 保 九 年 戊 吉 辰 建 之 道 榮	道 祖 神 文 政 四 己 歳 正 月 吉 祥 日	道 祖 神 文 政 四 年 己 年 甘 樂 祭 正 月 吉 日 □ 寅 謹 書	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神	道 祖 神 天 明 五 乙 己 歳 正 月 大 吉 日 新 堀 村 中	道 祖 神 神 成 寺	銘
				横 書 き で あ る						文
										備 考

160	159	158	157	156	155	154	153	152	151	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
吉 小 田 林	吉 小 田 林	吉 千 田 平	吉 田	吉 三 つ や 田	吉 田	吉 普 門 寺 田	吉 稻 荷 沢 田	吉 田	吉 実 相 寺 參 道 田	所 在 地
高さ 46 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 106 cm 巾 68 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 80 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 82 cm 総高 cm	高さ 83 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 64 cm 巾 73 cm 総高 cm	高さ 69 cm 巾 80 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 63 cm 巾 58 cm 総高 cm	方 量
不 明	不 明	寛政 7	天保 4	安永 5	不 明	弘化 2	不 明	天保 11	嘉永 2	年 代
道 祖 □	道 祖 神	道 祖 神 寛 政 七 乙 卯 年 三 月 吉 祥 日 南 蛇 井 邑 千 平 中	道 祖 神 (裏)天 保 龍 舎 四 冬 建	道 祖 神 安 永 五 丙 申 年 正 月 吉 日 三 つ や 茂 木 氏	道 祖 □	道 祖 神 普 門 寺 村 正 月 良 辰 弘 化 二 乙 巳	道 祖 神	道 祖 神 天 保 十 一 年 庚 子 正 月 当 邨 中	道 祖 神 嘉 永 己 酉 年	銘
下 部 埋 まる					下 部 埋 まる					文
										備 考

富岡市

170	169	168	167	166	165	164	163	162	161	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
丹 上丹生 南組	丹 小屋敷	丹 下丹生 打越	丹 下丹生 寺ヶ前	丹 下丹生 向田	丹 下丹生 かさ	丹 下丹生 東区	丹 下丹生 東区	吉 小田 林	吉 小田 林	所在地
高さ 115 cm 巾 96 cm 総高 cm	高さ 64 cm 巾 62 cm 総高 cm	高さ 102 cm 巾 120 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 57 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 66 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 73 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 67 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 66 cm 総高 cm	方量
不明	寛政13	不明	不明	寛政2	文化4	寛政5	不明	不明	不明	年代
道祖神 上丹生村 中山瑛書	道祖神 正月吉日 寛政十三年	道祖神	道祖神 丁亥二月吉日	道祖神 寛政三年 戊三月吉日	道祖神 正月吉日 文化四卯歳	道祖神 丑正月吉日 下丹生村 寛政五年	道祖神	道祖神 中小林	道祖神 石井氏	銘
中山瑛親書		篆書体			下部没					備考

180	179	178	177	176	175	174	173	172	171	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
丹 上丹生	丹 下丹生 ミスの上	丹 生 山口	丹 生 原	丹 生 原	丹 上丹生 せい の神	丹 上丹生 千足	丹 生 中山	丹 上丹生	丹 上丹生 五分一	所在地
高さ 55 cm 巾 41 cm 総高 cm	高さ 34 cm 巾 23 cm 総高 cm	高さ 160 cm 巾 175 cm 総高 cm	高さ 67 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 104 cm 巾 73 cm 総高 cm	高さ 75 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 80 cm 総高 cm	高さ 30 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 54 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 50 cm 総高 cm	方量
不明	不明	文政10	不明	不明	不明	天保4	慶応4	安永7	不明	年代
(双体道祖神像)	(双体道祖神像)	道祖神 山口村 文政十年 信心謹中 西毛日谷惟寅謹書 丁亥正月吉日	道祖神	道祖神	安鎮勢神	道祖神 天保癸巳 稗正月下辰 上丹生村	道祖神 慶応四年	道祖神 安永七 戊辰年 上丹生村	道祖神 □	銘
									下部没	備考



190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	番号
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
黒岩 下黒岩 谷津	黒岩 下黒岩 砂田	黒岩 黒岩 新田	黒岩 上黒岩 打越	黒岩 上黒岩 深町	黒岩 黒川 中才	黒川 黒川 上黒川	黒岩 黒川 上黒川	黒岩 黒川 御霊	黒岩 黒川 御霊	所在地
高さ 59 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 82 cm 巾 58 cm 総高 cm	高さ 51 cm 巾 51 cm 総高 cm	高さ 76 cm 巾 47 cm 総高 cm	高さ 83 cm 巾 64 cm 総高 cm	高さ 130 cm 巾 85 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 8 cm 巾 79 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 70 cm 総高 cm	方量
不明	明和8	不明	明和6	不明	不明	明和8	不明	安永10	寛政2	年代
道祖神	道祖神 明和八天 正月吉日 砂田村	道祖神	道祖神 明和六天 丑十月吉日	道祖神	道祖神	道祖神 明和八辛卯天 吉祥日 講中	道祖神	道祖神 安政十年 正月吉日	道祖神 寛政庚戌 筈正月吉祥日	銘
										文
									篆書体	備考

200	199	198	197	196	195	194	193	192	191	番号
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
額 岡本部 下北根	額 岡本部 下北根	額 岡本部 下北根	額 岡本部 川久保	額 岡本部 下川	額 岡本部	黒岩 上黒岩 宮本	黒岩 上黒岩 宮本	黒岩 下黒岩 谷津	黒岩 下黒岩 谷津	所在地
高さ 86 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 95 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 54 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 93 cm 巾 81 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 67 cm 総高 cm	高さ 101 cm 巾 67 cm 総高 cm	高さ 77 cm 巾 35 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	寛政12	不明	弘化3	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	道祖神	衞祖神	道祖神 寛政十二庚申正月吉日	道祖神	道祖神 弘化三季 丙午正月吉日	道祖神	銘
										文
										備考

209	208	207	206	205	204	203	202	201	番号
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	形
額野上部 西平	額野上部 宮城	額野上部 中井	額野上部 三協	額南後箇部 森	額部	額南後箇部 田沢	額部	額岡本部	所在地
高さ 102 cm 巾 69 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 77 cm 巾 66 cm 総高 cm	高さ 77 cm 巾 54 cm 総高 cm	高さ 63 cm 巾 52 cm 総高 cm	高さ 130 cm 巾 98 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 78 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 39 cm 巾 24 cm 総高 cm	方量
嘉永 5	明和 7	寛政 12	不 明	安永 6	文久 3	安永 5	不 明	不 明	年代
道祖神 嘉永五丙申祀 正月吉日 西平村	道祖神 明和庚寅年 三月吉日	道祖神 寛政十二庚申年 正月吉日	道祖神	道祖神 安永六丁酉年 正月吉日建立 中村惣	道祖神 文久三亥年正月吉日 当所氏子	道祖神 安永五丙申年	道祖神 大森	道祖神	銘
									文
									備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番号
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	形
磯境部神社 鳥居内傍	磯境部神社 内	磯境部神社 内	下磯部上水口 墓地	大竹下水口 塚田家墓地	大竹下水口 毘沙門堂内	下磯部 尾崎	大竹 薬師堂跡	大竹 五四〇	池田六六七 柳沢方 東方角	所在地
高さ 75 cm 巾 64 cm 総高 cm	高さ 40 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 75 cm 巾 64 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 34 cm 総高 67 cm	高さ 64 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 98 cm 巾 50 cm 総高 120 cm	高さ 83 cm 巾 62 cm 総高 110 cm	高さ 100 cm 巾 90 cm 総高 123 cm	方量
宝暦 13	不 明	不 明	安永 4	不 明	寛政 7	天明 8	享保 3	不 明	文政 6	年代
道祖神 宝暦十三癸未			道祖神 安永四年 未正月吉日 水口村		道祖神 寛政七年 正月吉日	道祖神 天明八年 戊申孟正月吉日 下磯部	道祖神 享保三年戊戌年 七月吉日 問屋	道祖神 大竹村	道祖神 文政六年天中十二月吉日 願主組中	銘
	僧形合掌	擁肩把手	自然石 下部土中	像合舟 高三五像形			擁肩把手		裏に凹穴あり	文
										備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
西上磯部 舞臺 大手家墓地並	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	下磯部馬場 旧諏訪神社境内	西上磯部中村 信照寺山門入口	東上磯部 舞臺 薬師堂境内	東上磯部 舞臺 薬師堂境内	東上磯部 三軒	磯部四丁目登城 松岸寺入口	東上磯部新井 一九六二	所在地
高さ 75 cm 巾 60 cm 総高 95 cm	高さ 56 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 107 cm 巾 75 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 68 cm 巾 74 cm 総高 90 cm	高さ 58 cm 巾 52 cm 総高 77 cm	高さ 103 cm 巾 103 cm 総高 108 cm	高さ 58 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 91 cm 巾 66 cm 総高 cm	分量
不明	不明	宝暦12	文政4	宝暦6	寛政3	不明	寛政3	明和4	寛政2	年代
九月吉日 (欠) □ □ □		道祖神 宝暦十二年 □ □ □ 正月吉祥日 願主 田村氏	道祖神 文政四年歳 春正月十四日建之	道祖神 宝暦六 子十二月吉日	道祖神 寛政三年 正月吉日	不明	道祖神 寛政三辛亥 正月吉日	明和四年 □ □ □ 吉 □ □ □ 施主 □ □ □	道祖神 寛政二庚戌	銘
合舟 掌形						雨手握手	ハ   卜形		自然石	備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
東上磯部 神明社境内	東上磯部 神明神社跡	東上磯部 神明神社跡	東上磯部 神明神社跡	西上磯部 新地	西上磯部 新地	西上磯部 寺前	上磯部新寺 笠原	上磯部新寺 笠原	西上磯部 赤城神社東	所在地
高さ 68 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 64 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 74 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 64 cm 総高 cm	高さ 79 cm 巾 55 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 94 cm 巾 76 cm 総高 100 cm	分量
不明	享和3	宝永5	宝永元	不明	不明	不明	延享元	不明	不明	年代
道祖神 □ □ □ □ □ □ □	道祖神 享和三年 亥九月吉日	道祖神 宝永五年 正月吉日	道祖神 宝永申年 八月大吉日	道祖神	道祖神	道祖神	延享元年 □ □ □	道祖神	道祖神 □ □ □ □ □ □ □	銘
			自然石	倒伏		行書体		自然石行書体		備考

上州の道祖神一覧 125頁は  
個人情報が含まれるため非公開

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
高別当 小峰	高別当 小峰	高別当 井戸谷戸	米山地蔵堂 米山地蔵堂 米山地蔵堂	米山地蔵堂 境内	米山地蔵堂 境内	小 久保方 小間	小 南入口 小間	小 一〇一 小間	小 一〇三 小間	所在地
高さ 21 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 79 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 76 cm 巾 54 cm 総高 88 cm	高さ 70 cm 巾 56 cm 総高 94 cm	高さ 45 cm 巾 26 cm 総高 59 cm	高さ 58 cm 巾 30 cm 総高 101 cm	高さ 75 cm 巾 63 cm 総高 cm	高さ 43 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 87 cm 巾 65 cm 総高 113 cm	高さ 110 cm 巾 63 cm 総高 110 cm	方量
不明	寛政12	明和4	寛政5	不明	天明5	享和2	不明	不明	文化5	年代
断片	道祖神 寛政十二年庚申天 十二月吉祥寺	道祖神 明和四年 正月吉祥日 井戸谷戸	道祖神 寛政五年癸丑年 十一月吉日		天明五年己巳年 十一月吉祥日	享和二年戊三月 小間中		道祖神	文化五年辰正月吉日	銘 文
				江戸初期と推定	明治に復元した もの					備考

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
小俣上村	小俣下村	古屋 下古屋	古屋 法楽寺	高別当 森谷戸	高別当 森谷戸	高別当 森谷戸	高別当 森谷戸 (愛宕社 西三叉路)	高別当 鬼谷戸	高別当 鬼谷戸	所在地
高さ 68 cm 巾 57 cm 総高 cm	高さ 69 cm 巾 47 cm 総高 cm	高さ 53 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 39 cm 総高 63 cm	高さ 75 cm 巾 50 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 73 cm 巾 55 cm 総高 cm	高さ 90 cm 巾 71 cm 総高 112 cm	高さ 52 cm 巾 54 cm 総高 84 cm	方量
不明	不明	不明	延享元	文化5	不明	寛延元	不明	明和4	明和元	年代
道祖神	道祖 □	道祖神	延享元年 六月吉日	文化五年戊辰年 道祖神 孟夏大吉祥日 施主中島伝右衛門		寛延元年 一月吉日	道祖神 当所 有坂氏	道祖神 明和四年丁亥 正月大吉祥日	明和元年	銘 文
	神の文字 舗装に埋まる		三 傘 差 古 路 屋				沓石なし			備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番号
②	①	②	②	①	②	②	②	①	②	形
板鼻館石 国道十八号 陸橋下	上野山坂 (殿小坂 腹路)	上野山坂 (殿小坂 腹路)	板鼻小丸田 三叉路	板鼻一区 大乘院石段下	板鼻本町 二一九ノ二 彰忠碑前	高别当 天照寺	小俣滑沢	小俣滑沢	小俣滑沢	所在地
高さ 126 cm 巾 98 cm 総高 cm	高さ 74 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 31 cm 巾 17 cm 総高 cm	高さ 75 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 120 cm 巾 85 cm 総高 150 cm	高さ 47 cm 巾 26 cm 総高 62 cm	高さ 40 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 45 cm 総高 90 cm	高さ 34 cm 巾 31 cm 総高 cm	方量
安政 5	不明	不明	享保 15	不明	寛政 9	不明	不明	宝暦 3	不明	年代
安政五戊午歳正月吉祥日	道祖神		享保十五年 正月吉日	道陸 □	寛政九丁正月十四日建之 板鼻本町三丁目 四丁目 圭共抱若者開眼師八幡山十六代			宝暦三年 道祖神 五月吉日 当村 内田氏		銘  文
祝言形 下部土中に埋没		県下一小さい 双体像		下部約半分土 に埋まる	宿場女郎達の建 立した双体像器 物奉持形(巨大)	擁肩把手				備考

89	88	87	86	85	84	83	82	81	番号
②	②	①	①	①	①	①	①	②	形
築 一枚畑橋西	築 北側 瀬公会堂	築 城山稻荷	築 城山稻荷	一里山 杉並木	原市馬場	悪 勸乗院 途	谷津舞台横町 四ッ角	板鼻下町 清水氏宅傍	所在地
高さ 60 cm 巾 38 cm 総高 70 cm	高さ 72 cm 巾 38 cm 総高 82 cm	高さ 90 cm 巾 70 cm 総高 90 cm	高さ 100 cm 巾 105 cm 総高 100 cm	高さ 58 cm 巾 50 cm 総高 73 cm	高さ 75 cm 巾 55 cm 総高 100 cm	高さ 30 cm 巾 54 cm 総高 57 cm	高さ 100 cm 巾 60 cm 総高 140 cm	高さ 116 cm 巾 100 cm 総高 130 cm	方量
不明	不明	不明	安永 7	不明	文政 12	寛政 3	文化 5	寛政 4	年代
(女性から男性へ話し掛け型)	(肩だき握手型)	道祖神 明和□□天 正月吉祥日	道祖神 安永七戊天 正月吉日	道祖神 一里山	道祖神 文政十二年己丑 夏四月吉辰 高橋平右衛門	道祖神 寛政三年亥 十一月吉日 悪途村	道祖神 文化五戊辰年 正月吉日 有憐教兼書	寛政四壬子年十一月十四日 當駅より 京都へ百一里三丁 江戸へ二十一里半丁 日光へ三十七里 善光寺へ二十八里三丁丁 榛名山へ五里半 妙義山へ四里半 加州金沢へ九十二里半	銘  文
					篆 書 体			◎ 自然 道標 石	備考

99	98	97	96	95	94	93	92	91	90	番 形
嶺茂木家 墓地	八本木 地藏堂西	原市上町 歩道橋北側	原市馬場 中島家墓地	原市馬場	郷原 レストラン 白樺	郷原 絵人宿	郷原 絵人宿	築瀬 聖明寺入口	築瀬小坂橋 丸信園西	所在地
高さ 52 cm 巾 40 cm 総高 52 cm	高さ 65 cm 巾 76 cm 総高 65 cm	高さ 95 cm 巾 75 cm 総高 125 cm	高さ 85 cm 巾 90 cm 総高 85 cm	高さ 130 cm 巾 80 cm 総高 150 cm	高さ 170 cm 巾 110 cm 総高 195 cm	高さ 115 cm 巾 125 cm 総高 145 cm	高さ 52 cm 巾 43 cm 総高 71 cm	高さ 77 cm 巾 85 cm 総高 97 cm	高さ 80 cm 巾 70 cm 総高 95 cm	方量
不明	不明	天明 6	明和 7	弘化 3	文化 3	安永 7	不明	寛政 7	明和 8	年代
(肩だき握手型)	道祖神	道祖神 天明六丙午年 十一月吉日	道祖神 明和七庚寅歲 四月吉祥爲	道祖神 北海小比叡山主 七十一叟奉□□ 中組	道祖神 十二月選田立石 中山瑛書 文化三丙歲	道祖神 三月吉祥日 安永七成年	(肩だき握手型) 子十一月吉日	(酒杯徳利付肩だき握手型) 寛政七年 十一月吉日	道祖神 明和八卯天 正月吉祥日 日向村	銘 文
										備考

109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	番 形
杉 武井家 墓地南 (ぼたん杉)	原市宮内 小林家前	原市宮内 小林家前	原市 西ノ谷 田島家墓地	原市 西ノ谷 田島家墓地	嶺 正善	嶺 須藤家南	嶺 須藤家南	嶺 須藤喜芳家南	嶺 穴久保(古墳)	所在地
高さ 75 cm 巾 62 cm 総高 95 cm	高さ 60 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 68 cm 巾 55 cm 総高 78 cm	高さ 40 cm 巾 40 cm 総高 40 cm	高さ 85 cm 巾 50 cm 総高 95 cm	高さ 85 cm 巾 65 cm 総高 85 cm	高さ 40 cm 巾 38 cm 総高 65 cm	高さ 54 cm 巾 48 cm 総高 79 cm	高さ 50 cm 巾 32 cm 総高 60 cm	高さ 85 cm 巾 65 cm 総高 105 cm	方量
文化 14	不明	安永 5	不明	天明 9	天明 2	文化 8	元禄 8	不明	寛政 元	年代
(酒杯型) 正月十四日 文化十四丁年	(抱擁・握手型) 四月日 正徳□□	(抱擁握手型) 申十二月吉日 安永五年	(抱擁型)	道陸神 宮沢 天明九酉「正月吉日」	道祖神 正月吉日 天明二壬天	道祖神 未正月吉日 須藤平右衛門 文化八年	(握手型) 三月吉日 元禄八己天	(合掌型)	道祖神 寛政元酉年 十一月吉日	銘 文
										備考

119	118	117	116	115	114	113	112	111	110	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
岩 入尊井古墳	岩 入尊井古墳	水境 第一公会堂	大谷一 白山姫神社	郷原 山本家宅地	古屋茂木	原市茂木	茂木 神社	茂木裏	茂木裏	所在地
高さ 85 cm 巾 65 cm 総高 85 cm	高さ 165 cm 巾 70 cm 総高 165 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 100 cm	高さ 60 cm 巾 45 cm 総高 70 cm	高さ 100 cm 巾 110 cm 総高 100 cm	高さ 60 cm 巾 55 cm 総高 60 cm	高さ 57 cm 巾 40 cm 総高 77 cm	高さ 60 cm 巾 60 cm 総高 60 cm	高さ 80 cm 巾 65 cm 総高 94 cm	高さ 68 cm 巾 50 cm 総高 80 cm	方量
寛政 8	寛政 13	天明 8	不 明	安永 3	寛政 4	延享元	天保 4	明和 8	天保 6	年代
道街神 寛政十三辛酉天建之	道陸神 寛政八丙辰年 正月吉日	道祖 □ 天明八戊申 二月吉日	道陸神	道祖神 安永三年甲 十一月吉日	道祖神 寛政四壬 子十月 日	(軍ばい手ひき型) 延享元年 六月吉日	道祖神 天保四癸巳年 大篠吉日	道祖神 明和八年 卯四月吉日 茂木 原市	道祖神 天保六乙未 正月吉日	銘
										文
										備考

129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
上後閑宮掛 諏訪神社境内	野殿(中村)	野殿前屋敷 白石	大谷 常楽寺	水境 第一公会堂	水境 第一公会堂	聖殿前屋敷 白石家墓地	聖殿前屋敷 白石家墓地	岩井白山比羊 神社境内	岩井 石尊山古墳	所在地
高さ 50 cm 巾 40 cm 総高 72 cm	高さ 80 cm 巾 45 cm 総高 80 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 80 cm	高さ 38 cm 巾 35 cm 総高 38 cm	高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 90 cm 巾 40 cm 総高 110 cm	高さ 65 cm 巾 60 cm 総高 95 cm	高さ 95 cm 巾 45 cm 総高 125 cm	高さ 94 cm 巾 45 cm 総高 114 cm	高さ 75 cm 巾 35 cm 総高 75 cm	方量
不 明	不 明	不 明	不 明	宝暦 2	不 明	寛政 4	享和 3	不 明	宝暦 6	年代
	道祖神 當村□□	(合掌) □□□□ 十月 日	(握手)	握手 宝暦二天 上面欠損 □月吉日	水境村	道祖神 寛政四壬子歳 九月大吉日	道祖神 享和三亥年 十月吉日	道祖神	道陸神 宝暦六年 子十一月吉日	銘
										文
					祝言形					備考



139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	番形
上後閑 藤木	上後閑 大平	上後閑 営ノ上	上後閑柳平 営ノ上	上後閑柿平 青木	上後閑柿平 青木	上後閑柿平 龍谷戸	上後閑柿平 杉山の 中	上後閑 栃久保村入口	上後閑宮掛 洪川氏宅裏	所在地
高さ 57 cm 巾 35 cm 総高 80 cm	高さ 75 cm 巾 53 cm 総高 87 cm	高さ 40 cm 巾 27 cm 総高 50 cm	高さ 77 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 37 cm 巾 35 cm 総高 61 cm	高さ 62 cm 巾 37 cm 総高 93 cm	高さ 74 cm 巾 45 cm 総高 88 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	高さ 84 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 38 cm 総高 cm	方量
不明	不明	不明	明和 4	不明	不明	不明	享保 14	不明	不明	年代
			明和四年十一月吉日	(双体合掌)	寛延 □□ □□年		享保十四酉天 □月吉日	寛 □□ □□	道祖神	銘
(合掌)	(合掌)形	(合掌)形	擁肩握手像		双体合掌像	擁肩握手型	享保欠損			文
										備考

149	148	147	146	145	144	143	142	141	140	番形
上後後 三ツ木諏訪社	上後閑 原町田家西	上後閑 原前八津	上後閑 西久保	上後閑笹原 大沢	上後閑笹原 山田	上後閑笹原 山田	上後閑笹原 堀之内橋際	上後閑笹原 笹原社宮祠	上後閑笹原 中島氏宅庭	所在地
高さ 75 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 45 cm 総高 90 cm	高さ 65 cm 巾 60 cm 総高 80 cm	高さ 61 cm 巾 40 cm 総高 cm	高さ 61 cm 巾 34 cm 総高 81 cm	高さ 66 cm 巾 59 cm 総高 71 cm	高さ 61 cm 巾 44 cm 総高 90 cm	高さ 61 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 48 cm 巾 40 cm 総高 78 cm	高さ 53 cm 巾 51 cm 総高 62 cm	方量
安永 8	延享元	元文 5	宝曆 4	寛延 3	安永 4	享和元	不明	不明	文政 9	年代
道祖神 安永八亥年 六月吉祥日	延享元甲子 八月日	元文五天 二月吉日	宝曆四□□	寛延三庚午天 十月吉日	道祖神 安永四未年 六月吉日	享和元辛酉 八月吉日			文政九丙午二月吉日	銘
自然石	破風形 握手擁肩	舟形合掌	舟形・合掌	舟形・擁肩		舟形 握手・擁肩	握手擁肩	擁肩握手	相向い 手つなぎ	備考

安中市

159	158	157	156	155	154	153	152	151	150	番 形
⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	
中後閑 小井戸中島家東	中後閑 山寺中里 墓地入口	中後閑 山寺尼寺	中後閑 山寺尼寺	上後閑 山寺尼寺	上後閑 山寺尼寺	上後閑 山寺中山家南	上後閑 三ツ木観音堂	上後後 三ツ木諏訪社	上後後 三ツ木諏訪社	所 在 地
高さ 64 cm 巾 45 cm 総高 69 cm	高さ 71 cm 巾 43 cm 総高 95 cm	高さ 97 cm 巾 80 cm 総高 105 cm	高さ 55 cm 巾 56 cm 総高 67 cm	高さ 43 cm 巾 36 cm 総高 65 cm	高さ 90 cm 巾 56 cm 総高 115 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 90 cm	高さ 60 cm 巾 105 cm 総高	高さ 73 cm 巾 70 cm 総高 82 cm	高さ 55 cm 巾 50 cm 総高 65 cm	方 量
不 明	延享 4	文化 6	文政 2	不 明	不 明	不 明	寛政 3	明和 9	文政 6	年 代
	延享四年 十一月吉日	文化六巳 天下土公成故国底立命名則給 道祖狹田彦大神 末見未開混沌始呼 大日者懸旦 根國底国荒辟云々	文政二年 四月吉日				道祖神 寛政三年 正月吉辰 施主	道祖神 明和九年 二月八日	道祖神 文政六年 九月吉辰	銘  文
擁 舟 肩 握 子 形	擁 舟 肩 握 子 形		男神が女神の 手をひいてい ごなう姿	対面抱擁型	擁肩握手	合 掌 型	自 下 然 部 石 埋 没	自 然 石	自 然 石	備 考

169	168	167	166	165	164	163	162	161	160	番 形
⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	⊕	
下後閑 高見	下後閑 高見	下後閑 山王	下後閑 金蔵	下後閑 金蔵	下後閑 大上サ	上後閑 大平	上後閑 宮ノ上	上後閑 向原	上後閑 柿平	所 在 地
高さ 48 cm 巾 35 cm 総高 63 cm	高さ 81 cm 巾 58 cm 総高 105 cm	高さ 90 cm 巾 80 cm 総高 93 cm	高さ 63 cm 巾 54 cm 総高	高さ 55 cm 巾 44 cm 総高 76 cm	高さ cm 巾 cm 総高	高さ 72 cm 巾 54 cm 総高 83 cm	高さ 47 cm 巾 25 cm 総高 57 cm	高さ 75 cm 巾 41 cm 総高 88 cm	高さ 60 cm 巾 43 cm 総高 75 cm	方 量
享保10	寛政10	天明元	寛政 3	不 明	不 明	不 明	不 明	明和 5	文化14	年 代
正月吉日 享保十年 施主□□	道祖神 寛政十年年 十一月吉日 村中	道祖神 天明元辛丑年 十一月吉日 山王村中	道祖神 寛政三年 正月吉日					明和五年 十二月吉日	文化十四酉天 □月吉日	銘  文
			自 然 石	合 舟 掌 形 形	擁 舟 肩 握 手 形	合 掌 形	合 掌 形	擁 肩 握 子	合 掌	備 考

179	178	177	176	175	174	173	172	171	170	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
下後閑 松久保	下後閑 松久保	下後閑 松久保 田中家墓地	下後閑 松久保	下後閑 丹生公会堂	下後閑 北野	下後閑 北野	下後閑 芝原	下後閑 牛ノ入	下後閑 別所	所在地
高さ 59 cm 巾 38 cm 総高 72 cm	高さ 52 cm 巾 45 cm 総高 63 cm	高さ 89 cm 巾 82 cm 総高 108 cm	高さ 115 cm 巾 71 cm 総高 140 cm	高さ 85 cm 巾 45 cm 総高 95 cm	高さ 50 cm 巾 27 cm 総高 70 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 65 cm	高さ 50 cm 巾 33 cm 総高 60 cm	高さ 53 cm 巾 35 cm 総高 63 cm	高さ 35 cm 巾 31 cm 総高 cm	方量
不明	享保13	万延元	天明2	寛政3	不明	宝暦10	不明	不明	不明	年代
	享保十三□□ 施主 田中氏	道祖神 万延元申年 九月吉日	道祖神 天明二次壬寅 正月大吉日	道祖神 寛政三辛亥 十一月吉辰		宝暦十		延享□□		銘
擁肩握子形	擁肩握子形		自然石		合掌形	擁肩握子形	合掌形	擁肩握手	擁肩握子	備考

189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
下秋間 雉子ケ尾入口	下秋間 相水	下秋間 藤の木	下秋間 立石橋	下秋間 立石橋	下秋間 八重巻 沢家前	下秋間 刈又三又路	下秋間 打越	下秋間 打越	下後閑 滑沢	所在地
高さ 60 cm 巾 35 cm 総高 75 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 95 cm	高さ 45 cm 巾 35 cm 総高 57 cm	高さ 50 cm 巾 54 cm 総高 75 cm	高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 60 cm	高さ 56 cm 巾 30 cm 総高 76 cm	高さ 52 cm 巾 65 cm 総高 72 cm	高さ 100 cm 巾 65 cm 総高 120 cm	高さ 50 cm 巾 35 cm 総高 70 cm	高さ 70 cm 巾 55 cm 総高 83 cm	方量
寛政9	文化5	不明	明治3	文政6	不明	天保2	文化8	不明	不明	年代
道祖神 寛政九丁巳年□月□日	道祖神 文化五年 辰正月十一日		道祖神 明治三庚年 午二月吉月 桜井かを	道祖神 六政六二月吉祥日		天保二辛卯天 正月吉日	道祖神 文化八歳 未三月十四日 當村	握手型	道祖神	銘
		合掌形			合掌形	祝言形			自然石	備考

199	198	197	196	195	194	193	192	191	190	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
中秋間 三角	中秋間 八貝戸	中秋間 山崎 中里見家入口	中秋間 宮原 大森神社	中秋間 宮原	中秋間 八貝戸	下秋間 明後沢 (天台)	下秋間 明後沢 (天台)	下秋間 三反田	下秋間 雉子ケ尾	所在地
高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 70 cm	高さ 36 cm 巾 21 cm 総高 51 cm	高さ 75 cm 巾 63 cm 総高 90 cm	高さ 115 cm 巾 95 cm 総高 115 cm	高さ 33 cm 巾 32 cm 総高 48 cm	高さ 70 cm 巾 48 cm 総高 85 cm	高さ 73 cm 巾 60 cm 総高 118 cm	高さ 60 cm 巾 35 cm 総高 60 cm	高さ 60 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 55 cm 巾 38 cm 総高 65 cm	方量
不明	不明	不明	宝暦 8	不明	宝暦 8	不明	不明	不明	不明	年代
(合掌型)	道祖 □  新井氏	(肩だき抱擁型)	道祖神 宝暦八年 七月吉日 宮原村	(合掌型)	道祖神 宝暦八戌寅歳 七月吉日	道祖神	(握手抱擁型)	(合掌型)	(握手抱よう型)	銘
										文
										備考

209	208	207	206	205	204	203	202	201	200	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
東上秋間 十二	東上秋間 笠刈稲 (上)	東上秋間 刈稲	東上秋間 外城	東上秋間 外城	西上秋間 飽馬神社南	西上秋間 二軒茶屋 飽馬神社	西上秋間 二軒茶屋	東上秋間 風戸峠	中秋間 蛇喰	所在地
高さ 50 cm 巾 40 cm 総高 50 cm	高さ 60 cm 巾 38 cm 総高 78 cm	高さ 60 cm 巾 33 cm 総高 90 cm	高さ 55 cm 巾 53 cm 総高 75 cm	高さ 25 cm 巾 23 cm 総高 40 cm	高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 50 cm	高さ 54 cm 巾 30 cm 総高 74 cm	高さ 50 cm 巾 45 cm 総高 70 cm	高さ 107 cm 巾 46 cm 総高 129 cm	高さ 50 cm 巾 35 cm 総高 50 cm	方量
不明	不明	不明	天保 3	不明	文政 12	不明	文政 8	宝暦 3	不明	年代
(合掌型)	(合掌型)	(合掌型)	道祖神 天保三 壬辰春	(屋根付 合掌型)	道陸神 文政十二年 丑正月吉日	(合掌型) □暦□年	(もちつき道祖神) 文政八乙酉年 三月吉日	道祖神 榛名山 妙義山 野火除火防 九月吉日	(肩だき抱擁型)	銘
							だし いたみはなは	道しるべとなつて いる。榛名山 の街道で		文
										備考

219	218	217	216	215	214	213	212	211	210	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
西上秋間 平上 月	西上秋間 般若沢	西上秋間 滝之入 山の神	西上秋間 滝之入 山の神	西上秋間 滝之入 山の神	東上秋間 久保薬師堂	東上秋間 久保薬師堂	東上秋間馬 田鳥家墓地	東上秋間馬 内出城大手	東上秋間 十二	所在地
高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 65 cm	高さ 60 cm 巾 38 cm 総高 80 cm	高さ 56 cm 巾 38 cm 総高 69 cm	高さ 75 cm 巾 34 cm 総高 100 cm	高さ 54 cm 巾 23 cm 総高 154 cm	高さ 39 cm 巾 24 cm 総高 52 cm	高さ 39 cm 巾 24 cm 総高 52 cm	高さ 65 cm 巾 45 cm 総高 75 cm	高さ 30 cm 巾 40 cm 総高 45 cm	高さ 95 cm 巾 60 cm 総高 115 cm	方量
不明	宝曆10	不明	不明	宝曆7	文政8	文政8	不明	不明	天保11	年代
(合掌型) 宝曆□年 □月□日	宝曆捨庚辰年 西上秋間般若沢村 (肩抱き握手型) 願主真砂善大夫吉恒揮 七月吉日	(合掌型)	(合掌型)	(合掌型) 宝曆七年 □月吉日	道祖神 弘化二己巳年 三月吉祥日 九十三翁京齊書 當村中	道祖神 文政八年 九月吉日 當村中	(肩抱き握手型) 内出村	(肩抱き握手型) 内出村	道祖神 天保十一年庚子 春三月建之	銘 文
								両首欠損		備考

229	228	227	226	225	224	223	222	221	220	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
中秋間 油谷津	西上秋間 二軒茶屋 飽鳥神社	下秋間 日向	下秋間 日向	下秋間 台	下秋間 天明後沢 台	下秋間 天明後沢 台	東上秋間 日向	東上秋間 伊豆村 鈴木家墓地	西上秋間 平	所在地
高さ 50 cm 巾 35 cm 総高 50 cm	高さ 54 cm 巾 40 cm 総高 74 cm	高さ 42 cm 巾 35 cm 総高 67 cm	高さ 53 cm 巾 35 cm 総高 71 cm	高さ 70 cm 巾 55 cm 総高 70 cm	高さ 60 cm 巾 35 cm 総高 80 cm	高さ 73 cm 巾 60 cm 総高 118 cm	高さ 85 cm 巾 55 cm 総高 95 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 70 cm	高さ 51 cm 巾 40 cm 総高 63 cm	方量
明和元	不明	延享5	宝曆14	天明6	不明	不明	天保2	天明5	萬延元	年代
(屋根付 明和元甲申歳 合掌型)	□曆□年 □月□日	(肩抱き握手型) 延享五天 八月吉祥日	(組 腕からみ型) 宝曆十四甲申年 四月吉日	道祖神 天明六年 三月□日	(肩抱き握手型)	道祖神	奉造立道祖 天保二壬辰・卯月吉日	道祖神 天明五己巳年 九月吉日	道祖神 萬延元庚申年 □月□日	銘 文
										備考

安中市

239	238	237	236	235	234	233	232	231	230	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
中野谷神社	中野谷神社	中野谷 中敷 中の谷神社	中秋間 道場	中秋間 入沢家東	中秋間 道の場 山の神橋西	中秋間村 宮貝戸村	中秋間山崎 大沢之氏前	中秋間山崎 大沢之氏前	中秋間 山崎 中里見家	所在地
高さ 74 cm 巾 46 cm 総高 96 cm	高さ 145 cm 巾 130 cm 総高 155 cm	高さ 140 cm 巾 12 cm 総高 160 cm	高さ 45 cm 巾 34 cm 総高 45 cm	高さ 95 cm 巾 45 cm 総高 110 cm	高さ 125 cm 巾 50 cm 総高 175 cm	高さ 70 cm 巾 50 cm 総高 105 cm	高さ 55 cm 巾 58 cm 総高 55 cm	高さ 89 cm 巾 70 cm 総高 99 cm	高さ 71 cm 巾 65 cm 総高 71 cm	方量
宝暦 6	安永 7	安永 7	不 明	文化 2	文化 4	弘化 5	天保 2	不 明	天保 2	年代
道祖神 宝暦 六天	道祖神 十一月吉日 安永 七 戌 天	道祖神 十一月吉日 安永 七 戌 夫 上宿 上宿	(合掌型)	道祖神 文化 二 乙 丑 年 當村中	道祖神 三月吉日 文化 四 丁 卯 歳	道祖神 弘化 五 戌 申 正月 日 宮貝戸村	道祖神 正月吉日 天保 二 年	道祖神 山崎村	道祖神 天保 二 辛 卯 正 月 吉 日 當村	銘 文
			恩賀と同じ							備考

249	248	247	246	245	244	243	242	241	240	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
上平	鷺居宮 消防小屋	鷺居宮 居内百庚神南	鷺居宮 宮本公民館	鷺居宮五賀 観音堂内	鷺居宮 咲前神社南 桜林	鷺居宮 文珠寺道場	中野谷久保新田 羊神社	中野谷神社	中野谷神社	所在地
高さ 85 cm 巾 56 cm 総高 109 cm	高さ 40 cm 巾 90 cm 総高 60 cm	高さ 107 cm 巾 50 cm 総高 120 cm	高さ 80 cm 巾 80 cm 総高 120 cm	高さ 76 cm 巾 50 cm 総高 100 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 85 cm	高さ 89 cm 巾 52 cm 総高 110 cm	高さ 88 cm 巾 64 cm 総高 120 cm	高さ 123 cm 巾 80 cm 総高 145 cm	高さ 68 cm 巾 83 cm 総高 90 cm	方量
明和 4	宝暦 2	不 明	天明 2	宝暦 13	宝暦 14	明和 5	嘉永 元	安永 9	宝暦 11	年代
道祖神 十二月吉辰 明和 四 丁 亥 年 上平 村中	道祖神 □月 日 宝暦 二 壬 申 天	道祖神	道祖神 弥生吉日 天明 二 壬 (子)	道祖神 未正月吉日 宝暦 十 三 歳 伍賀村 村中	道祖神 甲十二月吉日 宝暦 十 四 年	道祖神 正月吉日 明和 五 戌 子 年	道祖神 季冬良辰 嘉永 紀 元	道祖神 三月吉日 安永 九 庚 子 年	道祖神 □正月吉日 宝暦 十 一 己 年	銘 文
										備考

259	258	257	256	255	254	253	252	251	250	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	
下間仁田 三間橋北	下間仁田 日影	上間仁田 崇台山登呂	中間仁田 久保川橋南	中間仁田 久保川橋南	前小峯 川南	前小峯 川南	前小峯 円明寺	後小峯	上平西	所在地
高さ 70 cm 巾 80 cm 総高 90 cm	高さ 65 cm 巾 60 cm 総高 95 cm	高さ 44 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 36 cm 巾 21 cm 総高 60 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 80 cm	高さ 98 cm 巾 60 cm 総高 120 cm	高さ 90 cm 巾 60 cm 総高 106 cm	高さ 70 cm 巾 65 cm 総高 90 cm	高さ 90 cm 巾 75 cm 総高 100 cm	高さ 90 cm 巾 56 cm 総高 107 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	寛政11	不明	安政6	不明	明和5	年代
道祖神	道祖神	道祖神	道陸神	道祖神	道祖神 寛政十一己未 正月吉祥日	道陸神	道祖神 安政六己未年 正月吉祥日	道祖神	道祖神 明和五歳 戊子正月吉小(日)	銘  文
				焼けている。						備考

265	264	263	262	261	260	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	
上平	上間仁田	上間仁田 久保川橋南	上間仁田 崇戸山登り口	上間仁田 崇戸山登り口	上平	所在地
高さ 53 cm 巾 52 cm 総高 68 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 65 cm	高さ 26 cm 巾 31 cm 総高 45 cm	高さ 43 cm 巾 30 cm 総高 75 cm	高さ 44 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 53 cm 巾 52 cm 総高 70 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	年代
		(合掌) 延宝□□ □□□	(握手)			銘
						文
		半分にかけて いる	松井田町入山 明賀と同じ形			備考

10	9	6	7	6	5	4	3	2	1	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
小室第二錢神塚 三柱神社	小室第二錢神塚 三柱神社	小室第一 宮之下 白山神社跡	小室第一 宮之下 白山神社跡	小室第一 上山田八幡宮跡	分郷八崎 八幡宮	八崎北町 双玄寺	八崎北町 天徳寺墓地	八崎日向 堀口和三雄宅 北衣笠様	八崎舟戸 北向の大黒様	所在地
高さ 52 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 47 cm 巾 28 cm 総高 cm	高さ 73 cm 巾 36 cm 総高 cm	高さ 59 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 46 cm 巾 46 cm 総高 78 cm	高さ 95 cm 巾 76 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 54 cm 巾 30 cm 総高 102 cm	高さ 50 cm 巾 35 cm 総高 cm	方量
安永 3	不 明	明和 6	明和 3	文政 6	弘化 2	弘化 3	不 明	文化 5	安永 9	年代
安永三 <sup>甲</sup> 午年 十月吉日		明和六歳己三月吉日	明和三年 戌十一月日	文政六 <sup>癸未</sup> 年 十月吉日	(石) 弘化二 <sup>己未</sup> 年十二月吉日 西曲輪中 水木和順	弘化三 <sup>丙午</sup> 歳六月吉日	四月 <sup>壬戌</sup> 吉日 四月 <sup>壬戌</sup> 吉日	文化五 <sup>戊辰</sup> 歳十二月吉日 施主 久保中 世話人 文左衛門直八	安永九子七月吉日	銘
										文
							□□ <sup>壬戌</sup> 年 天和 <sup>三</sup> 寶 <sup>三</sup> 安 <sup>三</sup> 和 <sup>三</sup>			備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
下箱田 木曾三社神社	箱田木曾三柱神社東 今井藤三宅前	箱田 東前原 火の見槽下	上箱田 石田 甘酒地藏	上箱田 屋敷前 観音山墓地	上箱田 石田 石田正治宅北	上南室 上指倉 正善寺	下南室 東谷戸	下南室 上松原 観音堂	下南室 中谷戸 馬落観音	所在地
高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 54 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 47 cm 巾 31 cm 総高 63 cm	高さ 60 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 30 cm 総高 68 cm	高さ 59 cm 巾 40 cm 総高 84 cm	高さ 70 cm 巾 80 cm 総高 cm	高さ 52 cm 巾 22.5 cm 総高 cm	高さ 44 cm 巾 29 cm 総高 cm	方量
宝曆 9	天明 3	宝曆 10	宝曆 6	明和元	文化 4	宝曆 5	弘化 4	宝曆 8	寛政 6	年代
宝曆九 <sup>卯</sup> 年十月吉日 施主 飯田氏	天明三年 九月吉日	宝曆十 <sup>辰</sup> 天 正月吉日 敬白	宝曆六年子十一月吉日 (欠)田善太夫	明和元 <sup>甲</sup> 九月吉日	文化四 <sup>卯</sup> 年 五月吉祥日 施主二人	奉納諸願成就所 宝曆五 <sup>六月</sup> 戌日 千木良氏	弘化四 <sup>丁未</sup> 天 三月□□	宝曆八 <sup>戊寅</sup> 年 十月大吉日	寛政六年 寅七月吉日	銘
										文
										備考



上州の道祖神一覧 138頁は  
個人情報が含まれるため非公開

46	45	44	43	42	41	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
真壁 下真壁集会所	真壁 下真壁集会所	真壁 下真壁集会所	真壁 赤城神社	真壁 赤城神社	真壁 赤城神社	所 在 地
高さ 53 cm 巾 26 cm 総高 81 cm	高さ 67 cm 巾 50 cm 総高 90 cm	高さ 55 cm 巾 26 cm 総高 77 cm	高さ 104 cm 巾 64 cm 総高 142 cm	高さ 57 cm 巾 26 cm 総高 75 cm	高さ 45 cm 巾 30 cm 総高 61 cm	方 量
文化12	天保14	安永 8	弘化 4	安政 5	享保 3	年 代
道祖神 文化十二乙亥年 十二月吉日	道祖神 当邑子供中 天保十四癸卯星正月吉祥鳥	道祖神 安永八亥年 四月吉祥日	道祖神 弘化四丁未正月吉日子供中	道祖神 真壁村 安政五戊午正月吉日	道祖神 吉田氏 享保三戌九月	銘
						文
						備 考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番 形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
持柏木 十二様	持柏木 極楽院	棚 不動尊	長井小川田(八区) 一三六〇の一	敷 島	津久田(四区) 龍泉寺	津久田(三区) 六九五	津久田(二区) 一九六	津久田(二区) 六万	津久田(二区) 八四三の一	所 在 地
高さ 36 cm 巾 33 cm 総高 76 cm	高さ 45 cm 巾 37 cm 総高 56 cm	高さ 34 cm 巾 37 cm 総高 53 cm	高さ 47 cm 巾 27 cm 総高 67 cm	高さ 48 cm 巾 36 cm 総高 50 cm	高さ 57 cm 巾 31 cm 総高 88 cm	高さ 47 cm 巾 30 cm 総高 57 cm	高さ 35 cm 巾 35 cm 総高 53 cm	高さ 40 cm 巾 33 cm 総高 55 cm	高さ 32 cm 巾 38 cm 総高 51 cm	方 量
安永 5	宝曆12	不 明	不 明	寛延元	明和 3	不 明	不 明	不 明	天保12	年 代
安永五歳申四月吉日 草葉	宝曆十二壬午季春	不 明		寛延元年辰十月吉祥日 □□□□	明和三丙戌八月吉日 道祖神 村内繁昌□		願主 狩野清七		天保十二丑年八月吉日	銘
										文
										備 考

赤城村

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
上三原田 日向	上三原田 地藏塚	上三原田 甲八六二	上三原田 大門	滝沢 一五七	見立 前原	北上野 小平	溝呂木 諏訪神社	持柏木 極楽院	持柏木 極楽院	所在地
高さ 44 cm 巾 69 cm 総高 61 cm	高さ 75 cm 巾 79 cm 総高 95 cm	高さ 52 cm 巾 32 cm 総高 77 cm	高さ 41 cm 巾 28 cm 総高 90 cm	高さ 43 cm 巾 40 cm 総高 56 cm	高さ 51 cm 巾 36 cm 総高 65 cm	高さ 36 cm 巾 36 cm 総高 54.5 cm	高さ 63 cm 巾 41.5 cm 総高 91 cm	高さ 31 cm 巾 31 cm 総高 49 cm	高さ 35 cm 巾 40 cm 総高 56 cm	方量
文化12	文化9	明和6	明和元	宝暦14	不明	寛延4	嘉永4	不明	不明	年代
文化十二乙亥年十一月吉祥日	文化九壬申年十一月吉日蓮中	明和六己丑八月吉日	明和元年甲申九月吉日 道祖神 施主 当所中	宝暦十四甲申歳四月吉辰 施主 卅一人	〇年〇月 見立村	寛延四年未十一月吉日	嘉永四辛亥歳三月吉日 願主 南雲福操	〇天〇吉日 村中子供 敬白	道祖神 〇三戌年初冬吉辰	銘文
				宝暦十四年六月二日明和と改元		寛延四年十月二十七日宝暦と改元				備考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
津久田(二区) 卒立	津久田(二区) 北坂	津久田(二区) 八幡	津久田(二区) 二六六の二二	津久田(二区) 三四三四の四	樽 舟戸	樽 八幡宮	樽 八幡宮	三原田 八幡宮	上三原田 (仲坪)	所在地
高さ 166 cm 巾 40 cm 総高 177 cm	高さ 87 cm 巾 35 cm 総高 137 cm	高さ 48 cm 巾 22 cm 総高 48 cm	高さ 104 cm 巾 69 cm 総高 128 cm	高さ 54 cm 巾 24 cm 総高 59 cm	高さ 33 cm 巾 28 cm 総高 59 cm	高さ 51 cm 巾 32 cm 総高 54.5 cm	高さ 35 cm 巾 30 cm 総高 50 cm	高さ 40 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 56 cm 巾 40 cm 総高 91 cm	方量
文化11	安永7	文久4	文化15	明和3	宝暦10	宝暦6	宝暦5	宝暦4	不明	年代
奉安置道祖尊神 文化十一年甲戌八月吉日	道祖神 安永七年戊七月吉日	道祖神 文久四年甲子正月吉日子供中	道祖神 毘毛躰雲外史清成書 文化十五年戊寅孟陝 津久田村	道祖神 平八・弥七・源助・熊八 明和三歳丙戌八月日	宝暦十年四月吉日	宝暦六丙子正月吉祥日	宝暦五乙亥十二月吉日 願主角田氏	宝暦四圍戌天十月吉辰		銘文
										備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
敷島 堀之内	敷島 五八三の二	敷島 八〇一	津久田(四区) 安城	津久田(四区) 二八の一	津久田(四区) 二七八五	津久田(四区) 安城一六一五	津久田(三区) 小池原	津久田(三区) 華藏寺	津久田(二区) 六万	所在地
高さ 44 cm 巾 22 cm 総高 44 cm	高さ 100 cm 巾 70 cm 総高 140 cm	高さ 57 cm 巾 24 cm 総高 67 cm	高さ 114 cm 巾 58 cm 総高 114 cm	高さ 67 cm 巾 26 cm 総高 67 cm	高さ 48 cm 巾 23 cm 総高 65 cm	高さ 56 cm 巾 38 cm 総高 71 cm	高さ 94 cm 巾 61 cm 総高 114 cm	高さ 100 cm 巾 47 cm 総高 100 cm	高さ 120 cm 巾 37 cm 総高 120 cm	方量
文政 9	天明 3	宝暦 14	不 明	慶応 2	文化 10	寛政 8	慶応 2	文政 元	文政 3	年代
道祖神  文政九丙年十二月吉日	道祖神  天明三年癸卯八月良辰 当邑	道祖神 宝暦十四甲申年卯月吉日 持津山岸中谷吉子供中	道祖神	道祖神  慶応二寅年三月吉日	道祖神  願主 狩野松四郎 文化十酉十月日	道祖神 寛政八丙辰天 狩野長兵衛	道祖神  慶応二丙寅三月吉日 小池原 子供中	道祖神  文政元戊寅歲子	道祖神 文政三庚辰歲弥生良辰 当邑小子輩連茲印謹書	銘  文
										備考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
諏訪神社	北上野 小平	溝呂木 諏訪神社	棚下 十二宮	長井小川田(八区) 久保坂	長井小川田(七区) 四九一	長井小川田(七区) 一四一一	長井小川田(七区) 藤木稻荷様	長井小川田(六区) 清水	敷島 堀之内	所在地
高さ 62 cm 巾 25 cm 総高 95 cm	高さ 61 cm 巾 29 cm 総高 61 cm	高さ 48 cm 巾 24 cm 総高 53 cm	高さ 101 cm 巾 43 cm 総高 152 cm	高さ 95 cm 巾 65 cm 総高 135 cm	高さ 105 cm 巾 63 cm 総高 105 cm	高さ 130 cm 巾 67 cm 総高 176 cm	高さ 101 cm 巾 42 cm 総高 142 cm	高さ 113 cm 巾 80 cm 総高 113 cm	高さ 44 cm 巾 22 cm 総高 44 cm	方量
明和 4	不 明	文久 2	天保 3	安永 5	文久 4	弘化 2	文化 4	元治 2	文政 9	年代
道祖神  明和四歳亥十月吉日	道祖神	道祖神  文久二壬戌歲九月吉日 法印舜盛書	道祖神  天保三壬辰年霜月大吉辰 子供中	道祖神 安永五年丙申中秋良辰 小子輩建	道祖神  文久四甲□正月小川田□	道祖神  弘化二乙巳歲獵月吉日 上南雲小供連	道祖神  文化四丁卯年六月吉日 子供中	道祖神 元治二乙丑年正月吉日 清水子供中	道祖神 文政九丙戌年四月吉日 願主 長尾氏	銘  文
	行書 体									備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
三原田 八幡峰	三原田 観音堂	三原田 八幡宮	三原田 八幡宮	三原田 八幡宮	上三原田 仲坪	上三原田 八幡宮	滝沢 御所谷戸	見立 仲井	見立 上大窪	所在地
高さ 42 cm 巾 19 cm 総高 57 cm	高さ 30 cm 巾 18 cm 総高 30 cm	高さ 84 cm 巾 40 cm 総高 125 cm	高さ 88 cm 巾 37 cm 総高 123 cm	高さ 178 cm 巾 87 cm 総高 286 cm	高さ 64 cm 巾 40 cm 総高 93 cm	高さ 74 cm 巾 32 cm 総高 137 cm	高さ 37 cm 巾 30 cm 総高 45 cm	高さ 80 cm 巾 41 cm 総高 80 cm	高さ 44 cm 巾 33 cm 総高 44 cm	方量
不明	不明	文久2	文政3	寛政12	不明	天明2	文化12	不明	不明	年代
道祖神	道祖神	道祖神 文久二戌年正月良辰	道祖神 文政三庚辰歲四月大吉祥日	道祖神 寛政十二庚申秋九月吉辰 村中	道祖神	道祖神 天明二寅歲九月吉祥日	道祖神 文化十二乙亥年十二月吉日 願主諸田左兵衛	道祖神	道祖神 見口鳥山園	銘 文
		行書体		行書体		行書体	行書体	行書体	行書体	備考

67	66	65	64	63	62	61	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
宮 不動堂	宮 大島	宮 北田	宮 不動	樽 八幡宮	樽 舟戸	三原田 八幡峰	所在地
高さ 55 cm 巾 50 cm 総高 55 cm	高さ 47 cm 巾 26 cm 総高 47 cm	高さ 40 cm 巾 22 cm 総高 44 cm	高さ 67 cm 巾 29 cm 総高 82 cm	高さ 88 cm 巾 40 cm 総高 88 cm	高さ 103 cm 巾 82 cm 総高 103 cm	高さ 101 cm 巾 24 cm 総高 122 cm	方量
寛政10	寛政元	安永4	安永4	弘化5	文化7	不明	年代
道祖神 当所小供輩造之 寛政十戌□年	道祖神 寛政元己酉九月	道祖神 安永四年 仲秋吉日	道祖神 施主□邑中 安永四年乙未十月	道祖神 弘化五戊申正月吉日 子供連	道祖神 文化七年歲次庚午 孟春吉日当所無幻道人	道祖神	銘 文
							備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
時沢 神 社 境 内	時沢 神 社 境 内	時沢 神 社 境 内	時沢 神 社 境 内	白河 神 社 境 内	白河 神 社 境 内	時沢 中 島 甚 太 夫	時沢 中 島 諏 訪	時沢 中 島 諏 訪	米野 大 聖 寺 門 先	所 在 地
高さ 120 cm 巾 60 cm 総高 140 cm	高さ 54 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 43 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 86 cm 巾 55 cm 総高 11.5 cm	高さ 85 cm 巾 48 cm 総高 110 cm	高さ 67 cm 巾 49 cm 総高 98 cm	高さ 30 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 44 cm 巾 28 cm 総高 50 cm	高さ 78 cm 巾 36 cm 総高 57 cm	方 量
寛保13	宝暦5	延享2	明和6	安永2	寛政3	不 明	不 明	不 明	不 明	年 代
神 祖 神 天保十三年壬寅年十一月 新道供養	(双 体 像) 宝暦五乙亥六月 願主和佐田氏	(双 体 像) 延享二年十月	(双 体 像) 明和六丑十月吉日	道 祖 神 安永二癸巳仲冬吉日	(双 体 像) 寛政三亥十月吉日	道 祖 神	(双 体 像)	(双 体 像)	(双 体 像) 正月吉日	銘  文
⑤ 道 供 養						仰 あ り 耳 だ れ 神 の 信	文 等 不 明 風 化 甚 し く 銘	文 等 不 明 風 化 甚 し く 銘	文 等 不 明 風 化 甚 し く 銘	備 考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤
横 室 十 二 山	横 室 十 二 山	横 室 十 二 山	横 室 荒 井	横 室 沢 口 不 動 堂 跡	横 室 沢 口 不 動 堂 跡	横 室 沢 口 不 動 堂 跡	時 沢 徳 沢 観 音 堂 境 内	原 之 郷 九 十 九 山	原 之 郷 九 十 九 山	所 在 地
高さ 75 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 49 cm 総高 80 cm	高さ 72 cm 巾 48 cm 総高 95 cm	高さ 48 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 40 cm 巾 28 cm 総高 55 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 70 cm	高さ 80 cm 巾 46 cm 総高 90 cm	高さ 58 cm 巾 45 cm 総高 68 cm	高さ 94 cm 巾 50 cm 総高 113 cm	高さ 118 cm 巾 45 cm 総高 cm	方 量
不 明	寛政元	安永7	明和6	寛政5	天明7	不 明	宝暦7	安政3	寛政元	年 代
道 祖 神  都 丸 氏	道 祖 神 寛政元己酉年八月	道 祖 神 安永七戊戌年	(双 体 像) 明和六己丑年霜月六日	道 祖 神 寛政五丑年六月	道 祖 神 天明七丁巳八月	道 陸 神	(双 体 像) 宝暦七年二月二十四日	道 祖 神 安政三辰歳三月吉祥日 願主子供中	道 祖 神 寛政元己酉四月吉日 岡講中	銘  文
										備 考

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	
小暮梶谷	石井樺沢	石井樺沢	石井二区 井野家裏	米野 十字路西方	横室 十二山	石井二区 空薬師境内	田島 赤城神社	山口 樺沢家前	引田 神明宮境内	所在地
高さ 50 cm 巾 90 cm 総高 110 cm	高さ 70 cm 巾 53 cm 総高 95 cm	高さ 67 cm 巾 50 cm 総高 70 cm	高さ 69 cm 巾 40 cm 総高 110 cm	高さ 66 cm 巾 46 cm 総高 110 cm	高さ 75 cm 巾 38 cm 総高 110 cm	高さ 58 cm 巾 28 cm 総高 75 cm	高さ 85 cm 巾 80 cm 総高 135 cm	高さ 42 cm 巾 31 cm 総高 70 cm	高さ 42 cm 巾 25 cm 総高 67 cm	方量
不明	天保10	安永4	寛政9	天明4	天明8	寛政8	安政4	安政4	不明	年代
	道祖神 天保十己亥年月吉日	道祖神 安永四乙未年十一月吉祥日	神祖神 寛政九丁巳尺十一月吉祥日 施主九名	天明四甲辰年十一月吉日 柳井氏	道祖神	寛政八丙辰年八月吉日 施主小保方氏	道祖神 安政四丁巳年正月吉日	安政四丁巳年十二月吉日 樺沢六右衛門	道祖神	銘
										文
										備考

39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	㊸	
市之木場笠口 墓地内	横室 稚蚕飼育所裏	時沢東区 公民館裏	横室寄居 薬師堂跡	横室寄居 薬師堂跡	横室寄居 薬師室跡	横室寄居 薬師堂跡	石井小原目 八幡神社境内	小暮梶谷辻 池田氏宅	所在地
高さ 59 cm 巾 43 cm 総高 68 cm	高さ 52 cm 巾 31 cm 総高 68 cm	高さ 81 cm 巾 43 cm 総高 110 cm	高さ 75 cm 巾 35 cm 総高 110 cm	高さ 65 cm 巾 49 cm 総高 80 cm	高さ 75 cm 巾 37 cm 総高 110 cm	高さ 72 cm 巾 48 cm 総高 95 cm	高さ 61 cm 巾 29 cm 総高 70 cm	高さ 57 cm 巾 34 cm 総高 91 cm	方量
正徳4	不明	寛政10	天明8	寛政元	不明	宝永7	安永4	宝暦10	年代
天明四甲午八月吉日	道祖神	寛政十年八月吉祥日 池之谷戸	道祖神 天明八申十二月	道祖神 寛政元己酉四月	道祖神	道祖神 宝永七戊戌七月	道祖神 安永四未霜月十六日 中島氏	(双体像) 宝暦十 七月	銘
									文
									備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形	大胡町
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	③	②	①	⑩	所在地
近戸神社入口	河原浜 心昌寺入口	堀越一丁目 (二差路)	堀越字関替戸	横沢字新井 横沢牧場入口	新井公民館境内	滝窪八柱 神社入口	横沢字前原	横沢字向山	上大屋観音堂		
高さ 110 cm 巾 76 cm 総高 cm	高さ 58 cm 巾 28 cm 総高 66 cm	高さ 87 cm 巾 35 cm 総高 113 cm	高さ 85 cm 巾 33 cm 総高 113 cm	高さ 73 cm 巾 50 cm 総高 90 cm	高さ 86 cm 巾 56 cm 総高 97 cm	高さ 120 cm 巾 67 cm 総高 152 cm	高さ 80 cm 巾 75 cm 総高 88 cm	高さ 85 cm 巾 55 cm 総高 96 cm	高さ 68 cm 巾 45 cm 総高 92 cm		方量
不明	文化9	寛政9	文化9	不明	文政5	文政6	不明	不明	文化3		年代
道祖神	文化九壬申十一月吉日 高岡 向屋舗	道祖神 寛政九丁巳年(裏)当村中 十一月吉日	道祖神 文化第九壬申 仲冬大吉辰	道祖神	道祖神 文政五年壬午 仲冬吉祥日 藤賢和敬書	道祖神 文政六癸未天 十二月大吉日 □組	道祖神	道祖神	文化三丙寅年 十一月吉日 当村中		銘 文
											備考

17	16	15	14	13	12	11	番形
⑩	⑨	⑧	⑦	⑥	⑤	④	⑩
足軽町勝山	足軽町勝山	足軽町 龍性寺境内	上ノ町公民館	茂木字山前	樋越 消防署東隣 の広場	河原浜小林商店	所在地
高さ 40 cm 巾 26 cm 総高 cm	高さ 84 cm 巾 58 cm 総高 104 cm	高さ 84 cm 巾 43 cm 総高 106 cm	高さ 123 cm 巾 38 cm 総高 140 cm	高さ 87 cm 巾 53 cm 総高 cm	高さ 70 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 83 cm 巾 80 cm 総高 cm	方量
不明	安永10	安政3	不明	寛政7	天保11	文化9	年代
	足軽町中 安永十辛 丑三月日	道祖神 安政三丙辰三月吉日講中	軌祖神 當所 河片嶋源七 包実	寛政七卯年 十一月吉日 (台) 三屋中	道祖神 庚 天保十一年 子 三月吉祥日 村中	文化九壬申十一月吉日 村中	銘 文
						頭部にペンキ 塗られている	備考



勢多郡宮城村

5	4	3	2	1	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
馬場 八坂神社	苗ヶ島 金剛寺	市之関 住吉神社	市之関 住吉神社	柏倉 東昌寺東	所在地
高さ 106 cm 巾 82 cm 総高 167 cm	高さ 54 cm 巾 40 cm 総高 81 cm	高さ 122 cm 巾 76 cm 総高 122 cm	高さ 111 cm 巾 63 cm 総高 111 cm	高さ 73 cm 巾 75 cm 総高 116 cm	方量
宝暦 6	寛政 5	天保 9	不 明	天明 5	年代
↓ 道陸神 願主 願主 敬白 霜月吉日	寛政五丑八月吉日 詮乘	道祖神 嵯天保九壬甲年 二月吉日	道祖神 十一月吉日 寛政□□	⊗ 天明五己歲 十一月吉日講中	銘
	おこそ頭布				文
					備考

粕川村

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
月田・かじや	月田・戸井	月田・戸井	月田・戸井	粕川女瀨 上田享完地 (旧天神社跡)	室 第一稚蚕 飼育所前	膳 宮崎晴美宅内	膳 集荷所前	中 伊恩田	田 東田面	所在地
高さ 51 cm 巾 38 cm 総高 63 cm	高さ 59 cm 巾 39 cm 総高 83 cm	高さ 48 cm 巾 28 cm 総高 48 cm	高さ 56 cm 巾 40 cm 総高 77 cm	高さ 146 cm 巾 85 cm 総高 188 cm	高さ 90 cm 巾 45 cm 総高 133 cm	高さ 100 cm 巾 59 cm 総高 133 cm	高さ 73 cm 巾 52 cm 総高 133 cm	高さ 121 cm 巾 70 cm 総高 150 cm	高さ 88 cm 巾 50 cm 総高 118 cm	方量
不 明	文化 5	不 明	天明 9	天保 2	天保 3	弘化 2	弘化 5	弘化 2	寛政 12	年代
天下泰平 国土安稔	道祖神 文化五辰年 願主 真下よし子 九月九日	道祖神	天明九己酉年 二月十五日	道祖神 天保二 竹沢村石工 佐吉	道祖神 天保三壬辰	道祖神 弘化二年己巳年十二月吉日	道祖神 弘化五次戊申三月	道祖神 弘化二乙巳年四月吉日中村	道祖神 寛政十二年庚申初夏吉日	銘
				他に天明天保 (三基併立)					篆 書 体	文
										備考

新里村

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
稻宅廻	中寺後	深津近戸	新屋	深津三ヶ尻	深津天王八坂神社	室沢・安通	室沢・洞	月田富士ノ宮	室沢・茂呂木	
高さ 38 cm 巾 37 cm 総高 480 cm	高さ 64 cm 巾 43 cm 総高 74 cm	高さ 115 cm 巾 70 cm 総高	高さ 97 cm 巾 62 cm 総高 128 cm	高さ 170 cm 巾 140 cm 総高	高さ 130 cm 巾 70 cm 総高 150 cm	高さ cm 巾 37 cm 総高 48 cm	高さ 30 cm 巾 18 cm 総高 60 cm	高さ 90 cm 巾 60 cm 総高 110 cm	高さ 40 cm 巾 67 cm 総高 130 cm	方量
不明	不明	不明	天保4	不明	文政11	明和3	不明	天明5	不明	年代
	天明□□	道祖神 □齋□□拜書團□ 組合	道祖神 天保四年秋	石工高遠産馬場住井上源治 天保□□	道祖神 文政十一 当処中	道祖神 明和三年七月十日	道祖神	道祖神 天明五年	道祖神	銘
										文
				彫りくほめて浮 した双体						備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	㊤	所在地
山上町組	山上町組	山上高縄	奥沢神社沢田	鶴ヶ谷四辻屋	大久保	大久保	高泉	板橋	関前不動	
高さ 98 cm 巾 44 cm 総高 cm	高さ 108 cm 巾 76 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 24.5 cm 総高 cm	高さ 75 cm 巾 70 cm 総高 cm	高さ 125 cm 巾 95 cm 総高 cm	高さ 100 cm 巾 26 cm 総高 cm	高さ 77 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 48 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 82 cm 巾 35 cm 総高 cm	高さ 160 cm 巾 60 cm 総高 cm	方量
元文2	天保15	文化4	不明	嘉永7	不明	不明	寛保3	不明	弘化3	年代
奉造立道陸神 元文二丁巳歳四月吉日 山上町施主相田勘七	道祖神 天保十五甲午辰吉日 町中	道陸神 文化四丁戊午年七月吉日	道祖神	道祖神 嘉永七甲寅歳寿吉辰 土橋講中	猿田命天鈿女命	道祖神	寛保三	道祖神 左 深沢 右 粕川	道祖神 弘化三丙午四月	銘
								道標		文
										備考

新里村

14	13	12	11	番形
㊦	㊦	㊦	㊦	所在地
藤生沢	小林	常寺境内天立	常広寺境内	所在地
高さ 46 cm 巾 27 cm 総高 cm	高さ 135 cm 巾 66 cm 総高 cm	高さ 106 cm 巾 110 cm 総高 cm	高さ 125 cm 巾 93 cm 総高 cm	方量
寛政 7	弘化 2	不 明	天保 10	年代
道祖神 寛政七十一年	道祖神 弘化二乙暮 春吉日	道祖神	道祖神 天保十〇年 二月吉辰 本町中	銘
				文
				備考

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形	黒保根村
㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	㊦	所在地	所在地
下田沢前田原 下原道上	下田沢津久瀬 県道右	柏山 大笠	柏山 打切り	下田沢鹿角 旧道入口	上田沢沢入 下組天王境内	上田沢沢入 天王境内	涌丸松山 松島宅東	古谷中原 道陸神橋	八木原 塩沢峠道端	所在地	所在地
高さ 47 cm 巾 22 cm 総高 77 cm	高さ 52 cm 巾 21 cm 総高 68 cm	高さ 62 cm 巾 46 cm 総高 cm	高さ 76 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 25 cm 総高 77 cm	高さ 67 cm 巾 22 cm 総高 92 cm	高さ cm 巾 47 cm 総高 80 cm	高さ cm 巾 38 cm 総高 65 cm	高さ cm 巾 32 cm 総高 69 cm	高さ cm 巾 cm 総高 cm	方量	方量
文政 3	文政 5	不 明	安永 5	文化 7	寛政 3	天明 3	寛政 3	安永 8	不 明	年代	年代
道祖神 深沢善蔵 文政三辰年七月大吉日	道祖神 文政五壬子二月吉日 当所 井出清兵衛		安永五申天□□□ 願主 遠藤十右エ門	道祖神 文化七庚午年五月吉日 鹿角村新井勇右エ門	道祖神 寛政三辛亥年 願主(七名略) 五月吉日	月 日 道祖神 天明三卯四月日 尾池氏	(梵) 寛政三亥四月吉日 施主神山源兵衛	乙亥安永八年 八月吉日 石工 惣村中 新五郎	道祖神	銘	銘
兜布型	兜布型	擁肩、握手	握手、光背型	兜布型	兜布型	自然石	酒光 器背 持型	光酒 背器 持型	自然石	文	文
										備考	備考

12	11	番形
㊦	㊧	
下田沢出合原 星野家裏	宿廻川口 笹後	所在地
高さ 55 cm 巾 25 cm 総高 64 cm	高さ 64 cm 巾 62 cm 総高 83 cm	方量
文政 7	不 明	年代
道祖神		銘
申九月吉日	文政七年	文
兜布型	攤肩、握手、 縄で結びあ う、自然石	備考

9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形	勢多郡東村
㊦	㊧	㊨	㊩	㊪	㊫	㊬	㊭	㊮		
大字沢入 黒坂石	大字沢入 黒坂石	大字沢入 大沢寺境内	大字沢入 名越	大字沢入 亀井氏墓地内	大字草木 八沢手前国道	大字草木 高常寺境内	大字草木 高常寺境内	大字神戸 太郎神社境内	所在地	
高さ 56 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 24 cm 巾 12 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 34 cm 総高 cm	高さ 66 cm 巾 26 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 cm	高さ 91 cm 巾 31 cm 総高 cm	高さ 62 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 33 cm 総高 cm	方量	
天保 5	明和 2	不 明	不 明	宝曆 7	不 明	不 明	不 明	明和 3	年代	
道祖神 八月吉日 天保五年	明和二乙酉七月十七日 施主黒坂石			宝曆七丁丑 八月吉日		道祖神		明和三丙戌祀生 七月十五日大録薩	銘	
自然石				単体	祝言形	位牌形			文	
									備考	

榛名町

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
下里見中通り	下里見 北村墓地入口	下里見 重谷戸三差路	下里見八丁目	上大島 中川原橋南	上大島 中川原橋南	上大島 六五四―二 中川原橋南	上大島 中央部四ツ角 小川端	上大島 北村前東	上大島東三差路	所在地
高さ 65 cm 巾 47 cm 総高 95 cm	高さ 58 cm 巾 33 cm 総高 125 cm	高さ 60 cm 巾 70 cm 総高 70 cm	高さ 51 cm 巾 36 cm 総高 70 cm	高さ 83 cm 巾 53 cm 総高 95 cm	高さ 38 cm 巾 24 cm 総高 45 cm	高さ 75 cm 巾 45 cm 総高 95 cm	高さ 142 cm 巾 106 cm 総高 175 cm	高さ 52 cm 巾 37 cm 総高 85 cm	高さ 95 cm 巾 45 cm 総高 115 cm	方量
不明	享和2	不明	不明	不明	不明	文政6	明和3	享保3	安永7	年代
	享和二〇〇		〇〇〇月吉日	道祖神 正月吉日		道祖神 文政六季〇 亥津吉日	道祖神 明和三丙戌歳 正月吉日	享保三年 戌戌十一月吉日	道祖神 安永七戌戌年 孟夏吉日	銘
風化	坐像、風化	坐像	舟形、握手	自然石	磨耗双体坐像	自然石	自然石	風化 中部折損跡あり	自然石	備考

20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
川畔 中里見井ノ下	中里見井ノ下 三差路	中里見根岸	中里見十王堂 以和貴堂庭	中里見十王堂 墓地	中里見根岸 路傍	下里見宮谷戸西	下里見宮谷戸 公民館前	下里見向井	下里見向井 井ノ下入口 三差路	所在地
高さ 40 cm 巾 28 cm 総高 60 cm	高さ 82 cm 巾 55 cm 総高 120 cm	高さ 50 cm 巾 37 cm 総高 90 cm	高さ 55 cm 巾 41 cm 総高 80 cm	高さ 55 cm 巾 45 cm 総高 85 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 80 cm	高さ 52 cm 巾 36 cm 総高 82 cm	高さ 38 cm 巾 32 cm 総高 45 cm	高さ 45 cm 巾 25 cm 総高 65 cm	高さ 80 cm 巾 80 cm 総高 110 cm	方量
不明	文久2	不明	寛保3	延享元	延享元	不明	不明	不明	不明	年代
	道祖神 文久二壬戌正月日		寛保三癸亥年三月吉日	甲子延享元年 七月日	奉納 延享元年 施主 甲子七月大吉日村中					銘
握手擁肩	半加工石	接吻像、風化	舟 擁肩 握手形	下部地中 握手、舟形	舟 擁肩 握手形	磨 擁肩、 握手 耗	風化	合掌坐像舟形	直徑五五センチ 円形くりぬき 酒器持	備考

榛名町

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
上里見神山下町 忠霊塔入口	上里見新井 三又	上里見吹合 道端	上里見田中 小学校裏	中里見中川 泉福寺北方	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見塚崎 泉福寺前	中里見井ノ下 川端	所在地
高さ 57 cm 巾 37 cm 総高 80 cm	高さ 56 cm 巾 36 cm 総高 75 cm	高さ 60 cm 巾 34 cm 総高 80 cm	高さ 59 cm 巾 46 cm 総高 80 cm	高さ 35 cm 巾 25 cm 総高 55 cm	高さ 88 cm 巾 80 cm 総高 115 cm	高さ 105 cm 巾 48 cm 総高 125 cm	高さ 61 cm 巾 42 cm 総高 80 cm	高さ 45 cm 巾 38 cm 総高 65 cm	高さ 100 cm 巾 60 cm 総高 125 cm	方量
不明	不明	不明	延宝4	不明	寛政6	不明	元文2	不明	文化2	年代
			延宝四丙辰年 十一月吉日		道祖神 寛政六甲寅年 正月大吉旦		元文丁巳年 道陸神南村組		道祖神 文化二年 乙丑二月日 当村	銘文
風化甚	破風形、合掌	接吻像 風化、抱擁	握手、風化(町料) 指定民俗資	舟形、風化	自然石	直径四一センチ 円中献酬形	舟形、握手	擁肩、握手	行書体 自然石	備考

40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊙	⊙	⊗	番形
上里見保古里 墓地前	上里見藤平 天狗山 旧道わき	上里見上神	上里見 神山十王堂	上里見 神山十王堂	上里見 神山中町北	上里見 神山中町北	上里見神山北裏 道祖神場三差路	上里見神山北裏 道祖神場三差路	上里見下町忠霊 塔入口	所在地
高さ 59 cm 巾 43 cm 総高 79 cm	高さ 50 cm 巾 48 cm 総高 70 cm	高さ 52 cm 巾 35 cm 総高 68 cm	高さ 50 cm 巾 38 cm 総高 70 cm	高さ 62 cm 巾 46 cm 総高 80 cm	高さ 62 cm 巾 42 cm 総高 87 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 90 cm	高さ 36 cm 巾 35 cm 総高 60 cm	高さ 41 cm 巾 36 cm 総高 65 cm	高さ 50 cm 巾 27 cm 総高 75 cm	方量
不明	不明	不明	不明	宝曆2	不明	天保11	不明	不明	不明	年代
				宝曆二申年三月吉日 本町中		天保十一年 子五月吉日	(二神像)	(二神像)		銘文
舟形、擁肩 握手、	舟形、磨耗	駒形 握手、擁肩	風化頂部欠損	舟形、擁肩	舟形、磨耗 中部折損痕跡	舟形、銚持 並立	風道祖神として 祀る	風道祖神として 祀る	風化、立像	備考

50	49	48	47	46	45	44	43	42	41	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
本郷後側	本郷下長 三叉路	本郷蔵屋敷川畔	本郷本郷神社	上里見本庄中央左 道わき	上里見間野薬師 堂庭	上里見間野 堀割北上	上里見間野堀割	上里見間野多胡 神社参道中段	上里見谷力沢 公会堂南	
高さ 68 cm 巾 38 cm 総高 88 cm	高さ 106 cm 巾 65 cm 総高 125 cm	高さ 92 cm 巾 44 cm 総高 120 cm	高さ 73 cm 巾 44 cm 総高 88 cm	高さ 54 cm 巾 33 cm 総高 54 cm	高さ 90 cm 巾 42 cm 総高 125 cm	高さ 55 cm 巾 46 cm 総高 80 cm	高さ 64 cm 巾 40 cm 総高 84 cm	高さ 66 cm 巾 41 cm 総高 85 cm	高さ 60 cm 巾 39 cm 総高 75 cm	方量
慶応2	安永4	安永5	不明	不明	文化15	寛政6	不明	文化4	宝暦5	年代
道祖神 蘭洲川島達拜書	道祖神 未臘月吉晨 安永四年	道祖神 丙申八月吉晨 安永五年	道祖神 □□十□歳 村中		干時文化拾五 <sup>戊寅</sup> 歳 四月吉日 間野村中	道祖神 寛政六年 寅八月吉日		文化四卯年 十二月吉日	宝暦五乙亥八月吉日	銘文
自然石		自然石	風化磨耗甚	合掌併立? 風化磨耗甚	酒器持併立	直徑三六センチ 宝珠形 中に文字刻	握舟 手形	舟形 酒器持併立	破風形 擁肩、酒器持	備考

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
三ツ子沢 諏訪神社境内	三ツ子沢 諏訪神社境内	三ツ子沢板堂	神戸公会堂わき	神戸公会堂わき	本郷鳴入口 三差路	本郷東	本郷東	本郷東	本郷奥原 榛名木戸神社入口	
高さ 57 cm 巾 20 cm 総高 cm	高さ 56 cm 巾 39 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 43 cm 総高 75 cm	高さ 55 cm 巾 38 cm 総高 80 cm	高さ 95 cm 巾 55 cm 総高 145 cm	高さ 77 cm 巾 42 cm 総高 95 cm	高さ 23 cm 巾 42 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 40 cm 総高 57 cm	高さ 101 cm 巾 45 cm 総高 118 cm	高さ 95 cm 巾 50 cm 総高 153 cm	方量
不明	不明	寛延4	不明	天明6	嘉永7	不明	不明	安永9	安永5	年代
衞祖神		寛延四辛未拾月吉晨		道祖神 天明六 <sup>丙午</sup> 歳九月 貸地造立之	道祖神 嘉永七年 寅正月吉日	道祖神		道祖神 安永九年庚子 九月吉祥日 本郷村	道陸神 丙申八月吉晨 奥原中 安永五年	銘文
台なし自然石	舟形、合掌 台なし	舟形、合掌	舟形	自然石		自然石	舟形、合掌	自然石	自然石	備考

榛名町

70	69	68	67	66	65	64	63	62	61	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
白岩大門三叉路	十文字東村神社入口	宮沢下金井原山王社入口	下宮沢三叉路	中宮沢新旧道交差路傍	上宮沢十文字道三叉路傍	宮沢中原中央路傍	宮沢中原中央路傍	上ツ子沢中原道旧道川畔	三ツ子沢諏訪社境内	所在地
高さ 55 cm 巾 33 cm 総高 95 cm	高さ 123 cm 巾 36 cm 総高 150 cm	高さ 102 cm 巾 81 cm 総高 130 cm	高さ 55 cm 巾 40 cm 総高 85 cm	高さ 45 cm 巾 26 cm 総高 65 cm	高さ 65 cm 巾 35 cm 総高 80 cm	高さ 53 cm 巾 30 cm 総高 70 cm	高さ 50 cm 巾 36 cm 総高 65 cm	高さ 60 cm 巾 47 cm 総高 80 cm	高さ 47 cm 巾 25 cm 総高 cm	方量
不明	天保15	文政10	明和4	寛延6	不明	不明	不明	慶応3	不明	年代
	八衢神 天保十五年 辰正月吉日 当村中世話人 飯野友右衛門	道祖神 文政十丁亥之仲冬 当郷中	明和四丁亥天 六月吉日	寛延元辰年十月日				道祖神 慶応三丁卯年正月	道陸神	銘文
一部欠損	隸書 自然石	行書 自然石	舟形、握手	舟形、握手	舟形	舟形、擁肩、握手	舟形、擁肩、握手	半加工石 行書体	台なし、自然石	備考

80	79	78	77	76	75	74	73	72	71	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	
高浜中西部	高浜中西部三叉路	高浜中西部旧道三叉路	高浜駒形神社境内	高浜遠北旧道三叉路	高浜遠北旧道	高浜東部竹内木材前	高浜東部八坂社わき墓地	高浜東部東北三叉路傍	白岩新田東坂路傍	所在地
高さ 95 cm 巾 100 cm 総高 120 cm	高さ 48 cm 巾 36 cm 総高 68 cm	高さ 74 cm 巾 57 cm 総高 100 cm	高さ 94 cm 巾 52 cm 総高 125 cm	高さ 155 cm 巾 75 cm 総高 180 cm	高さ 78 cm 巾 46 cm 総高 98 cm	高さ 97 cm 巾 32 cm 総高 120 cm	高さ 56 cm 巾 27 cm 総高 76 cm	高さ 56 cm 巾 34 cm 総高 150 cm	高さ 55 cm 巾 33 cm 総高 75 cm	方量
天明5	元禄5	安永7	明和8	慶応3	明和4	万延元	不明	寛政2	元禄14	年代
高浜村持主 天明乙巳年 九月吉祥日 木暮与五右衛門	元禄五壬申霜月吉日 奉持主 木暮与五右衛門	安永七戊戌歲 正月吉祥日 氏子	明和八年卯歲 正月吉日 氏子	慶応三丁卯天、正月吉祥辰 道祖神 氏子信心若干人 皇朝学士関橋守薫沐書	明和四年丁亥冬十一月 道祖神 応木暮氏求 関共寧書	堀内氏子中 万延元年申四月吉日 道祖神		寛政二戌天 七月吉日 施主与七	元禄十四辛巳 八月吉日 施主竹鼻数右衛門	銘文
	風化	ハート形円形	破風形 擁肩、握手	板状自然石	自然石	板状自然石	合掌併立 舟形	擁肩、握手 舟形	舟形、合掌	備考



90	89	88	87	86	85	84	83	82	81	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	
下室田 一五沢辻	下室田一五沢 入口三叉路	下室田 下村花見橋 下旧道	下室田下村 花見町	下室田 駒寄諏訪神 社石垣下	下室田 一五沢入口 三叉路	下室田後料	下室田手長田中	下室田 下手長バス停	高浜坂上旧道端	所在地
高さ 50 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 47 cm 巾 25 cm 総高 cm	高さ 81 cm 巾 80 cm 総高 100 cm	高さ 54 cm 巾 37 cm 総高 100 cm	高さ 52 cm 巾 37 cm 総高 75 cm	高さ 55 cm 巾 39 cm 総高 75 cm	高さ 46 cm 巾 32 cm 総高 65 cm	高さ 88 cm 巾 95 cm 総高 140 cm	高さ 85 cm 巾 62 cm 総高 110 cm	高さ 95 cm 巾 45 cm 総高 115 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	元文 5	不明	明和 5	明和 4	明和 4	年代
道 □ □	道祖神			(一神像)	元文五年 申十一月吉日		道祖神 明和五戊子天 十一月吉日 当村中	明和四丁亥天 十一月吉日	道祖神 明和四亥四月吉日	銘 文
下部地中 自然石	小判形	直径五五センチ 円形くりぬき 双神・立像 酒器持?	握手、擁肩	風化、磨滅立 像、道祖神と して祀る	舟形	握破風 手形	自然石	舟形、酒器持	新白岩道工事 の時移転	備考

100	99	98	97	96	95	94	93	92	91	番形
㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	㊥	
下室田宮谷戸 お堂墓地	下室田大森神社	下室田大日蔭	下室田大日蔭 墓地わき	下室田大日蔭 墓地わき	下室田 杉山三叉路傍	下室田下村 長年寺 百庚甲山入口	下室田 根古屋入口	下室田 根古屋入口	下室田花見町 丹後坂	所在地
高さ 102 cm 巾 84 cm 総高 130 cm	高さ 90 cm 巾 50 cm 総高 120 cm	高さ 39 cm 巾 25 cm 総高 59 cm	高さ 38 cm 巾 22 cm 総高 58 cm	高さ 57 cm 巾 37 cm 総高 80 cm	高さ 70 cm 巾 45 cm 総高 cm	高さ 80 cm 巾 67 cm 総高 125 cm	高さ 81 cm 巾 73 cm 総高 110 cm	高さ 61 cm 巾 39 cm 総高 80 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 cm	方量
安永 6	不明	不明	不明	不明	天保 13	文政 2	不明	不明	不明	年代
道祖神 西九月 安永六年					道祖神 天保十三年 九月吉辰	庚申塔 文政二年夏 道祖神 芦交寿書	道祖神 根古屋邑		(一神像)	銘 文
自然石	磨舟形、 風化 耗	風化	風化	酒舟器 持形	自然石倒れて いて裏面不明	自然石 庚申路	自然石	合舟 掌形	風化磨耗	備考

榛名町

110	109	108	107	106	105	104	103	102	101	番号
②	②	②	②	②	②	②	②	②	②	②
中室田東打越 堂南橋畔	中室田岩城 竜田神社	中室田坂爪 三差路	中室田 藤田三差路 墓地前	中室田 藤田三差路 墓地前	中室田大久保	中室田弁才	中室田谷津 三差路	下室田中村旧道 田中	下室田宮谷戸 お堂墓地	所在地
高さ 55 cm 巾 41 cm 総高 75 cm	高さ 75 cm 巾 64 cm 総高 120 cm	高さ 67 cm 巾 48 cm 総高 87 cm	高さ 65 cm 巾 55 cm 総高 85 cm	高さ 60 cm 巾 45 cm 総高 80 cm	高さ 52 cm 巾 38 cm 総高 90 cm	高さ 60 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 46 cm 巾 33 cm 総高 66 cm	高さ 47 cm 巾 34 cm 総高 67 cm	高さ 56 cm 巾 40 cm 総高 75 cm	方量
享保20	不明	延享元	享保5	不明	宝曆3	不明	不明	不明	不明	年代
享保二十年 乙卯四月吉日		延享元年甲子六月吉日	享保五年庚子六月吉日 藤田村		宝曆三四年		□(欠損) 八月吉日			銘
										文
舟形 握手、擁肩	リング彫 握手、擁肩	擁肩	舟形 握手	舟形 下部地中 握手、擁肩	舟形 握手	舟形 円形くりぬき 握手	舟形 握手	舟形、 握手	舟形 握手、擁肩	備考

120	119	118	117	116	115	114	113	112	111	番号
②	①	②	①	②	②	②	②	②	②	②
中室田大田 お堂墓地入口	中室田大和田 新旧三叉路	中室田大和田 新旧三叉路	中室田糖塚南 旧道	中室田糖塚南 旧道	中室田 銭神旧道	中室田碓原 公会堂前	中室田市和間 お堂墓地入口	中室田伏間 三差路	中室田伏間 三差路	所在地
高さ 57 cm 巾 36 cm 総高 80 cm	高さ 65 cm 巾 32 cm 総高 cm	高さ 60 cm 巾 42 cm 総高 90 cm	高さ 60 cm 巾 36 cm 総高 85 cm	高さ 65 cm 巾 42 cm 総高 90 cm	高さ 60 cm 巾 37 cm 総高 80 cm	高さ 54 cm 巾 34 cm 総高 75 cm	高さ 55 cm 巾 40 cm 総高 75 cm	高さ 60 cm 巾 40 cm 総高 85 cm	高さ 78 cm 巾 60 cm 総高 110 cm	方量
不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	享保6	享保3	不明	年代
	道祖神		道祖神				享保六年一月吉日	享保三年 六月吉日	宝曆□□□□一月吉日	銘
										文
舟形 風化文字不形 合掌併立	自然石 草書体	上部欠損 握手	自然石	舟形 握手擁肩	舟形 握手擁肩	舟形 合掌併立	舟形、笏持 合掌併立	舟形、風化 握手、擁肩	舟形、 握手、擁肩	備考

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
中室田木戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田木戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田木戸原琴平 宮庭(公会堂)	中室田又倉 旧道三叉路	中室田見谷戸 天満宮	中室田荻久保 十二社	中室田大林	中室田中尾根 庚甲塚	中室田江戸村 大山祇神社境内	中室田大田 お堂墓地入口	所在地
高さ 58 cm 巾 34 cm 総高 70 cm	高さ 52 cm 巾 36 cm 総高 70 cm	高さ 58 cm 巾 38 cm 総高 80 cm	高さ 66 cm 巾 50 cm 総高 86 cm	高さ 73 cm 巾 56 cm 総高 100 cm	高さ 64 cm 巾 45 cm 総高 85 cm	高さ 55 cm 巾 40 cm 総高 75 cm	高さ 57 cm 巾 42 cm 総高 78 cm	高さ 59 cm 巾 41 cm 総高 90 cm	高さ 46 cm 巾 33 cm 総高 65 cm	方量
不明	嘉永元	不明	宝暦7	寛政7	宝暦7	不明	不明	宝暦3	不明	年代
	嘉永元申年 四月吉辰		宝暦七年 丑十二月吉日	寛政七卯九月吉日	宝暦七歲丑 一月吉日			西四月日 宝暦三年 江戸村		銘文
風化、 磨耗	舟形、 握手	舟形、 握手	舟形、吻像 町指定民俗資料	リング彫 握手	舟形、 握手、 擁肩	風化、 舟形 握手	舟形、 擁肩	舟形、 握手	舟形、 合掌併立	備考

140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗
上室田、齊度 天満宮入口	上室田両庭 薬師堂庭	上室田梅ノ木	上室田和久 三叉路	上室田横之内 三叉路	中室田荒神 三叉路	中室田立足墓地 入口三叉路	中室田立足墓地 入口三叉路	中室田立足路	中室田又倉坂下 三叉路	所在地
高さ 62 cm 巾 36 cm 総高 80 cm	高さ 56 cm 巾 36 cm 総高 76 cm	高さ 50 cm 巾 34 cm 総高 70 cm	高さ 48 cm 巾 38 cm 総高 60 cm	高さ 53 cm 巾 34 cm 総高 75 cm	高さ 60 cm 巾 46 cm 総高 80 cm	高さ 51 cm 巾 42 cm 総高 65 cm	高さ 57 cm 巾 37 cm 総高 70 cm	高さ 66 cm 巾 41 cm 総高 95 cm	高さ 53 cm 巾 34 cm 総高 75 cm	方量
不明	安永8	宝暦5	享保7	不明	不明	不明	不明	不明	天保12	年代
	安永八巳亥年 四月吉日	宝暦五乙亥十一月吉日	享保七年壬寅十一月日 村中						天保十二辛丑□□□□	銘文
舟形、風化 握手	舟形、 酒器持	舟形、 擁肩、 握手	舟形下部地中 握手、擁肩	舟形、 握手、 擁肩	舟形、風化 握手擁肩		合舟 掌形	舟形、 合掌	舟形、 握手、 擁肩	備考

榛名町

150	149	148	147	146	145	144	143	142	141	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
上室田雨提原道 入口三叉路	上室田雨提原道 入口三叉路	上室田前大石 猿谷道入口	上室田新久沢 三叉路傍	上室田後大石 大石灯籠下	上室田涌沢 公会堂東方	上室田新屋 三叉路傍	上室田上中込 三差路	上室田榎之内 三叉路	上室田下中込 旧道三叉路	所在地
高さ 73 cm 巾 48 cm 総高 95 cm	高さ 85 cm 巾 38 cm 総高 110 cm	高さ 103 cm 巾 65 cm 総高 158 cm	高さ 65 cm 巾 55 cm 総高 cm	高さ 55 cm 巾 86 cm 総高 70 cm	高さ 95 cm 巾 65 cm 総高 cm	高さ 57 cm 巾 50 cm 総高 75 cm	高さ 61 cm 巾 47 cm 総高 85 cm	高さ 80 cm 巾 60 cm 総高 cm	高さ 49 cm 巾 32 cm 総高 60 cm	方量
不明	不明	寛政11	不明	不明	不明	宝暦12	安永2	不明	不明	年代
原・雨提	道祖神 原	道陸神 寛政十一乙未 竜次十月吉日 明神前願主 斉藤七良右衛門			道祖神 村中	宝暦十一年九月日	安永二(三)天 願主 源之助 九月吉日	(自然石)		銘文
舟形 擁肩手握り	自然石	自然石	双神刻 握手	舟形	中 自然石下部地	舟形、握手	双神立像 酒器持	道祖神場にあり	磨耗、破風 握手	備考

156	155	154	153	152	151	番形
⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	⊗	所在地
上室田前大石 三叉路	上室田本庄 発電所 用水路わき	上室田中戸 諏訪社跡参道	上室田中戸 諏訪社跡参道	上室田本庄 諏訪社境内前	上室田本庄 諏訪社境内前	所在地
高さ 56 cm 巾 34 cm 総高 71 cm	高さ 52 cm 巾 33 cm 総高 cm	高さ 43 cm 巾 30 cm 総高 cm	高さ 48 cm 巾 36 cm 総高 65 cm	高さ 55 cm 巾 48 cm 総高 cm	高さ 50 cm 巾 48 cm 総高 cm	方量
不明	不明	宝暦5	宝暦6	延享2	不明	年代
		宝暦五年 亥九月吉	宝暦六年 子十一月吉日	延享二乙丑天 七月廿一日 村中		銘文
舟形 擁肩握手	風化、握手	舟形、擁手	舟形 擁肩握手	破風、握手	合掌併立	備考